

を離れて、而かも此處に看過すべからざる著しき特色は、所謂正規的學科と、特殊的活动との同等なる時間配當の點である。一體、ゲリーリ學校に在つては、此の特殊作業なるものは、正規的學科と同じやうに正規的のものであり、正課なのであるからして、普通の公立學校に於ける如く、兎に角正課の附録といふやうなものは、全く其の趣を異にしたものである。而かも、ゲリーリ學校では、此の正規的學科の分量は決して普通の學校に於けるそれよりも少いことはない。何れにせよ、基本的なる各組の作業が平等の資格を以て協働參加して居る譯であるから、如何なる課目も蔑視されることなく、如何なる年齢も忽諾に附せられることはない。都市の兒童が、さもなければ兎角例の大通りや横町にて弊害多き時間を送つて居るのを、其の時間をば學校にて送らせるやうにし、従つて日々の在校時間を延長せしめた譯であるが、それが爲めに、兒童の諸方面の活動を十分に發揮させる機會を與へて居る次第である。

而かも、如何なる活動も疲勞を惹き起すほど長い時間打ち續けて遣ることがな

く、又、各方面の活動を日々間斷なく培養するところから、不斷の練習と徹底せる訓練とを獲得することになるのである。然るに、普通の學校では、日々の開校時間が短かく、それに學科目が徒らに過剰なる結果、餘儀なく、身體的諸活動の練習及び訓練を忽にするやうになつて居るのである。實に、斯かる教授日程は頗る合理的なる學校諸活動の割り當て方であると思はれるものであつて、教育原理上から觀て穩健なると同時に、教育技術の上から觀て、實に巧妙なるものと言はねばならない。蓋し、學校をば一個の公共的事業、公共的施設と認めて、之れを日々使用するところからして、ゲリーリ學校は通例收容される兒童の數の二倍丈けを收容し、且つ普通支給される設備の數の二倍丈けの働きを爲して居るのである。一體、總ての人々に萬遍なく支給されるから、換言すれば、公共物を公共使用するから、それで吾々各個人は莫大の利益を受ける譯である。そこで、『公衆——即ち集合的に吾々自身——が何故に、吾々が各自々銘々自分の爲に備へ付けることを得ざるものを、個人的に吾々各人の爲めに支給することが出来るかといふ、唯だ一つの理由は、吾々が集合的に、

諸々の設備を多種多様に使用することを確かに出来るからといふ點に存する。』

ゲリーリの學校は年中無休開校主義を採れるものである

扱て同一の經濟的學校經營の原則、而かも此の經濟なるものは、貧弱化せしめずして、創造せしむる底のものであるが、此の經濟の原則は、右の如くゲリーリ學校の日々のプログラムに適用されると同じやうに、又其の一年中の行事にも現はれて居るのである。ゲリーリの當局者は、學校を一ケ年二ヶ月乃至三ヶ月も使用せずに閉鎖せしめて置くことは、どうしても堪へ得られぬことであると考へた結果、此處に一年中無休開校の方針を實施しつゝある次第である。而して、此の方針は長期の夏期休業は常に都會の兒童の德育上弊害あるばかりではなく、教育的感化力の非常なる無駄であるといふ次第に一般の輿論となりかけて居る傾向にも合致するものである。唯だ、現在では、州の法律は此の一年中無休開校案の完全なる實施を妨げて居るので、ゲリーリ學校は現に規定の強制出席をば十ヶ月と爲し、尙ほ十週間だけ有志

のものに職業教育を施すことにして居るが、然し今や進んで各季十二週間宛のもの四季を編成せんと鋭意畫策中である。

一體、此の方案は視學ワート氏が未だゲリーリ市に來たざる以前、ブラフトンの學校にて大體類似のものが行はれたのである。即ち、此の一年四季編成の方案に據れば、生徒は四季の中、自由に選んで三季だけ學校に出席する義務があるが、残りの一季は、出席すると否とは全然任意と規定されて居るのである。ブラフトンに於ては、下級生徒の出席は一年中、夏季が他の如何なる季よりも多いといふことになつて居る。従來の學期編成に在つては、多數の兒童が、病氣及び天候の爲に冬季に於て缺席することは、到底避け難き次第である。然るに、此の四季編成の下に在つては、此等の兒童に割り當てられたる休暇は、實に此の缺席をも包含するやうに編成されるからして、斯くして、立派に三十六週の出席を完うすることを得る譯である。ワート視學は次の如く言つてゐる。曰く、『人は機會だに與へられて居るならば、いつでも同じ時に皆々一緒に通學すべき要のないことが分かる筈である。丁度同時に

人々が残らず旅行する必要がないのと同じ譯ではなからうか』と。

斯く、年中無休の學校に編成したところで、必ずしも維持經營の費用を増加することにはならない。何故といふに、教師一人の受持つ生徒の数が同一であるならば、從來の方案に従つて其の生徒を残らず一緒に三十六週間教授するにしても、又は、一學年四十八週を通じて、一時に生徒の唯だ四分の三丈けを教授するにしても、經費に變りがない筈だからである。

ゲリーリ案に依つて生み出される校舎建築上の經費節約

ゲリーリ學校に於ては、前に詳述せる如く、學校諸設備を多種多様に使用して居るが、斯くして生み出せる經費の節約は、頗る大なるものであつて、苟くもゲリーリ案なる一種特別なる教育上のあらゆる特色的施設を整備する爲めの十分の資金を供することになつて居るのである。而して、經費の節約は、第一に建築上、第二に運用及び維持上、第三に教授上の三方面にあらはれる。今順次之れを説明して行かう。

校舎建築上丈けの經費節約でも非常に莫大なものである。一體、ゲリーリ學校は例の二重學校案に據つて、一個の校舎に二個の完全なる學校が收容され得るやうになつて居るのであるから、従つて、學校諸設備の数が非常に減ぜられ得る譯である。そこで、ゲリーリ案から觀れば、現に學校兒童の過多の問題に苦しめられて居る都市は學校の数が少な過ぎるのではなくして、却つて實際には學校の数が多過ぎるといふ、一種逆理的なる境遇に居るものと見えるのである。換言すれば、學校の数が、過多の兒童を容るゝには餘りに少な過ぎる譯ではなく、其の實、ゲリーリ案から見れば、却つて餘計過ぎるといふ譯である。即ち、ゲリーリ案に據りさへすれば、もつと少いそしてもつと優良な學校設備の中に、此等の兒童を收容することが出来るのである。尙ほ、現在に於てはゲリーリ學校は、現に收容されて居る兒童以上に多數の兒童が使用する丈けの設備を持つて居ること、而かも、急激なる人口の増加するにも拘はらずさうであるといふことを、此處に特記し置かねばならない。

ゲリーリ案を標準單位とせる校舎を多數建築するのは、小學校型の普通の校舎を、

而かも遙かに多數建築するよりも經費がかゝらない。何故といふに、建築費は校舎の大きさに従つて増加するものでなく、又、所要の敷地が小なれば、従つて非常の經費節約が出来るからである。ゲリーリ學校に於ける教室の数の少いのは、明白なる經濟の原因であるが、これ即ち、教室が一般に學校設備の中、最も入費のかゝる部分であるといふ事實があるからである。ゲリーリの經驗に據れば、最善にして最も完全なる標準單位的の校舎は、同時に又最も經費のかゝらぬものであることを實證するやうである。即ち、一校舎の下に十二級を置くといふ案は、別々の校舎に費用のかゝる設備を別々に設けるといふ不經濟を除くものである。而して、ゲリーリ學校の自給自營的なる諸作業工場は、現に所謂職業教育費の一項目を削除して居る譯であるから、此の方面の經濟も亦多く言ふを要せざるところであらう。然し、大概の都市に於ては、此の職業教育費目の削除などは殆ど財政上禁すべきものと看做されて居るのである。

ゲリーリ案に依つて生み出される設備運用及び維持費の節約

學校の運用及び維持費用に關して言へば、校舎の大きさを増すことは、經濟上の利益を増進するものなることは明らかである。學校番人の費用、管理事務の費用、暖爐の費用、點燈の費用等は、小さな學校と一緒に寄せ集めて一個に聯合せしむるやうにすれば、非常に節約される譯である。然し、此の經費節約といふことを期するに汲々として、其の爲めに、管理の負擔を堪へ得ざるほど、校舎の大きさを増すやうな必要は更にはない。一番大きなゲリーリ學校は、此等あらゆる經費節約の手段を講じて居るにも拘はらず、僅かに二千七百人の生徒、即ち教師一人に就き四十人の生徒を收容するやうに設備してあるのであるが、而かも、教師一人の受持生徒數を平均三十人に減じ、そして、校舎の收容力を二千人の生徒に減ぜんとの方針になつて居るのである。

ゲリー案に依つて生み出される生徒一人當ての教育費の大節約

最後に、生徒一人當ての教育費は、課業並に作業が一々専門の教師に依つて各部に分けて教授され、斯くして教授監督者の過重なる責任を除く仕組みになつて居るので、是れ又節約されることになつて居る。吾々が此處に又繰り返して指摘せねばならぬことは、總べて此等の經費節約は、實際に於てゲリー學校の教育的能率を増進するものなりといふ點である。

統計に徴するに、ゲリー學校案は、教育上の施設の爲めに決して公共の費用を増加せしめないことが明らかとなつて居る。かの視學ワート氏がゲリー市に赴任せざる以前に建設されたるジェファソン・スクールは、現代の學校建築に普通なる型式を代表するものであるが、こは三百六十人の生徒、而して教師一人の受持児童は四十人を收容する爲めに九萬弗の費用をかけて設立されたものである。是れ即ち、生徒一人當て實に二百五十弗の建築費であつて、最近十二萬五千弗の經費を以て建てら

れ、而かも最大收容力僅かに五百人の生徒に過ぎざる代表的といふべきニュー・ジャージ中學校の一人當てとまさしく匹敵する費額である。

然るに、理想的なるゲリー式校舍として建築されたるかのエマソン・スクールの收容力は、一千八百人の生徒であつて、實に一人の教師の受持児童は三十人の設備になつて居る。而して、其の建築費は、既に述べたる如き一大運動場及び種々雑多なる諸設備を一切含めて、僅かに三十萬弗にしか過ぎない。そこで、生徒一人當ての建築費としては、僅々百六十六弗である譯である。若し、それが最大の收容力を發揮せしめ、そして一人の教師をして四十人の児童を受持たせるならば、生徒一人當ての建築費は更に減じて百十一弗にしかならぬことになる。之れをさきのジェファソン・スクールが何等特別の設備なくして、一人當て二百五十弗を要したのに比較すれば、如何にゲリー式の學校建築が經濟的なることを知り得るであらう。尙ほこれが詳細なる費用の比較表に就いては、本書の附録を参照せられたい。

學校を遊ばせて置かぬ方針からして夜間大人の爲めの夜學校を
開く

扱て公立學校の財政上に、此の單純なる經濟的原則を適用する結果、浮き出でたる資金は頗る莫大なるものであつて、ゲーリ市は、其の爲めにワート視學の言へる如く、『希望する如何なる種類の學校をも』設置する餘力が生ずる譯である。そこで、非常に完備せる教育的並に娛樂的なる諸設備をば、一年中を通じて總べての人々に向つて供することが出来るのである。斯くして、此の資金を以て、殆ど前古未曾有の大規模なる大人の爲めの夜學校が設けられた次第である。一體、ゲーリの夜學校は、其處の最大なる四個の學校にて開かれて居るが、それは規定の一學年間を通じて夜の七時より九時半まで、一週間四回だけ開かれ、其處に出席する大人の數は正規の日中學校の生徒の三分の二以上に達して居る。而して、夜學校の經費は、日中學校の經費の僅かに十三パーセントにしか過ぎない。

ゲーリの夜學校は一種の民衆大學に類似するものである。實際、州の法律にて認定されたるあらゆる學科が、教授せられ、そして其の課程紀要は恰も大學の課程目録に類して居る。又、總べての工場、實驗室、研究室、及び教室は悉く開放され、其處にて日中兒童に教授したる課業及び作業を反復して教授するか、又は一層程度の進める課業及び作業を爲すのである。作業たると學科の課業たるとを問はず、何れも同等の條件に於て男女平等に開放されて居る。千九百十四年より同十五年の間に、ゲーリ市に於ける總べての階級を代表する四千三百人の學生が、此等夜學校の學籍簿に記入され、そして、毎月平均の學籍記入者三千百〇三人であるといふ。而して、最近ゲーリ市の選舉に於ける九千人の投票有權者中、二千人以上の市民がゲーリの夜學校の學籍簿に記録されて居るといふことであるし、又、ゲーリの日中學校に出席する總べての年齢の兒童總數よりも、夜學校に出席する二十一歳以上の大人の方が餘計であると言はれて居る。

千九百十四年に於て、ゲーリの夜學校は、日中學校と夜學校との課業及び作業を

更に一層密接に聯絡あらしむるやうにしたのである。小單位の課程を非常に増加して、それらを或る學科の特殊的局面を學ぶ希望を有し、而かも普通の人々のやうに長く學校に在籍して其等の學科を修め得ざる多忙の男子及び女子に向つて教授するやうにした。その他、大人が實地從事して居る職業上に關係あり、聯絡ある諸學科を一纏めにして、例の學科の組單位を組織して教授するやうにもして居る。それであるから、學校は直接ゲリーリ市のあらゆる職業と聯絡を保つことを得ると同時に、大人の労働者は、自己の從事する職業の上に役立つところの一層高尚なる學理と、一層徹底せる實驗とを學得し得ることになる譯である。

ゲリーリ學校は眞に社會及び地方自治體の中心所を成すのである

斯くの如く、純粹の學科並に職業的作業の形に於て與へられる教授の外に、尙ほ夜學校の生徒に向つて、體操場や、游泳池や、運動場等の自由使用を許して居るのである。運動場には點燈の設備を施してあるから、夜間といへども立派に運動競技を營むことが出来る。尙ほ又、運動場及び游泳池は、土曜日も之れを開放して居るし、その他、講堂をも開放して、此處にて講演や、活動寫眞や、市民公會を初めとして、それと類似の催しを爲すやうにして居る。兎に角、健全なる社交的集會や、催し事ならば、一週を通じて如何なる夜間でも之れを歓迎するのである。而して、講堂は隣保又は他の私設協會の政治的集會や、相談會や、其の他の會合の爲めに無料にて貸すことになつて居る。

斯くの如く、ゲリーリの學校は完全なる意味に於て、一種の社會乃至地方自治體の中心所となつて居る譯である。例の『校舎を廣く使用する』といふことは、此のゲリーリ學校の場合に於ては、市民のあらゆる階級の爲めに殆ど極度に廣く使用されて居るといふ意味合ひのものとなるのである。何故なれば、豊富なるゲリーリ學校の諸設備は、常に兒童の要求に役立つのみならず、同時にあらゆる階級の大人の必要に應ずる諸機關を一切網羅して居るからである。佛蘭西語を學ばんとする裕福なる婦人でも、工場で働らく延金職工でも、一たびゲリーリ學校に入れば、總べて自己の必要

を満足させることが出来るやうになつて居るのである。

ゲリー學校は純乎として純なる公共公衆公有の公立學校である

斯くの如く、ゲリーの教育局者は、學校をば一種の公共的機關、公益機關として使用することに依つて、他の都市が兒童の必要をも十分満足させないのは勿論、大多數の大人をば全然學校の御蔭を受けさせずに放置するが如き貧弱極まれる學校設備に對して、今日費しつゝある金額よりも多からざる費用を以て、あらゆる階級のあらゆる人々に向つて諸々の設備を供給することが出来る譯である。『公立學校の諸設備を専ら私用に供するといふことは、これまでも、亦今後も、次の如き意味合ひのことであらう。即ち、それは總べての人々が相寄つて、而かも實際に於ては彼等の唯だ一部分の爲めの便宜に供して居るといふことに外ならない』とは、ワート視學の言葉である。一體、公立學校は公共の費用、即ち總べての人々が經費を負擔して經營して居るにも拘はらず、其の便宜と御蔭とを蒙るものは、僅かに其の人々の

一小部分に過ぎないといふのは、何たる不經濟、何たる愚策であらうか。これワート視學を初め、ゲリー當局者の批難するところの趣意に外ならぬのである。

斯く觀れば、ゲリー學校は明らかに純然たる『公立學校』であることは言ふまでもない。唯だ然し、此の『公立』、又は『公共』なる言葉の意味は、此の場合に於ては、普通に理解されて居る意味よりも一層深遠であることを記さねばならぬ。蓋し、他の多くの都市に於ては、公立學校なるものは、『依然として公共費を以て維持さるゝ舊式の私立學校』に外ならぬからである。學校事務局では、往々自分等は私有財産の委託者でもあるやうに振舞つて居る風がある。而して、彼等も例の『學校の廣き使用』を眞面目に議論するのであるが、然し、これを以て何等か慈善的に特權を擴張することでもあるやうに考へて居つて、それを以て一種の公共的權利とは決して考へて居らぬやうである。多くの都市に於ては、一般公衆は殆ど學校をば自分等のものであるとは、まだまだ感じて居らない。之れに反して、ゲリーの學校は一種異なる精神を喚起せしめたものと思はれるのである。即ち、ゲリー學校は、恰も

街路や、公園が公共的のもの、公有の物であるといふのと同じの廣い意味に於て公共的のもの、公有の物となつて居る。即ち、それは、街路や、公園が自由に且つ遠慮會釋なく使用されるのと同じく自由に且つ氣兼ねせず使用されて居る。

教育は吾々の終生を通じて間斷なく繼續するものなりといふ考

を懐かしむる效がある

實し、ゲリーリの如き都市、及びゲリーリの如き學校に在つては、教育が、これで完了するといふことは決してなからうと思ふ。ゲリーリ案に據れば、恰も小學校と中學校との間に少しも間隙がないやうに、兒童と大人との間にも、同じく又何等の間隙を置くに及ばぬ筈である。兒童は所謂『卒業』もしようとしまいし、『自己の教育を完了』しようとしまい。唯だ、彼等が大人になつて實地に從事し居る各種職業又は業務上に必要なる手傳を得ようとして、絶えず學校にたよつて來、若しくは如何なる富裕の家庭でも、到底備へ付ける餘力もなく、又は備へ付ける意志もないとこ

ろの種々なる設備を絶えず學校に來て利用したいと思ふであらう。ゲリーリ案が實現しようとして居るのは、取りも直さず、斯かる公共教育の理想に外ならない。而して、此の理想に向つて、諸般の經濟的經營と、巧妙なる編成方法の限りを盡しつゝある譯である。然らば、其の理想とは何ぞや、曰く、公立學校をして眞實なる『公衆の學校』たらしむるに在ることを、繰り返し斷つて置きたい。

第五章 ゲリーリ學校の編制及管理法

ゲリーリ學校に於ける編制上の根本的特色とは何々なるか——行政長官としての視學及び實地行政を擔當する校長の職務——教授監督者の職務——産業的作業の管理並びに各工場に於ける職工教師——教授監督者の助手の職務——ゲリーリ學校に於ける各部専門の教授の一斑説明——基本單位的なる學校に於ける教師の配當は如何になり居るか——四級より十二級に至る學科受持教師の員數並びに其配當——教師の員數を増加せずして教師の能率を増進するに努む——ゲリーリ學校案の學級數及び教師數の比例又それと普通の學校との比較對照——先輩教師及び後輩教師若しくは主任教師及び副助教師の制——講堂に於ける課業を擔任する教師の職務一斑を説明す——新教授日程に於ては此の應用作業も亦夫れ夫れ専門教師の擔當である——課業の時限及び生徒並びに教師の一日及び一週間の勤務時間——ゲリーリ學校にては他學校よりの見學教師の師範課を設く——ゲリーリ案は未熟教師を熟練教師に從屬せしむる原則である——學區内の家庭及び四圍の状態を視察する爲めに教師は記録教師となる——教師と生徒間の融和を計る爲めに新設されたる教師の助手制度——常に教師と生徒との間の相互教育のみならず生徒相互の間にも教育を行ふ——ゲリーリ學校は生徒の個別的教授の機會を多大に提供する——各級の生徒は迅速尋常及び遅緩の三組に分類して教授せらる——代數科に於ける此の組分け制に關する調査の結果——ゲリーリ學校には學科及

び作業の特別補習を爲す機會を與へる——教室は教師の専有本部であり而して所持品置場が生徒専有の本部である——ゲリーリ學校の生徒は或る意味に於て各自何れも専攻の學生である——男女の性別的教授は共學に對する何等の偏見に基くものでない——ゲリーリ學校には大學課程を履修する研究科の設けがある——科目の自由選擇と例の生徒の助手乃至見學者制との關係——ゲリーリ學校に於ける職業指導に當るものは講堂受持の教師である

ゲリーリ學校に於ける編制上の根本的特色とは何々なるか

ゲリーリ學校に於ける編制上の顯著なる根本的特色を擧ぐれば、

第一に、學校の行政的管理と教育的管理との分離。

第二に、全校を通じて専門分科的教授の普及せること。

第三に、教師の創意的指導と教師間の協働とを益々助長すること。

第四に、所謂助手又は見學者の制に依つて、教授上の變通自在と單純とを得しむること。

等である。以下、此の四個の特色に就いて詳細に記述して見よう。

行政長官としての視學及び實地行政を擔當する校長の職務

學校の行政權を掌握するものは、唯だ一人の長官であつて、それはゲリーリ諸學校を監督する視學である。現にワート氏は、即ちそれである。而して、此の視學は三人より成る教育事務局に依つて任命されるものである。

次に各學校(例の二重學校を通じて)を監督管理する責務を帯べるものは、各學校に一人宛居るところの實務を施行する校長である。而して校長の職務としては、第一に、學校の教授豫定、即ちプログラムを調製すること、第二に、生徒の時間表の管理を爲すこと、第三に、學校一般の秩序及び訓練の維持を計ること、第四に、普通の行政的事務を執ること等である。而して、校長は、教授上の仕事に就いては、少しもたづさはらない。此の教授上の監督を爲すものは、別に居るのである。

教授監督者の職務

ゲリーリの總べての學校に對して、二人の教授總監督者が居る。而して、彼等の職務は、第一に、教授を監督し、第二に、教師と協働して、學科課程を編制し、第三に、進級試験を管理し、第四に、擔任教師と協議したる結果、生徒の及落を決定するのである。

産業的作業の管理者並びに各工場に於ける職工教師

次に産業的竝に手工教練的諸工場は、一人の産業的作業の管理者の管理指導の下に置かれるのであるが、此の管理者は、同時に又、學校營繕部の實際的首腦者である。諸工場に於ける職工教師は、手工教練及び産業の教師としての資格と、修繕及び建築に従事する正規の職工としての資格との二重資格に於て、右の産業的作業管理者に依つて雇用されるものである。

扨て、各學校には、一人の手工教練の主任教師があつて、第一に、産業科の作業を、第二に、パート・タイムの組の作業を監督し、而して、其の學校生徒の爲めに職

業上の顧問たる働きを爲すのである。尙ほ又、體操場及び游泳池に於ける附添者は、體育部の主任教師に依つて雇用される。

教授監督者の助手の職務

ゲーリ諸學校中、主席校、即ち、エマーソン・スクールに於ける各部の教師は、夫れ夫れ自己の専門學科に於て、教授監督者の助手として働らき、且つ、他の諸學校にて教授される同じ専門の諸學科に於ける進行を一般に監督するの責務を帯びて居るのである。

ゲーリ學校に於ける各部専門の教授の一斑説明

次に各部専門の教授は、他の公立學校に於ては未だ一般に實施されざる程度にまで廣く、此のゲーリ學校に行はれて居るのである。ゲーリ學校當局の考へるところでは、凡そ、小學校の最下級は暫らく例外とするも、兎に角、中學校に於ける各部

専門の教授を主張する議論にして、小學校の諸級に適用し得られざるものは一つもないといふのである。中學校に於て各科に専門の教師を置く以上、其の置くべき理由を擴張して、之れを小學校の各級に推し及ぼし得ざることなしといふのが、ゲーリ學校當局の意見であらう、かの特殊的諸作業は、それを指導し、教授するには、疑ひもなく、夫れ夫れ専門の職業教師を要する譯であるが、然らば、同様に、歴史、言語、文學、數學等も亦、若し夫れ夫れ専門の教師が自己の學科に特殊なる教授方法及び指導方法に専ら注意を傾倒し得るやうになつて居つて、今日一般に行はれるやうな、總べての學科の教授法に萬遍なく通するといふ必要がなくなつたならば、各學科も遙かに良好に教授され得るであらう。

一體、特殊的諸作業を缺いて、總べての普通學科を立派に教授し得る丈けの多方的技倆を所持する教師といふものは、なかなか見付けられ得るものではないのである。如何なる教師でも、必ずや自己の専門とするところ、又は特にそれに注意を傾けるところの學科がないといふことはない。そこで、ゲーリ學校では、最初の一、

二級乃至三級だけは例外として、其の他の諸級に對しては、専門學科を専門教師が教授するといふ、實際上進歩せる中學校乃至大學の教授方法なるものを採用して居る譯である。

基本單位的なる學校に於ける教師の配當は如何になり居るか

扨て、最初の一、二、三級等の最下級に在つては、總べての正規的學科は悉く一人の級教師に依つて教授されて居るが、それ以上の諸級に於ては、實際に、總べての學科は、夫れ夫れ専門の教師の教授を受けるのである。基本單位と看做されて居る學校には、五十六學級を設けるやうになつて居るのであるが、これは各級夫れ夫れ其の割合に依つて配當されるのである。尙ほ、基本單位の學校には、此の五十六學級の外に、托兒所及び幼稚園を設けることとなつて居るし、又、例の特殊の作業の學級をも固より整備しなければならぬ。而して、右の諸學級の爲めに雇用さるゝ教師に就いて言へば、先づ一級より三級までの教師として、十六人を置くこととな

つて居る。即ち、英語、數學の爲めに八人、手工教練の爲めに二人、自然研究の爲めに二人、音樂の爲めに一人、表現、即ち演出の爲めに一人、身體教練の爲めに二人である。

四級より十二級に至る學科受持教師の員數並びに其の配當

一級より三級までの教師の員數並びに其の配當は、前述の如くであるが、次に四級より十二級に至るものに就いて言へば、教師の員數總べて四十六人である。即ち、左の通りである。

英語	………	四人	數學	………	二人
ラテン語	………	一人	獨逸語	………	一人
佛蘭西語	………	一人	西班牙語	………	一人
歴史	………	一人	四級及び五級を通じての		
英語、數學、歴史及び地理の教師	(各科専門のものもあれば、然				

ゲトリリ學校案の學級數及び教師數の比例又それと普通の學校との比較對照

學級數の多少を問はず、如何なる學校にても、その學級數に應じたるプログラムを調製することが出来るのである。今、教室の數と、それに要する教師の數とを舉ぐれば、大體左表の如くであらう。而して、これには教授監督者、特殊作業の教師、圖書館員、及び運動場の指南者をも含むものである。

- (一) 十二學級の學校には、八個の教室と十二人の教師とを要し、
- (二) 二十四學級の學校には、十五個の教室と二十三人の教師とを要し、
- (三) 三十六學級の學校には、二十二個の教室と三十三人の教師とを要し、
- (四) 四十八學級の學校には、二十九個の教室と四十三人の教師とを要し、
- (五) 六十學級の學校には、三十六個の教室と五十四人の教師とを要し、
- (六) 七十二學級の學校には、四十三個の教室と六十四人の教師とを要する。

扨て、七十二學級を有する學校に於ては、所要の教室の數は四十三個にして、又所要の教師は五十四人であるが、更に、講堂、運動室、及び圖書館等に於ける作業の爲めに十人の教師を必要とするからして、そこで、總べて六十四人の教師が要する譯である。七十二學級に對して、實に僅かに六十四人にて事足るのである。之れを舊來の小學校に就いて見るに、七十二學級の學校には、七十二人の教師と七十二個の教室とを要することは勿論、それ以外に手工教練の諸工場及び其の手工教練の教師が餘分として要する譯である。その他、尙ほ學校内に設けられる公立圖書館の分館には圖書館員を要し、公立運動場には運動指南者があり、音樂、圖畫、身體教練、手工教練及び自然研究の監督者としての特殊的専門教師を要する譯である。そこで、舊來の學校に於ては、七十二學級を教授する爲めに、往々八十人若しくはそれ以上の教師を要することが珍らしくないのである。而かも、それ以外に學校の校長及び助手等が置かれるのである。

先輩教師及び後輩教師若しくは主任教師及び副助教師の制

ゲリーリ學校に於ける教師編制上の重大なる一個の特色として、教師を分ちて、先輩教師及び後輩教師、若しくは、主任教師及び副助教師と爲すことである。各教室は例の二重學校方案に従つて、二人の教師を置いて居る譯であるから、長く教職に従事せる方の教師をば、主任教師と稱するのである。而して、教師としての経験の短い方の教師は、此の主任教師の指導の下に教授にたづさはつて居る。例へば、X學校に於ける主任教師等は、X學校にての授業のなき日の最後の時間だけY學校に於ける副助教師を訪問して、其の教授振りを批評することを得るし、又、同様に、Y學校に於ける後輩教師は、第一時間目にX學校の授業を參觀し得るのである。斯かる仕組みにしてあるから、未熟なる、若しくは學力、教授力の劣弱なる教師は、経験の富める教師の指導の下に、益々進歩することを得る譯である。

又、斯くの如くして、新任の教師は、絶えずゲリーリ學校の新たなる遣り方や、新

たなる精神に慣熟するやうになるものである。尙ほ又、斯かる制を設くる結果として、學校は實に教師の爲めの師範學校、又は教練學校の擴張たることを得るとも言はれる。教師自身も生徒と同様、絶えず勉強して行くのである。そこで、ゲリーリ學校が、如何にして、其の方案が要求するが如き新たなる資格にかなつた教師を得るかといふ問題は、實に斯かる制度に依つて、解決される譯である。即ち、ゲリーリ學校そのものが、教師を教練し、養成するのである。

講堂に於ける課業を擔任する教師の職務一斑を説明す

講堂の時間を擔任する教師の職務に就いては、既に前に之れを説明したのであるが、尙ほ少しく附言するところあるであらう。一體、舊ゲリーリ案に據れば、講堂の各時間は、副校長として働らく一人の教師の管理監督するところであつた。故に、教師は交互に講堂に於ける演出の作業及び其の他の特殊的作業を編制するやうになつて居つたのである。然るに、最近ワート視學は、若し講堂の作業をも各作業夫れ

夫れ専門の教師が擔當するやうにしたならば、其の作業は一層良好なる結果を擧ぐ
るものであると考へて、實施せしむることとしたのである。即ち、新式の七十二學
級の學校のプログラムには、四人の教師が専門的に講堂の作業に従事することにな
つて居る。即ち、一人の教師は音樂を擔當し、一人の教師は美術、文學、歴史、公
民科及び時事科を擔當し、一人の教師は、理科の課業に關する材料の表現演出を受
持ち、更に一人の教師は、諸工場及び各種業務に關する材料の表現演出を受持つの
である。

適當なる設備を有する講堂、即ち、幻燈寫真機、活動寫真機、舞臺、ピアノ、オ
ルガン及び蓄音機等を備ふる講堂に在つては、講堂専門の教師は、正規的學科の教
師が比較的少數の兒童に向つて教授するよりも、比較的多數の兒童に向つて、一層
良好なる數多の事柄を教授することを得るの效がある。正規的學科の教師は、各自
擔任の學科をば、其の教へる生徒が講堂に於て屢々表現演出する此の作業に協働す
るの義務がある。斯くして彼等は此の講堂の作業を以て、所謂應用作業の代はりと

爲し、將た又、其の教へる正規的學科を實地活用するものと看做すのである。

新教授日程に於ては此の應用作業も亦夫れ夫れ専門教師の擔任 である

新たなるプログラムに於ては、例の應用作業も亦、夫れ夫れ専門の教師の擔任と
なつて居る。經驗の證據立てるところによれば、一體、或る教師は此の想像的並び
に構成的方面の教授に對して、特に専門的技術を有するものであり、而かも、其の
方面の作業に専心従事することを欲するものである。扱て、此の専門教授の方法に
據れば、應用作業の教師は、日々、總體十二學級の中六學級を夫々自己の専門の作
業に就いて受持つのである。それであるから、彼等は十二學級の何れの學級とも一
日措き、一週措き、一月措き、又は一學期措きに夫れ夫れ其の専門の作業に於て相
接することを得るのである。或は又、此等の教師達は、三學級の各組から特に言語
及び數學に於ける専門の課業を學ぶ必要あるものを選出して、此等の生徒と毎日相

接することが出来る。何故なれば、普通並の生徒にとつては、其の學ぶ言語及び數學の應用を爲すに必要な機會は、悉く正規の手工教練、圖畫、音樂及び表現の各科に於て與へられて居るからである。而して、應用課業の教師等は、手工教練、圖畫、音樂及び表現の各室に於て、夫れ夫れ其の専門の學級に相接する。此等特別室の諸設備は、應用課業の爲めに使用される。

次に、應用課業の教師は、各自其の専門に屬する正規の學科を夫れ夫れ應用することに依つて言語及び數學を教授すべき機會を此等諸學科を擔任する専門教師に向つて指定すべき義務ありとされる。應用課業擔當の教師は各々此の八人より成るところの教師の一團の主任に指命されることとなつて居る。而して、彼れは十二學級のあらゆる應用作業に對して、御互協働する管理者となり、且つ又、十二學級の總ての生徒に對して、作業組織の檢閲者として働き、絶えず、生徒の眼前に、彼等が一たび學校を出でたる後ち、面接するに違ひなき商業界、工業界、並びに自治體に起るが如き種類の實際問題を提供するのである。勿論、教師とても外部社會が後年

兒童に向つて提供するやうな風には、現在此等の諸問題を提供することが出来ぬかも知れないが、然し、在學中の兒童に日々直接の感應を與へて置き、そして後年、兒童が學校課程を終つて外部社會に出でたる曉に、必ず起るべき一層困難なる諸問題に接する準備を今より既に爲し置かしむることは、實に測り知るべからざる大なる價値を有するものであらう。

課業の時限及び生徒並びに教師の一日及び一週間の勤務時間

課業の時限は六十分制の代はりに、或は四十分、或は五十分、五十五分のこともある。教師は或は六十分時限の課業にて六時間を、或は五十五分時限の課業にて五時間半、或は五十分時限の課業にて五時間勤務する。又、生徒は或は七時間、或は六時間半、或は六時間の課業を受け、且つ、それに辨當の時間が、一時間加はる譯である。運動場の教師は、更に一時間丈け餘計に勤務する。各教師は夫れ夫れ其の作業の爲めに、一日一時間丈け勉強する自由の時間を有する。教師は其の日の仕事

が終れば、學校を退出してよろしいのである。生徒の試験答案を初め種々なる作業や、其他書類調査等の仕事は、一切學校に居る間に爲すべきものとせられて居る。其の趣意は、教師一日の作業は唯だ六時間丈けに止め、決して家庭に於て餘計の時間を負擔せしむることのないやうにする爲めに外ならない。

ゲリーリ學校にては他學校よりの見學教師の師範課を設く

此の教師編制案の擴張として、誠に興味あることは、ゲリーリ學校案及び教授法を研究せんと希望をもてる外來の教師又は校長の爲めに、新式の師範課を設けたることである。見學の教師及び校長は一定の授業料を納めて、ゲリーリ學校の教師若しくは校長の助手となつて付き添ひ、そして數週間若しくは數ヶ月間の課程を通じて、其の任務を完うするのである。而して、彼等は下級生徒が上級生徒の『手傳者』若しくは『見學者』として實驗室又は工場に於て働いたり、若しくは後輩教師が先輩教師に付き添ふのと、全く同じやうにするのである。而して、彼等が納附する授業料

は、彼等見學者を教授する教師、若しくは校長の手に入る譯である。實に、此のゲリーリ學校の諸原則を教授する斬新なる方法は、講義に依らずして、却つて見學者が直接教授を實地手傳へして教へられるのであるが、是れ即ち、ゲリーリ學校に於ける教授上の基調たる例の『實行に依れる學習』即ち『爲すことに依つて學ぶ』といふことを飽くまでも徹底せしむる代表的の事實と言つてよろしい。

ゲリーリ案は未熟教師を熟練教師に従屬せしむる原則である

何れにせよ、ゲリーリ學校の方案は、良教師が創意的指導と責任とを持つべきものであり、未熟にして劣弱なる教師は良教師に依つて創意的指導と責任とを取り得るやうに教養さるべきものであるといふ原理に則れるものである。然るに、普通の學校に於ける方案は、熟練なる教師と未熟なる教師とを、優秀なる教師と劣弱なる教師とを同格の地位に置き、而して總べては教授監督者若しくは視學に従屬せしめて居るのである。ゲリーリ學校にては、斯かる制に倣はずして、右に言べる如く、教師

間の格式を異らしめ、依つて以て優良なる教師をして其の最善の力を發揮せしめ、劣弱なる教師を教養せしむるやうにして居る譯である。

學區内の家庭及び四圍の状態を視察する爲めに教師は記録教師となる

多くの學校に於ては、専門の『視察教師』(訪問教師)を特に雇用するのであるが、ゲリーリ學校に於ては、其の代りに、教師が學校區を小區に分ちて、各小分區の『記録教師』となり、そして所謂視察教師の責任を總べてとることにして居る。斯くして、學校の事情や、家庭の事情や、又は隣保の事情等に對する兒童の適應の誤れる總べての事件を親しく視察し、考究するのである。ゲリーリ市の學校生徒をば、地理的に分轄して、各區に約五十個の家庭を含むやうにして居る。而して、各區の兒童は年齢又は年級の如何を問はず、總べて一人宛の級教師に依つて受持たれて居る。扱て、各記録教師は、自分の受持區域の生徒と一週一回總會を開き、月々の報告

を調製する。兒童の行狀の不始末や、學校出席の亂雜や、學業の遲緩や、其の他總べての事件は、悉く記録教師に報告されるのである。生徒は此の教師の許可なくして、學校を休むことが出来ない。而して、教師は必要の起れる場合に兒童の家庭を訪問したり、若しくは親を學校に呼び出す義務がある。各記録教師は、自分の受持學區に居住する限りは、生徒の學級が進んでも、矢張り同じ生徒を受持つのである。それであるから、此の記録教師は、大學の學生に對する所謂『學部顧問』なるものと殆ど全く同一の仕事をするものといつてよろしい。即ち、學校生活の一般行事に關し、又、學校生活中に生起する諸々の問題に關して學生の案内者たり、友人たる役目を盡すものと見てよろしい。

斯くの如く、此の記録教師は、同一學區内に居住する一團の生徒に對して一種の訓練の監督者兼社會生活上の監督者ともいはるべきものである。彼は一組の白紙綴りを所持して居るが、これは實際に於て自分の受持學區の完全なる社會的調査の基礎たるものである。彼は生活狀態其の他に關する事實にして、彼れの注意に上れる

場合に、一々右の白紙綴りに記入することにして居る。實に、此の仕事は之れを勵行するならば、凡そ教師として是非ともこれだけは知り置かねばならぬ事柄であることは、固より言ふまでもない。苟くも聰明にして進歩的なる教師にとつて、此の仕事ぐらゐ貴重なる社會的教養を與へるものは、他に想像せられない。即ち、此の仕事に依つて、教師は自治體の一般社會生活に精通すると同時に、教師の職務をば普通に公立學校に於ける級教師の仕事に對して考へられて居るよりも遙かに重大なる價値を有するものと爲すであらう。尙ほ又、此の仕事は、ゲリーリ案が教師に對して要求する新たなる創意及び聰明といふ條件を最もよく代表すると共に、此等の要求條件の莫大なる教育的價値を立派に發揮するものと言つてよろしい。

教師と生徒間の融和を計る爲めに新設されたる教師の助手制度

ゲリーリ學校に於ては、絶えず教師と生徒との間の融和疏通を計らんと種々なる畫策を爲しつゝあるのである。最近新たに設けられたる重要な制度は、生徒を一教

師の助手』として用ふることである。即ち、第六、第七、及び第八級に於ける生徒は圖書の爲めに十週間丈、理科の爲めに十週間丈、工場作業に對して十週間丈、又、事務に對して十週間丈、所謂『教師の助手』として働らくのである。此等の生徒は、特に興味を有する諸部に於てのみ、實驗室及び研究室の助手として任務に服する。三人乃至四人の生徒は、理科の教師の助手となり、同じく三人乃至四人の生徒は、圖書の教師の助手となり、更に又、三人乃至四人の生徒は、工場の教師の助手を務める。運動場の教師や、講堂作業の教師や、音樂の教師等は、特に其の各方面に興味を有する生徒を助手として用ひるのである。そこで、各生徒は自分が特別に興味を有する部に於て、二十週の作業を受けることを得るのである。

多くの教師の告白するところに據れば、斯くして第一年目の教授の結果は、生徒が單に生徒として獲得し得たるよりも、其の教授する學科を遙かに明瞭に理解し得たといふことである。學科の方面から見れば、此の教師の助手たることに依つて、生徒はたとひ短い期間であつても、學科勉強の時間を餘計に設けられることに依つ

て學習する以上によく學習するものである。即ち、彼等は常に創意的活動を爲し、且つ自から責任を採ることを學得するのみならず、尙ほ又教師をして其の受持の正科をば、遙かに有効に教授せしむるやうに仕向ける效がある。

常に教師と生徒との間の相互教育のみならず生徒相互の間にも

教育を行ふ

これと同一の編制上の根本原理は、之れを生徒間の相互的關係に對しても適用されて居るのである。即ち、第四級及び第五級の生徒は初歩の手工教練や、自然研究を學ぶには餘りに年長じたるもの、而かも獨立的の生徒として有利有効に實驗室や工場を使用する程度には、未だ年長せざるものと考へられて居る。そこで、第四級及び第五級の生徒をば、それよりも上級に於ける生徒の助手として指定されるのである。斯くの如く、彼等は自分で別の教室にて教へられるよりも、上級の生徒と共に作業をすることの方が、一層よく學習し得る譯である。下級生は常に上級生を手

傳ひ、上級生の作業を目撃し、上級生に就いて質問を發すること等に依つて學習するのみならず、上級生の方も亦、下級生の質問に答へねばならぬ必要があり、且つ又、下級生をして、工場又は實驗室に於て作業せしむる事柄を十分に理解せしむる責任があるからして、一層よく學び覺えるやうになるものである。利益は下級生のみ得るにあらずして、上級生も亦同様之れを得る譯である。而して、其の斯くする目的は、ワート視學の言へる如く、ゲリーリ學校をば、『出来る丈け一個の大家庭の如きものと爲し、其處にて、年少の子供が年長の人々から意識的に又無意識的に物事を學び、又、年長の人々は年少の子供等と接觸するところからして、自然の裡に責任の地位を採り、且つ率先指導の任に當ることを覺えるといふ風のものとなさんとするのである。或る人は、吾々は吾々の子供を學校に通はせて居るが、然し吾々の子供を教育するものは、學校の教師ではなくして、遊び仲間であると言つたことがある。舊式の學校に於ては、遊び仲間たる生徒をば、教師の助手として利用することをしないからして、此の人の言ふことは眞實である。』而して、此の『助手』制度は

ゲリーリ學校の最も價值ある特色の一と看做されて居る。

ゲリーリ學校は生徒の個別的教授の機會を多大に提供する

一體、生徒の立場から言へば、學校の編制は或る程度の伸縮自在性と個別的教授とを得させるやうにすることに外ならぬものである。然し、かゝることは、公立學校としては非常例外のことに屬してゐる。ゲリーリ學校に於ては、最下級を除く外の諸級の生徒は、級によつて分けられると同じく又、學科に依つても分類されて居るのであるから、實際に於ては、大學の方法を採つて居るといふことが出來よう。各生徒は、夫れ夫れ各自の時間割とプログラムとを有して居ること、恰も大學の學生のやうである。又、實地行政にたづさはる校長は、此等生徒各自の記録一切を管理監督する點に於て、全く大學の書記官に相當するといつてよろしい。生徒の進度は學科に依つて定められ、決して級に依つて定められない。そこで、生徒はかの教師と共に働らくところの教授監督者に依つて、如何なる時期に於ても或は及第、或は

落第を決定されるのである。

それ故に、ゲリーリ學校に在つては、級なるものは、單に在學の年數を示すものに過ぎないので、決して單位として進學させられるところの學級を示すものではない。規定の各學級は、四十人の生徒を以て最大の記録と爲すのであるが、然し、其の學級は單位としての働きを持たない。恰もこは例へば大學二年の學級が、決して單位となつて居らぬのと同じことである。そこで、同一級でも或る生徒は或る一組の學科を修めて居るに對して、或る他の生徒は他の一組の學科を修めて居るといふ風なのである。斯くして、學科の作業は大概小なる組に分けて學ばれるか、或は又、組に作らず、個々の學科にこさへ學ばれて居る。兎に角、ゲリーリ學校に於ける非常に豊富なる設備と、時間の經濟的利用との爲めに、生徒は實際に非常の程度の個人的、乃至個別的の教授を受け得るにやうになつて居る譯である。

各級の生徒は迅速尋常及び遅緩の三組に分類して教授せらる

各級の生徒は之れを次の三組に分類される。即ち、迅速の作業者、尋常の作業者及び遅緩の作業者これである。迅速の組に屬する生徒は十年にして容易に十二年の課程を完了することが出来る。彼等はそれから十六歳にして大學に入り得る譯である。ゲリーリ學校出身者にして大學に入るところの生徒の大多數は、實際に於て此の迅速の部類に屬するものである。次に尋常の部類に屬する生徒は十二年にて十二年の課程を修了するもの、而して、遅緩の部類に屬するものは、十四年にして右の十二年の課程を修了するものである。遅緩の部類に屬する生徒の中には、十二年の課程を修了しようと努めずして、産業部にて専門の職業を履修するものが少くない。

扱て、此の組分け乃至分類は同一年齡の兒童の心的資質及び將來の志望に於ける差別を認め、之れを尊重して爲されるものであるから、或る種の兒童に對しては學校生活を短縮せしめ、反對に、或る他の種の兒童に對しては、學校生活を延長せしむるやう、夫れ夫れ遺漏なき手段方法を講じて居るのである。總べての兒童は成るべく、自分と同等の學力を有する仲間と一緒に勉強するやうにして居るからして、

優秀なる生徒は其の學級に自分より出來の遅い生徒が居つても、それが爲めに學業の進度を緩められるとか、だらけさせられるとかいふやうな心配はない。又、遅緩の生徒は優秀なる生徒との競争の爲めに意氣沮喪するやうな憂ひは少しもない。換言すれば、何れの生徒も自分で出來る丈けの進歩を爲すことが出來、而して、自分が一番よく出來る課業を専心に勉強して行くことが出來る譯である。とに角、非常に多種多様の活動、即ち、學科も作業も遊戯も其の種類頗る多いからして、たとひ、學科の方で出來の鈍い生徒であつても、立派に他の手工作業とか、或は美術技藝の方面とか、或は身體的作業とかいふ方に一層の注意を傾けて、人より優れることが出來るやうになつて居るのである。

代數科に於ける此の組分け制に關する調査の結果

千九百十四年に、エマーソン・スクールに於て、第九級の代數科二學級の生徒の組分けに關して特別の調査を試みられたのである。而して、此の二學級を迅速組と遅

緩組とに組分けしたる結果によれば、代數科に對する双方の組の興味が著しく増大し、とり分け遅緩組の生徒に於て、此の傾向の甚大なるを見るに至つたといふことである。而かも、迅速組の生徒の中には、固より何等落第の事實が報告されなかつたし、又、遅緩組の生徒の中では、僅かに三人丈けしか落第が出なかつたが、然し、此の落第生も、其實缺席して居つた爲めであるといふことであつた。尙ほ又、遅緩組に屬する全生徒の出來榮えを平均して見たところが、三ヶ月間に實に五パーセント丈けの進度を増したと報告されて居る。

次に、ジェファーン・スクールの調査に據れば、生徒の五十二パーセント丈けは、尋常の組よりも一ヶ年乃至それ以上の進度を早めたといふことである。尤も、此のジェファーン・スクールの如何なる學校よりも一番長くゲリーリ方案に據つて教育を實施したる學校であることを注意して置く。

ゲリーリ學校には學科及び作業の特別補習を爲す機會を與へる

扱て、ゲリーリ方案には前陳の如く種々なる特色的施設の存するところからして、學科及び作業の不出來な生徒に對して特別補習を爲さしむる非常に大なる便宜と機會とがある。そこで、生徒は、遊戯、講堂課業、若しくは工場作業の時間として自分に割り當てられたる時間を割いて、或る學科の特別補習を爲すことを許されてある。若し、X學校の生徒ならば、其の學校で課業を受けるは勿論、若し其の學科が不出來であるならば、同じ日の異なる時間にY學校に於て教授される其の同じ學科に出席して、反覆學習することを許されて居る。彼は又、有志の生徒の爲めに開く土曜學校に來りて、教師から特別に個別教授を受けることを許され、更に休暇學校に於て、不出來の學科を補習するといふ便宜も與へられて居る。

ゲリーリの學校では、生徒に宿題を課することは、中學校に於て多少許されてゐるが、それを除いては、絶対に許されない。それは、一つは學校に居る時間が長いのと、一つは教師が學校にて時間を割いて自由に生徒をして種々の參考書を使用せしめ、そして勉強をさせ、それを監督指導することにして居るからして、學校の圖書

を生徒に家庭に持ち歸らせて勉強させる必要がなくなるからである。州の法律は學校に無料教科書を用意し置くことを許可して居らぬからして、此等使用する教科書は生徒が自辨せねばならない。若しくは、ゲリーリ學校の大抵の學級に在つては、學校が教科用書を買つて、そして共同的に學級の多くの生徒に貸し附けるやうにして居る。それから、宿題を許可して居ないから、圖書は學校に保管して置いて、そして必要のある毎に、學級にそれを分配することになつて居る。

教室は教師の専有本部であり而して所持品置場が生徒専有の本部である

學校に於ける生徒の本部は、他の公立學校に於けるが如く、教室には存しない。教室を自己の本部とするものは、夫れ夫れの教師であつて、決して學級の生徒ではない。即ち、學級の生徒には、夫れ夫れ一定の教室なるものを割り當て、居らぬ。教師が教室に控へて居つて、生徒は其の授業を受ける爲めに、教師の控へて居る教室

室に行くといふ仕組みである。即ち、生徒は各自が所持する印刷した時間表カードの指示するところに従ひ、各自教室から、工場へ、工場から實驗室へと推し移つて行くのである。決して、此の室が何學級の室といふ風に、教室は生徒の本部とはなつて居らないのである。

然らば、生徒専有の本部は何處かといふに、それは地下室に於ける廊下に沿うてあるところの廣い所持品置場である。其處には生徒各自の書物や、紙や、膝掛や、包物を仕舞ひ込む爲め、夫れ夫れ専用の錠附きの入れ物が置かれてある。そこで、嚴密に言へば、ゲリーリ學校の生徒は、下級の生徒を除き、其の他は、例の『記録教師』以外に一定の所謂『教師』を持たぬといはねばならない。尤も各科専門教授の式になつて居るからして、生徒は數多の教師には接するけれども、自分の學級に専任受持の教師を持つて居らぬ譯である。扨て、此の組織と、生徒各自の時間割に對して自治的責任を有することとは、其の實、生徒に創意、即ち何事も自分で自分の事を進んでやるといふ性質と、自分の事は自分で處理するといふ責任とを涵養せんが

爲めの目的を持つたものに外ならぬことは、多く言ふを俟たぬ。

斯くの如くに、生徒をして幼少の時分から多くの異なる人間に接觸せしめ、そして専門精通の教師の熟練なる教授を受けしめ、且つあらゆる方面の運動及び練習を與へしむるやうに仕組んで居るのである。兎に角、此等の自由なる大學の教育方法を小學校に採り入れることは、之れを公立學校の實際の遣り方から見れば、確かに大膽なる試みであり、實驗であるが、然し、ゲリーリ學校の經驗に徴するに、年少兒童に對して、それは非常の自由と、個別的取扱とを與へることが出来るといふことである。

ゲリーリ學校の生徒は或る意味に於て各自何れも専攻の學生である

ゲリーリ學校の生徒の時間表、學科配當は大體、州が定めたる教授課程に参照して作製されて居るのであるから、勿論、生徒の専門的研究を許されては居らないのである。唯だ、上級の生徒と、或る特殊の學科が出来ない爲め落第を續けたる生徒とは、其の例外となつて居るのみである。而かも、ゲリーリの學校には、正規の課程を修了する積りがなく、何等かの學科又は作業を特に専攻しつゝある専攻の生徒は、現に全體の生徒の約二十パーセントだけ居るのである。然し、時間表、學科配當が前に言へる如く個々の生徒の必要に應ずるやうになつて居るからして、其の實、ゲリーリ學校の生徒は、或る意味に於ては何れも所謂『専攻の學生』と言つてよろしい譯である。而かも斯かる生徒が非常に多數あるといふ爲めに、何等學校管理上の混雜や失態を醸生されないのみならず、又、此の専攻の學生なるものは、かの劃一的方案に依つて教授される多數の學校に於ては、正規の課程を履修する生徒と比較して非常に缺陷多きものであらうが、ゲリーリ學校に在つては、全くそれと趣を異にし、他の一層正規的なる課程を履みつゝある生徒と比較して、何等忌まはしき缺陷を持つて居らぬのである。

男女の性別的教授は共學に對する何等の偏見に基くものではない

ゲリーリの或る學校及び或る種の課程を參觀するものが、男女兒各別に教授されるのを見るであらうが、これは決してゲリーリ學校當局者が男女の共學に對して偏見を懷いて居る結果ではない。實際、あらゆる課業乃至作業、其の他遊戯運動等も何れも同様に男女兒平等に自由開放して居るのであるから、女生徒にして印刷工場にて作業するもあれば、木工部室其の他に作業するのを見るであらう。然らば、何故に或る學校又は或る課程に於て、特に男女生徒を別々に教授するかといふに、それは、男生徒には男生徒の必要とするものを、女生徒には女生徒の要求するものを教へんとする努力の結果に外ならぬのである。

例へば、女生徒の要求に訴へざる遊戯、體操、身體衛生及び手工活動や、若しくは男生徒の興味に訴へざる家事、家政の如き課業は、夫れ夫れ男生徒丈けとか、女生徒丈けとかいふ風に分類して教授するの必要があつたのである。而して、時としては斯かる分類編制をば、關係諸學科の教授の疎隔破綻を避くる爲めに維持存続し來つたのである。

ゲリーリ學校には大學課程を履修する研究科の設けがある

扱て、ゲリーリ學校に於て、あらゆる種類の生徒の爲めに便宜を計らんとする努力を示す一例として、研究科の設置を挙げなければならない。これは、生徒の中にて學校に止まり、そして研究科の學業を履修せんとするものに對して、大學第一年の課程を教授するのである。斯くの如くして、ゲリーリ學校は丁度小學校に中學校を附設し、日中學校に夜學校を附設したのと同じやうに、大學をも尙ほうまくはめ込もうとするのである。ゲリーリの中學校の生徒がゲリーリ學校を修了した場合、彼が若し二年にて普通の大學課程を修了し得るほどの學力を有すれば、十八歳にて普通の大學に入學することの出来るやうにしたいといふのである。

科目の自由選擇と例の生徒の助手乃至見學者制との關係

ゲリーリ學校にては、斯くの如く餘程の程度まで科目に對して生徒各自の自由採擇

を許してゐるのであるが、之れと例の『助手』の制との相互關係に就いては、此處に特に一言して置かねばならぬと思ふ。扱て、一口に如何なる科目を生徒が學習するかを自由に選擇するといへば、一寸考へたところでは、成るほど勝手氣儘な、何の組織もない亂雜なものと思はれるかも知れぬが、ゲリーリ學校に於ては決してさる勝手氣儘な亂雜なるものではない。勿論、下級の生徒に在つては、普通正規の科目が規定され、それを課されるのである。即ち、英語、算術、歴史及び地理は總べての生徒が之れを學ばねばならぬ必修科目であつて、それに附隨して、例の應用の作業並に講堂作業とが課されることになつて居る。それから、總べての生徒は體育と音樂及び表現と、何等かの種類の手作業及び理科の課業とを遣らねばならぬこととしてある。理科や、産業的作業や、音樂及び表現等の課程は、中學級以下に於ては、交替的に之れを取るものである。而して、何れの課程も一學年の三分の一丈け續く。生徒各自、即ち、男生徒にせよ、女生徒にせよ、兎に角其の生徒各自が如何なる理科の課業又は工場の作業を取らんとするかを決定する場合に、初めて生徒の自

由選擇といふことが行はれるのである。故に、此の初めて選擇するのは、決して偶然の思ひ付きや、氣まぐれからではなく、眞に生徒の自然淘汰作用の結果、換言すれば、生徒が自然に自己の得手の方を選択する結果である。それであるから、此の選擇を爲す以前の數年間といふものは、兒童が自己の興味や、力量を眞に自ら發見し出すところの、言はゞ一種の無意識的なる職業豫備學校となつて居る譯である。故に、決して何等の事情も生徒に無理強ひをするやうなこともなければ、又、生徒が唯だ漫然と選擇するやうなこともない筈である。

幼稚園や、又は最初の一、二、三級の生徒は、控所と廊下とを歩き廻はつて居るのであるが、何にせよ、總べての工場でも、研究室でも、實驗室でも別に校舎と隔離して居らず、校舎内にそれぞれ配備されて居るのであるから、何れの作業も同等に意味あるもの、大事なものと見えるので、生徒は、それらを熟知するあらゆる機會を持つて居る譯である。そこで、生徒の好奇心、究知心が喚起せられ、而して、彼れは他のものに指圖をされずに自由にガラスの戸や窓から室内を覗き込み、上級

の生徒達が作業して居るのを見て如何にも感心して居るといふことになるのである。

生徒が第四級に達すれば、最早や如何なる作業が自分に興味あるかとか、自分は如何なる作業を遣つて見たいとかいふ考を懐くのである。そこで、第四級及び第五級の兒童等は、色々の工場や、研究室や、實驗室などにて作業して居るところの第七級、第八級、第九級の生徒の手傳者又は助手として這入つて行くのである。若し、第四級や第五級の生徒が、或る作業に興味なきことを覺つたならば、それでも尙ほ彼れは或る他の作業を試みる機會を與へられ、斯くして次第に自分にとつて一個の職業として、將た又、一個の慰藉として恐らく價值ありと思はれるものを選び出すことになるのである。若し又、彼が専門的技術を持つならば、上級に進んで専門的に修得することを許されて居る。扨て、斯かる方案は實に生徒が持つところの能力は何物でも残らず之れを發揮せしむやうな立派な仕組みとなつて居り、且つ又——多くの學校に在つては、單なる愚にもつかぬやくざ仕事、いやいやながらにやる仕事に終るべき——作業に對する生徒の興味を殆ど自動的に確保せしむるやうな、巧妙なる仕組みになつて居るものと思はれるのである。

ゲーリ學校に於ける職業指導に當るものは講堂受持の教師である

斯かる學校組織に於ては、生徒の職業指導等は簡單にして、而かも効果多きものである。かの工場及び産業に關する材料を提示するの責任を帯べる講堂受持の教師は、一々の商賣や、産業に就いて、それが職業として望ましきものなりや否や、一々利害得失に關して、生徒に教授することを得るのである。例へば、學校の鉛管工は自分の教へる生徒と一緒になつて、普通の住宅や又はアパートメントの爲めに鉛管装置を爲しながら、其の間に家庭に於ては如何なる工合に鉛管を取扱ふべきかに就いて固より生徒に教授することは出来るのである。

尤も鉛管の教師は鉛管敷設に就いては非常に多大の知識を持つて居るかも知れぬが、然し、其の知識を如何にして多勢の生徒に提示すべきかに就いては、頗る不知

案内なることがあるであらう。そこで、例の講堂受持の教師が、其の知識を戲曲的に効果あらしむる爲めに、換言すれば、例へば鉛管に關する知識を目のあたり生徒に活寫する爲めに、講堂に於ける其の知識の提示を監督するの責任を探ることになるのである。鉛管工と其の受持の生徒とが、一個の商賣としての鉛管敷設業の利害得失を實地に提示する其の當日に、産業の教師は講堂の時間に於て兒童に向ひ、此の週の中に、鉛管敷設の課業に加入するの得失に關して、自分と親しく相談することを許す旨を傳へるやうにするのである。斯やうにして、生徒等は、此の講堂受持の産業の教師に依つて、自分等の工場選定の指導を受けることになつて居る。

斯かる方法に依つて職業指導は爲されるのであるが、今日學校に於て斯かる指導を實施することが、恐らく最も賢明な方法であると思はれる譯である。實に斯かる方法は、初め兒童の興味を促がし、然る後、其の意志を起さしめることに依つて、兒童が有する業務的傾向を指導するものと言はねばならない。他の諸々の活動を擔當する講堂作業の教師も亦、之れと同様の方法で以て、生徒の相談相手たる役目を

勤めるのである。何れにせよ、教師が一個の職業として生徒將來に於ける效用如何を、一々の作業に就いて研究するに當つて、斯くの如く、教師と生徒とは協働し合ふのである。而かも、組織的に協働し合ふのであつて、決して漫然氣紛れに遣つて居るのではない。

實際、斯かる方法は單に學校作業を組織立たしめ、且つそれを生きたものたらしむる效があるばかりではなく、それを眞面目なもの、又實際的目的を有するものと爲すの效がある。それは兎に角、デーリ學校に於ける編制は徹頭徹尾、生徒をば、矢張り教師同様、單に學校丈の學校生活ではなく、更に外部社會との關係を顧慮せる學校生活の樞要肝腎なる本體と爲すやうに仕組まれて居ることを忘れてはならない。

第六章 ゲーリ學校の教授及學習法

ゲーリ學校の教科課程は大體インディアナ州の規定に據るものである——ゲーリ學校の一特色たる例の表現科の教授の一斑を説明す——學科に小區分を施すことなく又各學科の聯絡教授に注意する——學科は又都市の社會的活動と聯絡せしめて教授する——ゲーリ學校の第九級の生徒は大學の所謂歴史科實習を爲す其の一例——歴史を絶えず現代社會と結び付ける結果公民科の特設は不必要となる——歴史科の時間に例へばアセスの教育とゲーリの教育とを比較せしむる——殊に興味ある下級生徒の歴史教授も亦實感を基礎として行はれる——理科は歴史及び地理が社會に親しましむると同じく自然界に慣れしむるものなれば幼時より授くべし——ゲーリ學校にては幼少の時分より實驗室の設備に接觸せしむ——下級生徒の理科の課程は所謂教師と生徒との經驗談話會である——金錢及び時間の浪費に過ぎざる現時の中學校に於ける理科教授——趣味と教訓とを兼ね備ふる植物科及び動物科の課業——物理学の課業に於ては種々の装置及び設備を實際の教科書と爲す——科學的作業に對する生徒の旺盛なる興味が意外の結果を生じたる實例——ゲーリ學校の科學的作業も亦歴史科と同じく市の施設と聯絡をとるに努む——ゲーリ學校は化學の授業としてゲーリ市の飲食物の検査を行はしむ——ゲーリ學校の化學の教授は科學が都市生活を改

善する實際的效果あることを覺らしむ——實用的學科並びに修養的學科を二つながら社會的目的に從屬せしむ

ゲーリ學校の教科課程は大體インディアナ州の規定に據るものである

ゲーリ學校の教科課程は、獨得の多くの特色を有するにも拘はらず、決して中心を逸したる風變りのものでもなければ、又科目過剰といふやうなことはない。それはインディアナ州の公共教育省、即ち文部省が規定せる州の學校の學科課程に準據するものである。従つてゲーリ學校の全課程を修了せる生徒は、十六歳にて大學に入學準備を爲すことを許されて居る譯である。唯だゲーリ學校が、前にも詳述せる如く特に他の學校よりも餘計に色々の設備を有して居るのであるが、此の特別の設備は到底普通の學校課程の經費丈では之れを經營して行けぬことは、明かなる筈である。そこで、ゲーリの學校では、第一に一日の在校時間を普通の學校より延長

し、他よりも一層巧妙なる時間の配當を爲し、第二に總べての學科を統合し、相互關係をとらしめ、それに依つてそれらを生きたもの、實際的生命あるものと爲すことに依つて、右のゲーリ特有の種々なる教育的施設を維持經營することを得るのである。即ち、飽くまでも學科の應用を眼目とし、爲すことに依つて學ぶの精神に副はんとするものである。

ゲーリ學校の一特色たる例の表現科の教授の一斑を説明す

下級に於ける正規の學科は、前にも言つた通り、從來の仕來りに従つて教授され、それに例の應用といふ課業が加はつて居るのである。例へば、英語の課業は、『表現』科の特別教師を雇つて、それに依つて一層活用的、實際的のものと爲すに努められる。而して、表現科の特別教師の外に、尙ほ音樂の特別教師が居つて、交互に英語科の實地應用に努力して居る。

扱て、此の表現科の作業は、説話と演技とを合せたものであるが、其の眼目とす

るところは、普通に爲されるよりも一層の理解と鑑賞とを以て生徒が讀み又は話することの出来るやうにするに在ることは、多言を要せずして明らかである。換言すれば、それは學校のすべての學科に、諸種の書き方や、暗誦の作業に、又、例の講堂並びに應用の作業に、一層活き活きした、實感、實用の効果を發揮せしむる如き教養を兒童に與へんとするものに外ならない。これまで、教師にとつては、かゝる作業が一種特別なる技術を要すること、尙ほ又、米國には優秀なる説話及び戯曲の傳統を缺いて居ることとの爲めに、ゲーリ學校に於ける此の計畫は、實に之れを全然卒直にして重大なる實驗に外ならぬものと言はざるを得ない譯である。蓋しゲーリ學校の學科目は總べて自己活動といふことに重きを置いて居るからして、斯かる表現作業の練習は、元來肝要缺くべからざるものであることは、多く言ふまでもなからう。而して、此の方面の教養は、苟くも生徒並びに教師がゲーリ學校の精神を把持し、講堂並びに應用の作業を實地練習する時には、學科の質の上に急激なる進歩を示すに至るであらうと期待せられて居るのである。

學科に小區分を施すことなく又各學科の聯絡教授に注意する

正規の學科と特殊の作業との時間配當が平等であることが如何に重大なる意味合ひのものなるかに就いては既に吾々の論述したところである。扱て、ゲリーリ學校に於ける教授の重要な一特色として擧ぐべきは、かの多くの學校に於ける學科目編制上非常に困難を感ぜしむるところの、極端なる學科の小區分といふことを避けるといふ點である。そこで、ゲリーリの學校では、歴史と地理とは如何なる學級でもさうであるが、之れを一緒に教へ、別々に引離して教へることはない。次に、言語、文法、綴字、読み方、及び書き方等は成る丈け之れを英語科として一緒に教授されるのである。又、生理學は動物學と關聯して教へられるといふ工合になつて居る。

従つて、教師は其の教授する科目の時間配當を決定する上に、非常の創意と自由考慮とを許されて居る譯であるから、若し必要なりと考へた場合には、其の受持科目以外の種々の學科に特に重きを措き適宜按排し聯絡を保たしめるやうに取り計ら

ふことを得る次第である。例へば、同じ英語なる科目の各分科は、總べて他の學科と關聯せしめて絶えず教へられて居るが如き、或は歴史著しくは物理の時間には、初め先づ綴字の稽古をやつてもよろしいといふが如きは、それである。尙ほ又、理科又は歴史の時間に作るところの文章や、若しくは理科部にて發行する小冊子などは英語の教師の監督下に屬するが如きも、それに外ならない。それから、前にも述べたが、工場の教師や、賣店の教師などは、實用英語及び實用數學の特別課業を與へることになつて居るのである。兎に角、ゲリーリ學校の學科目は、之れを孤立せる一團の教材として教ふるやうなことがなく、それは學校といふ社會生活の總べて他の諸部門に關係ある知識として教へるやうに、絶えず苦心されて居るといふことが出来る。

學科は又都市の社會的活動と聯絡せしめて教授する

學校内に於て、各學科の聯絡教授に努むるのみならず、尙ほ又、出来る丈け學校

外の大なる都市生活の社會的諸活動と聯絡を保つやうに教授されることも、大に注意せねばならぬところである。歴史及び地理科に於ける教材は眞に『吾々の生活する現實社會』其のものであり、而して、教科書や、歴史本や、地圖や、地球儀や、新聞や、雜誌等は、其の社會といふ世界を理解する爲めの参考物たり、資料たるものに外ならない。勿論、斯かる教授方針を實施することは、有爲有能なる教師に依つて施さるべき一種の實驗であるに相違ないから、今此の作業を形式的に通り返りの説明振りを以て書き記す譯には、固より行かぬ筈のものである。然し、其の實に見事なる教授法の一部を或る實例に依つて、次に述べることは出来るであらう。

例へば、エマーソン・スクールに於ける歴史教室を參觀すれば、地圖や、統計表などが一面に懸けられるのを見て、殆ど喪心するばかりであると思ふ。扱て、此等の地圖や、統計表などは、大概生徒等自身が、所謂『實行に依れる學習』を爲さんと努力を以て、尙ほ一つには學校社會に對して、各自應分の寄與を爲さんとの熱心からして、調査作製したものである。その他、インディアナ州の投票の大統計表や、

インディアナ州元老院の早見や、インディアナ州の行政一覽表や、米國政黨の發達一覽表などを初めとして、多くの戦争地圖や、寫真等は、四壁を一面に掛けられて居る。尙ほ又、此の歴史室は之れを教室といはんよりも、一個の工場であるといつてもよいと思はれるのは、其處には地圖を描く爲めの廣く大きなテーブルがあり、又、新聞や雜誌が可成り一面に擴がつて居つたりするからである。

ゲリー學校の第九級の生徒は大學の所謂『歴史科實習』を爲す其の一例

事實、ゲリー學校の第九級の生徒等は、今日或る進歩的なる大學に於て試みられるところの、『歴史科に於ける實驗的作業』、即ち歴史科實習なるものを實地に行つて居るのである。數年前、ゲリーの市で公園新設の運動を起し、盛んに論議しつゝあつたことがある。當時、數週間に亙り、ゲリー學校の歴史科では、此の公共問題を其の教材として使用したのである。そこで、歴史科では、『都市、即ち吾々の居住す

る健康地として（特に公園に關聯して）なる問題を研究して居つた。而して、此の研究題目の梗概又は要領は、學校に附設されたる市の公立圖書館の分館に備へ付けられたる參考書を見て之れを作り、其の要領を歴史科の時間に朗讀して種々討議したのである。實に斯かる課程は殆ど實地の都市建設案の討究であり、現代の社會的興味ある問題中、最も面白く且つ有意義なる課業であり、且つ、歴史上、社會上乃至地理上の最高なる知識を悉く網羅せしむる課業であるといはねばならぬ。否、更に斯かる課程は、苟くも理解力ある生徒ならば、誰れでも了解の出来る地方實際の問題から出發して、巧みに歴史を調べさせる動機を生徒に起さしむる遣り方であるといつてよろしい。今、右の問題研究の一般要領を次に列記して見よう。

都市。即ち吾々の居住する健康地として（特に公園に關聯して）

- 一 アセンズに於ける娛樂中心所。
- 二 羅馬に於ける娛樂の爲めの諸施設。
- 三 中世紀に於ける都市。英國の部。
- 四 中世紀に於ける都市。歐洲大陸の部。

- 五 近世に於ける英國の都市。
- 六 アルゼンティナ、チリ、ブラジルに於ける現代の都市。
- 七 獨逸に於ける大都市。
- 八 獨逸に於ける小都市。
- 九 巴里及び佛蘭西の小都市。
- 一〇 亞米利加に於ける植民地時代の都市。
- 一一 第十八世紀最後の二十五年間に於ける亞米利加の都市。
- 一二 南北戦争以前の亞米利加の都市。
- 一三 南北戦争より第二十世紀に至るまでの亞米利加の都市。
- 一四 第二十世紀に於ける亞米利加の都市。
- 一五 小都市を如何に建設し直すべきか。
- 一六 亞米利加の大都市に於ける公園。
- 一七 都市建設會議。
- 一八 都市の全地域及びそれに對する公園地面の比率を示す統計。
- 一九 シカゴ市及び紐育市の運動場。
- 二〇 同一地域に學校及び運動場を設置するゲリー方案。

現代の背景としての古代史及び現代社會の理解を與ふるものとしての現代史

如何なる兒童も現代社會の事件の背景たる歴史的知識を持たずして、學校を退くといふことではいかぬといふ、歴史科の教師の考からして、古代歴史の課業は、一週一日、必ず現代歴史の教授に割かれることになつて居る。そこで、十個の最も重要な事件の摘要を、毎週必ず歴史筆記帳に記録するのであるが、其の十大事件の中、外國の事件は三個、亞米利加全體に關する事件が三個、而して地方關係の事件は四個である。又、指定されたる雜誌、とり分け『リテラリー・ダイジェスト』、『アウト・ルック』、『インデペンデント』に掲載されたる記事中から、諸種の報告を集録して、それを歴史の時間に朗讀する。斯くの如く、何事も生徒の周圍に起れる興味ある事件を土臺として、それから歴史を學ばしむる手掛かりを得るやうに仕向けられて居るのである。即ち、歴史は現代より先へと進まずして、成るべく現代より後へ後へと進んで研究する方法を採つて居る譯である。

千九百十二年より同十三年に於て、近世歴史の課業を受けつゝありし生徒等は、バルカン半島諸國民の過去の歴史に就いて興味を覺えたのであるが、それは何故に彼等が一致同盟して、土耳其帝國に對抗したりしやの理由を理解せんが爲めに外ならなかつた。そこで、教師は暫らく本筋から外れて、此の點を明らかにし、それに依つて此等同盟せる歐洲諸國家の歴史を生き活きと傳へんとしたのである。其の翌年、即ち、千九百十四年に於ては、之れと同じやうに、墨西哥の問題並びに西班牙種亞米利加共和國と北米合衆國との關係の問題に對して、生徒の興味が燃え立つたのである。尙ほ又、其の年には歐洲大戦争が勃發したのであるが、此の大戦亂に對する生徒の興味が盛んに刺戟されたので、歴史の教師の話では生徒は何んの苦もななく、西歐諸國の過去二世紀間の歴史を學び得たといふことである。

歴史を絶えず現代社會と結び付くる結果公民科の特設は不必要となる

斯くの如く、歴史を學ばすところから、ゲリー學校では、所謂公民科なるものを特別の一科として設くる必要がなくなる譯である。斯かる方法に於て教へられる歴史及び地理は、實に何人も持つべき一般普通の常識となるであらう。而して、種々の雜誌及び新聞は自由^ニに生徒に依つて使用されるのであるが、斯く最良の週刊物や新聞などを系統的に讀むことは、確かに重大なる價值を有する教養となるものである。殊に、印刷出版物が頗る低廉であり、容易に手にされる時代に在つては勿論の事に屬する。

歴史科の時間に例へばアゼンスの教育とゲリーの教育とを比較せしむる

或る時、或る歴史科の時間に古代アゼンスの教育と現代ゲリーの教育との比較を研究問題として課したことがあつた。斯くの如きことは、實に生徒をして現に自分等の爲しつゝあるもの、及び自分等の周圍に起れるものの意味を理解せしめようとして絶えず努力苦心して居る一つの實例といふことが出来る。實に、ゲリーの教育は生徒をして自己の學校の目的に通ぜしめんと努めて居るのである。故に、生徒をば、一種知識の劣れるものであつて、自分とはとても比較にならぬほど知識の優れた教師から、何等文句なしに、知識を授けらるべきものであると認めて教へるのではなくて、同じく學校といふ社會の同等にして平等なる一市民として、何時でも如何なる處でも學び得るならば、必ずそれを自由に學ぶものとして、之れを教授するのである。

古代歴史を學ぶ生徒等は、其の標語乃至格言として、『古代諸國民の經驗を學んで米國市民として各員を進善せしむる』といふ言葉を與へられて居る。吾々は此の文句に言ひ表はされた理由以上に立派な、歴史研究の理由を考へることは六ヶしいの

である。是れ實に、學級組織、學級自治の爲めに憲法を草せるゲーリッ學校の生徒の本意をさながらに發表せるものでなくて何んであらうぞ。斯かる『社會的内省』は誠に貴重なるものたると同時に、極めて稀有なる學問研究の本質たるものである。

殊に興味ある下級生徒の歴史教授も亦實感を基礎として行はれる

下級生徒の歴史教授には、生徒が現に學んで居る地方の地形圖を複製したり、又或る戰爭乃至侵寇の進行徑路を記述したりする爲めに砂を盛れるテーブルを使用させるのである。千九百十二年に、或る一人の生徒は手づから木工場で長さ約五呎ぐらゐの羅馬時代の寺院の模型を建造したのであるが、彼れは其の考案をば、歴史本に記されたる記事から考へ付いたといふことである。

又、歴史の時間を利用して屢々討論を試みたり、又は總べての兒童に十分興味ある記事を作つて、之れを講堂の時間に朗讀したり、若しくは往々地方諸新聞に掲載したりすることがある。學校の掲示板は控所に掲げられ、それには重要な記事の

切抜きを揭示するのである。而して、生徒は此等の切抜きを持參し、そしてそれらを外國の時事、米國の時事、州、市並に郡の時事、繪畫及び諷刺畫、及び現に研究されつゝある特殊題目に關する事項等の見出しの下に分類するのである。又歴史科では廊下に設けらるゝ小なる歴史博物館を管理して居るが、そこにはインディアン土人の遺物や、中央亞米利加より採掘せる陶器類の寄贈蒐集品を保藏して居るのである。

理科は歴史及び地理が社會に親ましむると同じく自然界に慣れしむるものなれば幼時より授くべし

次に、理科の教授はゲーリッ學校に於て一種獨得の地位を占むるものである。恰も前に言へる歴史及び地理科が生徒をして其の周圍の社會及び政治の世界を理解せしむる手掛かりとして教授されるのと同じやうに、理科は自然界にまで生徒を慣熟せしめ、親炙せしむるものとして教へられるのである。扱て、此の原理としては、一體兒童は未だ其の心意が感受性に富み、且つ自然現象に對する兒童の興味が鋭敏

である時分に於て、既に理科の勉強を開始すべきものなりといふに在る。かの兒童が絶えず、しつこく發するところの種々なる疑問は、自分の棲息する世界に就いて理解を得んと試みに外ならない。若し此等の疑問にして答へられざらんには、兒童は年長するに従ひ、自然現象に對する興味を次第に失ふことになるであらう。又若し兒童が眞實なる科學的知識の伴ふところの自然世界と相親しむやうにならないならば、彼れは兎角眞實なる鑑賞なしに唯だ單なる物知りといふ感じだけで満足するやうになり勝ちである。

ゲリーリ學校にては幼少の時分より實驗室の設備に接觸せしむ

従つて、ゲリーリ學校に於ては、理科の課業は今日大抵の小學校にて教へらるゝ單純なる自然研究以上に教授されるのである。兒童は早くから既に實驗室に於ける經驗を有つて居る。第三級、第四級、第五級若しくは第六級等の年少兒童は、中學級に於ける先輩生徒の作業の所謂助手又は見學者として、或は化學實驗室、或は物理實驗室或は植物實驗室、或は動物實驗室等に行くのである。尙ほ又、『兒童は本來科學者なり』との原理に則つて、彼等は實驗室の装置及び材料に接觸することを許されて居る。實に、かゝる教授上の經驗の結果は、年少の生徒も年長の生徒同様に注意深くして、實際に装置其の他の材料を毀損したり、損害をかけたりのやうなことは、少いといふのである。

下級生徒の理科の課業は所謂教師と生徒との『經驗談話會』である

下級生の理科の課業は、形式一片の教科書素讀や、又は形ばかりの實驗室作業に依つて教へられるのではなく、ゲリーリ學校の教師の所謂『經驗談話會』なるもの、即ち讀み、且つ語り、且つ實地に觀察し、且つ實驗するといふ一種の結合に依つて教授されるのである。即ち、教師と生徒とは自然現象を取扱へる彼等相互の經驗に就いて、平等の立場に立つて、相互の考へや、思想を交換する間に教授される仕組みである。而して、外部の自然世界をば、一大實驗室として取扱ふのであるが、兎に

角此の經驗談話會なるものは、兒童の經驗をば、科學的原理に照らして解釋する爲めに利用される譯である。或は、生徒が教師の手傳へに依つて自分の經驗を發表することもあれば、或は各自小規模の實驗作業を爲すこともあり、又は教科書の事柄とか、科學的物語本の記事を仰山に誦讀することもあるといふ風である。

金錢及び時間の浪費に過ぎざる現時の中學校に於ける理科教授

ゲリー學校の理科の教師は、斯く考へて居る。即ち、今日一般の中學校に於てはすべて生徒を恰も専門の科學者たらしめんと目的を以て、種々込み入つた教授方法を實施して居る結果、金錢と時間との二點に於て、其の理科教師は、誠に非常の浪費、無駄をやつて居るのである。然るに、ゲリー學校に在つては、之れに反して、兒童に込み入つた科學者の研究方法を採らしむべきものでなく、兒童には速答と迅速なる結果とを與へるやうに仕向くべきものであると考へられて居るのである。何んでも手つとり早き效果と反應とを直感直知せしむるやうにするのが、ゲリー學

校の遣り方である。一體、兒童が絶えず外部の自然世界といふ一大實驗室に於て目撃しつゝある人生の基本的經驗をば、態々人爲的なる實驗室に於て複寫しようとするのは結局、エネルギーの浪費であるといふ譯である。

趣味と教訓とを兼ね備ふる植物科及び動物科の課業

種々なる花卉草木や、學校園の手入れや、動物園に於ける動物の世話や、それからそれら動植物の習性の研究などは、實に植物學及び動物學の學理的方面を打ち建てる爲めの具體的材料を數限りなく提供するものである。生徒等は一々それらを観察し、そして其の觀察するものを記録するやうに仕向けられて居る。千九百十四年に動物の課業を受けた或る學校では、學校動物園の記事を記述せる寫真入れの小冊子を作り上げたことがある。其の小冊子の本文は生徒等が書いたものであり、又、其の寫真も、彼等が調製せるもの、それから其の小冊子は是れ又生徒等が學校の印刷工場でも如何にも氣持よく印刷せるものであつた。其の結果、現はれたものは、誠に

興味ある此の小冊子なので、常に生徒等自身が見て誇りと愉快とを覺えたのみならず、學校全體が又大に誇り且つ愉快を感じ得たのである。斯かる科學的研究は、學校生活全體と密接不離の關係を持ち、樞要缺くべからざる生きた關係を有するものとなるのである。

物理學の課業に於ては種々の装置及び設備を實際の教科書と爲す

物理學の課業の爲めには、學校の點燈設備や、發熱設備や、換氣設備等は、實に是れ又實際の教科書となつて居る。今、ジェファーン・スクールに於ける物理學の課業を、此處に例示すれば、凡そ次の如きものである。

ジェファーン・スクールにては、産業的工場をばボイラー室の周圍に建設してあるが、其處の發熱設備は、此の工場の肝要缺くべからざる部分を成して居る。物理學の課業は、氣候や天候をも研究する。又、特に種々なる工場に於て使用される諸機械の原理を研究するのである。斯くして、各工場は物理學實驗室の擴張たるの役

目を盡す譯である。下級の生徒でも、其處に送られて、課業として、自轉車だの、クリーム分離器だの、芝生の草刈機だのといふ機械を取りはづし、そして其の構造の説明を聽くやうになつて居る。自動車及び自動自轉車は、是れ又種々なる實際的教訓を與へるものである。舊き自動車で、修復を要するものは、これ又、ゲリー學校に於てはそれを恰も物理學の實驗であるやうに看做されて居る。或る時、十二歳の女生徒の一组が、物理學の課業の時に、九歳の例の『助手達』と一緒になつて、自動自轉車を研究したことがある。一體、ゲリー學校の教育を一切掩ふところの特色ともいふべき、かの學科に嚴然たる孤立を認めぬといふ點からして、其の物理の時間も綴字の課業で始まつたのである。初め自動自轉車の各部分及び各過程の名稱を一々口授され、それから、生徒等はそれを書き記した。そして、其の名稱を一一覺えた後に、教師は其の機械の各部分を一々説明したのであるが、其の間、此の組の生徒はさきの名稱を今一度綴つて居つたのである。

聽て今度は氣化とか蒸發とかいふ或る物理學上の原理に就いて、教師は更に生徒

等の記憶を想起せしめた。そこで、初めて教師は其の自動自轉車を運轉せしめたが、女生徒は更に其の動作を一々書き記したのである。總べて一通り済んだ時に女生徒達は黑板に書かれたる自動自轉車の過程及び諸部分を記述せる文章を筆記したのである。然し、其の文章の中には或る六ヶしい言葉は之れを態と省いて置き、そして生徒をしてそれを補はしむるやうに仕向けられたのである。

此の少女達が如何にも非常に快調に、そして津々たる興味を以て課業を受けて居る様を見たり、彼等が一々それに含まるゝ諸々の原理を、如何にも聰明なる顔付きにて、理解し居る光景を見るにつけて、實に、此の課業は熟練なる教授の模範であることを首肯し得られるのである。尙ほ、此の教授の方法は、如何に具體的の作業が科學的知識を打ち建つる基礎として使用さるゝかの次第を、巧妙に説明するものと思はれる。而して、理科の課業に於ては、男生徒と女生徒との間に何等の區別をも置かぬといふ點も亦、大に興味ある事柄であると思ふ。

科學的作業に對する生徒の旺盛なる興味が意外の結果を生じた る實例

扱て、此の科學的作業に對する旺盛なる生徒の興味は、實に意外の結果をもたらすことがある。ゲリーリの中學級に居る或る男の生徒が、當時ゲリーリの教育事務局が防火手段に就いて考究して居つた時に、非常に優秀なる防火の方法及び過程に關する研究を試みたのであるが、それは即座に同事務局の採用するところとなつたといふ話が傳へられて居るのを見ても、容易に知られるのである。

ゲリーリ學校の科學的作業も亦歴史科と同じく市の施設と聯絡を とるに努む

右の話は、學校に於ける科學的作業が、學校外の廣き社會生活と如何に相互關係を保つかの次第を物語る代表的の事例である。恰も歴史の課業が生徒をして學校外

の政治的生活に親炙せしむる效あると同じく、物理及び化學の課業は、市の産業と生徒の學校に於ける作業とを結び付け、又、科學的作業の應用さるべき公共諸機關とを聯絡せしむるものである。例へば、或る男生徒が化學の課業の時に近所にて發見したる下等なる鐵鑛を一囊持参したとする。そこで、其の組は教師の指導に従つて、簡單なる電氣熔鐵爐を造り、其の鑛石を還元するといふやうにするのである。然らば、此の實驗を基礎として、ゲリーリ市の今日を開いたところの、かの大なる鋼鐵業の研究にまで、生徒を推し進ませるやうに仕向けるのである。

ゲリーリ學校は化學の授業としてゲリーリの飲食物の検査を行は

しつゝ

ゲリーリ學校の化學の作業の一部分は、直接にゲリーリ市に對して貢獻を爲してゐる。一體、ゲリーリの市は、エマーソン・スクールの化學の教師としてゲリーリの化學技師の職務を有する人を雇つてゐるのは、確かに幸福でもあり、聰明な遣り方である

といはねばならぬ。其の一結果として、ゲリーリ學校の實驗室はゲリーリ市の實驗室の一延長となつて居る譯である。ゲリーリ學校の中學級の化學の生徒達は、恰も下級生が彼等の助手として働らいて居るやうに、此の市の化學技師の助手となつて作業を遣つて居るのである。而して、此の化學の教師と一緒になつて、ゲリーリ學校の生徒は、市の水や、種々なる牛乳を一々試験するのである。市の衛生検査官の指導の下に、ゲリーリ學校の生徒等は、例の應用作業の一部として、市内の製酪場や、製造場や、パン屋や、食品店等を視察する。千九百十四年に、化學科の生徒は、『牛乳検査報告書』を發行したが、これには一般的報道を含むは勿論、自分等の實地に検査せる報告をも載せてあるのである。種々なる記事は、何れも英語の作文課業の一部分として記録され、而して、此の報告書は生徒自身が學校の印刷工場に於て印刷したものである。而かも、其の實質に於て、此の報告書は、農學校が發行する報告書に比して、殆ど何等の遜色を見ざるものであつた。

尙ほ、或る組の生徒等は處々を視察する中に、市の多くの商店から、砂糖や、糖

菓等の見本を蒐集し來たり、それらの純不純や、色附け材料の有害無害をば、一々學校の實驗室に於て試験するのである。又、他の組の生徒は、ゲリーリの市に賣られて居る軟性飲料物を實驗し、其の成分を試験したり、又其の生理的效果を研究するのである。斯くして、生徒は實際に於て市の食料検査官代理たるの觀があり、而かも、其の報告をば市の公文書に掲載することになつて居るのである。扱て、此の種の検査の結果として、ゲリーリ市に於ける純良食品法違反の告訴に於て、これまで一度も其の訴訟に負けたことがないといふことである。斯くの如く、ゲリーリ學校の化學の課業は、直接ゲリーリ市の社會生活と關係を有するのである。

ゲリーリ學校の化學の教授は科學が都市生活を改善する實際的効果あることを覺らしむ

ゲリーリ學校の生徒は、尙ほ又、學校に供せられる種々なる物品、例へば石炭や、セメント等を一々試験して、品種指定書通りのものであるか否やを吟味するのであ

る。彼等は自分等の周圍にある事物を、常に實際的教科書として使用するばかりではなく、彼等の知識を應用して、自分等にとつてのみならず、實に學校社會全體にとつて非常に有益なる作業にまで直接指し向けることを得るのである。

扱て此の検査の作業を生徒に爲さしめ、且つ彼等が生活する物理的自然的境遇を一々觀察、批評、試験せしむるやうに仕向けることの如何に重大なる價值あるかは、殆ど測り知れざるところである。何故なれば、たとひ小部分の生徒だけが此の科學検査官代理たるの經驗を得、且つ性質的及び數量的試験を施して一々事物を思考するの習慣を得るにしたところで、それは確かに市の政治的及び社會的生活狀態に何等かの効果を發揮することは争はれざるところである。而して、斯かる科學的教養は、科學をば、人間生活に缺くべからざる樞要の役目を爲すものなることを覺らしめるものである。決して、科學が自然の力や、自然的物質が如何なる作用を爲すかに關する知識たるに止まらずして、それらを吾々の望ましき方法に作用せしむる上の一種の技術に通曉せしむる實際的效用あるものと爲すのである。

實に、ゲリーリの如き學校の生徒は、下級の時分からして科學が社會の生活狀態を改善せしめ、且つ彼等が生活する地方自治體の保健及び安全を益々増進せしむるの價值あることを正確に會得するを得るであらう。

實用的學科並びに修養的學科を二つながら社會的目的に従屬せ

しむ

ゲリーリ學校の學科は、所謂實用的のものと、修養的のものとの區別を斷然撤廢せんとする苦心を示して餘りありと言ふべきである。即ち、すべての學科は成るべく具體的方法、換言すれば、生徒日常の經驗に一々訴へさせ、且つ生徒をして何事かの作業を實際に行はしむることに依つて教授されるのである。而して、其の作業なるものは、出來得る丈け學校といふ社會の生活を向上せしめ、若しくは學校外の社會に役立つところの活動と爲されるのである。此の點から觀れば、此等の作業は總べて所謂功利的乃至實用的のものではあるが、然し、それらは同時に深刻なる教育

的のもの、乃至は所謂修養的のものである。即ち、學理は之れを實用に際して、決して閑却すべからざるものである。故に、ゲリーリ學校に於ては藝術的作業及び學理的研究は、手先の作業と同等の地位を占め、同格に置かれて居る譯である。それであるから、所謂實用的とか、或は修養的とかいふものは、實際に於て二つながら所謂『社會的』の目的に従屬せしめられるのである。即ち、如何なる種類の學科も皆なこれ社會的目的に資せらるゝものとされて居るのである。これ實にゲリーリ學校の教育の根本基調たることを記憶しなければならぬ。

第七章 ゲリーリ學校の自然的訓練法

ゲリーリ學校の生徒は學校生活の純然たる自治を誇りと感ずる——ゲリーリの學校は形式的訓練を極度に輕減せしむるの組織である——ゲリーリの學校には自然の裡に秩序あり又訓練が行はれる其の一例としてフレームル・スクールの土曜學校の或る作業を擧ぐ——ゲリーリ學校の生徒は通學することを少しも強制的と感じて居らぬ——ゲリーリ學校にては生徒の早引等は別種の意味にて非常の苦痛を與へる——學校生活に適合せざる生徒は學校の農場に送つて作業せしむ——普通に行はれる學校自治よりも一層廣く一層徹底的なる生徒會議——生徒の催し事は總べて學校の課業の實地應用に外ならぬ——生徒の自發的自治の一例としてのエマーソン學校改良期成協會の組織——斯かる實地教育の道德的效果に對するデューイ教授の批評——ゲリーリ學校の訓練の道德的效果に對するハーラン・アブデグラフ博士の批評——ゲリーリ學校に於ける訓練の基調は服従にあらすして實に自恃に在り——ゲリーリ學校の生徒間に漲れる美はしき自由の精神と自治的訓練の一挿話

ゲリーリ學校の生徒は學校生活の純然たる自治を誇りと感ずる

ゲリーリ學校に於ける訓練の問題は、普通の公立學校の如く半ば軍隊式の訓練を施

行されるのとは、根本的に其の趣を異にして居る。教師と生徒との相互協働、生徒相互間の協働が非常の程度に於て行はれ、又、實驗室や、工場や、例の應用等の作業に實きを措かれ、而かも此等の作業には活動の自由と談話の自由とを必須缺くべからざる條件となすの結果は、其處に普通の學校生活とは比較すべからざるほどの自然的なる空氣が流れ、たとひ無意識的ではあらうとも、或る程度の純然たる自治生活が行はれるやうになることは、少しも怪しむに足らぬところである。而かも、ゲリーリ學校の生徒等は一般に彼等の學校の此の獨得無二なる特色を意識して居り、且つ學校が如何なることを爲さんと努めつゝあるかを理解して居るのである。扱て、生徒の此の感じ、及び學校の名譽を誇りとする氣持ちは、到底舊套を追ひ、舊式の教育法に依つて教育さるゝ學校には見られざる一種の美はしき學校精神を涵養せしめ、美はしき校風を培養せしめずには措かないのである。

ゲリーリの學校は形式的訓練を極度に輕減せしむるの組織である

一體、ゲリーリ學校の組織は、形式的訓練を最小限に止めしむるやうに仕組まれて居る。即ち、それは教師をして、生徒の課業中私語することに對して嚴重なる罰則を課せしめざることとし、又、形式上の處罰を行はしめず、形式的なる操行點や、又は形式的なる答め立て等を一切廢せしむるやうにして居る。種々なる作業が順次に課せられ、そして、一日中身體を動かす機會があるからして、生徒の神經を過勞せしむるやうな弊害を生じないのである。斯くして、生徒等は教師の監督を離れて自分丈けになつても、決して激するやうなこともなければ、むやみに騒ぎ立てるやうなこともない譯である。應用の課業や、工場の作業は注意を強ひるのであるから、生徒は絶えずそれに心を奪はれ、興味を惹き起されるのである。従つて、何もせず居るとか、又はぼんやりして居るといふことから、兎角惡戯をやるやうなことになるものであるが、ゲリーリ學校の課業は、固よりかゝる弊害を避けることが出来る。デューイ教授の言へる如く、『仕事を爲すやうに慣熟すれば、兒童は教師の拘束的なる監督の下にあらざる時も、絶えず仕事を爲し、且つ自分は自分の周圍に居る他の生徒と

協働して居るといふことを考へることを得るであらう。』若しも教師の役目がこれまでのやうな説教者のそれより變じて生徒の手傳人たるに至らば、教室に於ける必要條件は、決して非常に嚴重なる靜肅や、軍隊式の秩序などではなくて、實に云爲行動の自由と自發的精神とであることは、多言を要せずして明らかであらう。

ゲリーリの學校には自然の裡に秩序あり又訓練が行はれる其の一 例としてフレイベル・スクールの土曜學校の或る作業を擧ぐ

ゲリーリ學校を參觀する者は、此の形式的訓練のないことが、一種特別なる有益の効果を擧げて居ることを、實際に見るであらう。兒童が如何にも自由に又、各自勝手に歩き廻りながら作業を爲して居るのや、彼等が參觀者に向つて如何にも自發的にどしどし話しかけるのを見るならば、さすがに驚歎せざるを得ないであらう。教室や、實驗室や、又は工場に於て、彼等は勿論小聲で私語することはするが、それは丁度演奏會にて人々が私語する程度のものであつて、何れも別に『秩序嚴守の

規則』があるからといふのではなく、唯だ御互靜肅にしよういふ動機からして、他人の邪魔にならぬ程度の私語をする丈けのことに過ぎない。此の自然の裡に秩序あり、且つ他の邪魔にならぬやうに振舞ふといふ一種の氣分乃至空氣は、斯かる自然的の學校に於て初めて作られるものである。

之れに就いて一例とも見るべきものとして、フレーベル・スクールに於て或る土曜學校の一組に於ける自發的訓練の興味ある光景を述べて見よう。(米國の學校は土曜日は開校せざることにして居るが、ゲリーリの學校にては例の校舎を遊ばせて置くとの不經濟であり、又非教育的であるといふ考へから、有志の生徒の爲め、主として學力補充に便せんとて土曜日に開校することは、前章に述べた通りである。故に土曜日の開校は有志學校と稱せられる譯である)。扱て、此のフレーベル・スクールの土曜日有志學校の或る組が木工場にて作業して居つたが、其の工場には小さき男の生徒が一杯にはいつて居り、そして彼等は其の週の作業にて取殘されたる木屑をせつせと寄せ集め、それで色々の玩具を造らうとして居つたのである。教師も無論其の

室に居つたが、兒童達の騒々しいのを少しも制しようとはしなかつた。而かも兒童達は各自恰も嚴肅な訓練の先生の下にでもあるかと思はれるほど、倦ます憊ます、せつせと自分の玩具を造つて居つたのである。若し、誰れかが疲れ厭きて、そして他の仲間の生徒の邪魔でもしようとする、恰もうるさい蠅でも飛んで集たやうに、唯だ掃ひ除けられるに過ぎなかつた。

扱て、斯く生徒の自由を尊重するといふ背後の理由はどうであるかといふに、一體、學校の規則なるものは、兎角反則、違反に陥らしむる傾向があり、其の結果として、學校の訓練は大體から言へば、其の規則が直接造り出すところの色々の問題を解決する爲めの試みに外ならぬといふことが、根本の理論となつて居る譯である。或る參觀者は、ゲリーリ學校の自由なる様を見て、打ち驚き、これでは學校が亂れて居るではないかと、其の證據や兆候を求めようとするものもあらうが、然し、微塵もそんな形跡を見出す譯には行かないのである。そこで、參觀者は、ゲリーリ學校の生徒は、一種の『公共感念』なるものを持つて居るといふことに深く氣付くであら

う。蓋し、ゲリーリ學校に在つては、其の學校は兒童等自身の建設する一施設であり、そして、かの街路や公園などが公共的のものであるといふのと同じ廣い意味にての公共的のもの、公有物であるといふ感じが漲つて居るのである。従つて、其處に溢るゝ氣風なるものは、實に高尚なる民主的俱樂部の情調に外ならず、而して、其の俱樂部の各員は自から自分のものであると意識するところの種々なる特權を利用しつゝある譯である。

一體、吾々は兒童等が若し自分から考へて態々惡戯をするやうな氣が起れば兎に角、さうでない以上は、彼等は決して、自分の學校を汚損するやうなことをするとは考へられない。丁度、堂々たる辯護士が自分の俱樂部の鏡板などを汚損するやうなことのないのと同じとではなからうか。斯かる自由の漲つて居る學校に於ては、生徒等は少しも威張らずに、學校は吾が物なりと感じ、そして、恰も職工が自分の工場を使用し、若しくは美術家が其の畫室を使用するが如くに、學校を使用するものと思はれる。

ゲリーリ學校の生徒は通學することを少しも強制的と感じて居らぬ

事實、ゲリーリ學校に於ける控所は實際に學校の通路であり、街衢となつて居るし、又、腰掛は生徒が造つて、そして壁に沿ふて置かれ、其處に腰掛けて彼等は一緒になつて氣樂に儀式張らずに勉強して居るのが見られる。又、或る生徒が讀誦が濟んだからと言つて許されてテーブルの上で地圖を描いて居るのを目撃することがあらう。何故に、斯く勉強の自由を許すかといふに、其の理論としては、かうである。一體、如何なる生徒でも、若し外にもつと大事な課業を學ぶことの出来る場合には、必ずしも其の時間の課業を無理に學ばしむる必要がないといふのである。何んでも皆な其の組の課業を一律に學ばせるのは、却つて殘酷であるといふのである。

兒童達は、又、親達と一緒に夜學校に来て、そして全然監視を受けずに廣い控所にて遊び廻はるのである。凡そ此等の光景を見るならば、參觀者は次の如き感想を懷くに至るであらう。一體、斯かる學校に生徒等の來るのは、それは教育が強制的

であり、義務的であるといふことからではなく、又は、其の親達が子供等の世話を
見る面倒を避ける爲めに學校に寄越すからして、子供等が仕方なしに學校に来て居
るのではなく、實に、學校で行はれることは、兒童等にとつて頗る興味があるので、
其處へ一刻でも行かすには居れないといふことから、學校へ來るのであるといふこ
とを首肯するであらう。學校の諸設備は、極めて自由に使用されて居るのであるが、
これは常に貧しき家庭にて、其の子供等の活動の爲めに備へ付けることが出來ない
ばかりではなく、富裕なる家庭でも到底不能であるところのものである。故に貧富
如何なる家庭でも缺けて居るところの、種々なる缺陷を補給する場處が、即ち學校
に外ならぬといふことになる譯である。

ゲリーリ學校にては生徒の早引き等は別種の意味にて非常の苦痛 を與へる

ゲリーリの學校のやうな自由な、そして種々の設備の整つて居る學校に於てのみ、

初めて有效なる訓練が行はれるものであると言つても決して過言ではなからう。學
校に於ける諸々の活動がゲリーリの學校に於ては頗る興味あるものであるからして、
若しも學校に通はせられないとか、學校から歸らせられるといふことは、それだけ
で確かに一種の處罰となる譯である。それであるから、かの強情者や始末に了へな
い生徒などを篤と訓誨し改心させる有力有效なる處罰法は、ゲリーリ學校には何時で
も持ち合はせて居る次第である。かの嚴重苛酷なる訓練家が持ち合はせたいと思ふ
て止まざるやうな有效有力なる處罰法はちやんと備つて居る譯である。

一體、普通の學校に、訓練といふことで非常に困難するやうな問題が持ち上がる
といふのは、主としてそれらの學校が飽くまでも軍隊式に規則一點張りの訓練法を
採つて行かうとするからである。勿論今日は體罰といふことが一般に廢たれて居る
から、これを加へる譯には行かないが、然し、それに代はつて規則違反を處罰する
何等の方法手段も考究せず、唯だもの規則づくめで、生徒を取締つて行かうとす
るから、色々訓練上の難題が起る譯である。かの操行點を減ずるといふ方法は、

事實上效果なく、さればとて學校に居残らせることも、これは居残る生徒を處罰すると同時に、居残らせる監視者たる教師にも同じ苦痛を與へることとなるし、又、普通の學校では、生徒を學校から歸宅させることは、十中八九生徒の愉快を買ふことになるのである。斯く考へて來ると、普通の學校に於て行はるゝ訓練の方法は、一つとして非常の効果を有するものがないといはざるを得ぬのである。

然るに、ゲリーリ學校に於ては、此の生徒を歸宅させ、早引きさせることは、學校とはとても比べにならぬほど面白くない場處に歸へらせられることを意味し、又、學校の遊戯や、又は特殊的作業から追放されることは、眞の苦痛を生徒に感ぜしむる底のものであることを記せねばならない。それだから、ゲリーリ學校の自由な、自發的なる訓練は、決して學校に何等の訓練なしといふ意味合ひのものでないことが明らかであらうと思ふ。事實又、訓練といふことが實際に行はれる次第である。即ち、始末に了へない生徒があつて、時々學校の實地行政に當たる校長から嚴重なる處罰を受けることは決してない譯ではない。然し、普通の學校のやうに、『惡戯で手に了へぬ生徒』などといふ話は殆ど聞かれないのである。

學校生活に適合せざる生徒は學校の農場に送つて作業せしむ

如何なる手段を盡しても、『斯かる種類の學校に適合せざる』児童は、學校農場（ゲリーリの東十二哩に在る）に行くことを許される。然し、これは不良児童を收容する感化學校ではない。例へば、身體虛弱にして學校生活に堪へざるものは、休暇の間其處に送られ、それでなくとも休日などは一組の生徒が農場に行くこともある。農場は總坪數百エーカーを有し、其の中には模範的なる乳酪製造場あり、優良なる果實園があり、又、丈夫な多くの農場の屋舎が設けられて居る。或るインディアナ州立の大學を卒業せる學士が、此の農場の管理を爲し、そして其處をば高成績の栽培及び生産の場處と爲さんとて、營々働らいて居るのである。暫らく其處にて作業して居る一團の児童達は、自分等で住居區域を建て、そして俱樂部室をも設けたのであるが、彼等の中には風儀のよからぬ區域の家庭の子弟もあれば、又、生計の道と

して農業をやつて行かうとして居るものもある。

尙ほ又、彼等には一人の教師が附いて居つて、學料も矢張り農事作業と共に教授されて居るのである。兒童は其の作業に對して一時間十五仙を支給されて居るからそれで以て食料を支拂ひ、尙ほ其の他のものを買ふことが出来るやうになつて居る。扱て、農場に在る兒童は、結局或はエマートン・スクールに戻つて來るか、或は又處々の製造場等にて働らくことになるのである。然し、矢張り、此の農場は依然として學校教育の貴重なる附屬物となつて居る譯であるし、又、一方に於ては農場附近地方に於ける農夫連の収入の源となり、且つは實物教授とならうと種々畫策されて居るのである。要するに、これ又學校のあらゆる施設は、單に學校丈の私すべきものでなく、廣く地方社會の公共利益を計らんとする、ゲリーリ學校の教育方針に基いたものであらう。

普通に行はれる學校自治よりも一層廣く一層徹底的なる生徒會議

ゲリーリ學校に於ける訓練の自由は、何に依つて得られるかといふに、それは他の學校にて行はれる所謂『自治』及び『名譽制』(名譽制とは元來、米國の大學に於て試験の際に、學生の人格品性を信じ、其の名譽心に訴へて教師がそれを監督することなき遣り方を指して言ふものである。此處にては勿論、生徒の自治に任せ、教師の干渉なき訓練の方法を言ふのである)等の訓練方法を設けずして保持されるのである。一體、教師に全權が保留されてある以上は、如何にかゝる自治の方法を用いたところで、それは畢竟恥づべき申譯のものたるに過ぎぬであらう。嘗て暫らくの間、エマートン・スクールに於て、『ボイキル』なる名稱の下に念の入つた自治の組織を試みたことがあつた。此の『ボイキル』とは、市政をもじつたやうなものであつた。然し、それは餘りに眞實らしくなく、態とらしきものであつたので、永續きはしなかつた。そこで、それに取つて代つたものは、所謂『生徒會議』なるものである。

此の生徒會議なるものは、上級の生徒に依つて選舉されるものであつて、競技や、社や、其の他生徒間の事柄を管理支配するものである。又、此の生徒會議は、例

の講室の時間を實地に世話焼くのであつて、其の爲めに、それは一人の司會者兼書記を選擧するが、それには毎月、男の生徒と女の生徒と交互に選擧されることになつて居る。生徒會議員の選擧は、普通行はるゝ形式に於て行はれ、學校の印刷工場に於て生徒が印刷せる投票用紙を以て選擧するのである。尙ほ、選擧小舎も建てられ、審判者も任命され、且つ又、選擧運動を遣つた後に選擧が終結することになつて居る。而して、此の選擧運動には、各黨派のものが會合して、各選擧事務所の事務を執る爲めに一人の男生徒と女生徒とを指名し、又、選擧運動の管理人を任命する。而して、選擧運動のプログラムは此の管理人の作製するところである。候補者は各自其の政策に關する意見及び議論を發表せんが爲めに盛んに演説をするのである。

ゲリーリ學校に於ては、萬事さうであるが、此の政治的行事も亦、大袈裟に實施されて居るのである。最近行はれたる選擧運動の際には、エマーソン・スクールの生徒會議では、講堂に於て公會演説を試み、そして、ゲリーリ市の名士が出席して、夫れ夫れ自分の所屬黨派の爲めに議論するところがあつた。而して、此の會合は、全然生徒等自身が組織し管理したのである。實に、斯かる實地應用は、普通の學校にて行はるゝ自治の實行よりも遙かに眞實であり、又遙かに教育的のものであると思はれるのである。

生徒の催し事は總べて學校の課業の實地應用に外ならぬ

ゲリーリ學校に於ける生徒の催し事は、學校に於て行はるゝ實際の課業から發生するもので、それと關係を持たぬものは一つもない。例へば、競技の組や、諸種の遊戯は、總べて直接に體操場に於ける作業及び組織的遊戯と關聯せるものである。樂隊や、奏樂は音樂の課業から發生して居り、月報は英語の課業の一部として、中學級の生徒が編輯發行し、學校の印刷工場に於て彼等が之れを印刷するのである。故に、嚴密に言へば、ゲリーリの學校には『課業以外の活動』は一つもないといふことが出来る譯である。即ち、課業は用意周到にあらゆる健全なる活動を供給し、而して

生徒の興味は、それから發生するのである。今日非常に多くの學校に於て困難視されて居るところの、かの生徒の祕密結社や、學校競技の管理等の諸問題は、斯くの如くして之れを避けて居る次第である。ゲリーリ學校の生徒等は、彼等の俱樂部や、競技の組をば、學校といふ社會生活と無關係なものと考へるやうな氣風が少しも見えない。

生徒の自發的自治の一例としてのエマーソン學校改良期成協會の組織

如何にして此の自發的なる會合が生ずるに至るかの次第を示す一例として、千九百十四年エマーソン・スクールに於ける第九級男生徒の英語科の時間に就いて述べて見よう。第九級の男生徒等は英語科の時間にエマーソン學校改良期成協會なるものを自發的に組織したのであるが、それは此の學校自治體の爲めに種々なる公共的改良策を講せんとするものである。而して、此の協會の諸般の事務を遂行する上に

必要なる演説や、文章等は、之れを英語科の課業の基礎材料とするのである。

斯かる實地教育の道德的效果に對するデューイ教授の批評

上述の事例は、實に生徒等が自治的組織に於て發揮するところの、あらゆる自發性と創意性を如何にかして利用せんとするゲリーリ學校の一方ならぬ努力を示したものに外ならない。斯かる能動的なる教育の道德的效果は明らかに大なるものがある。デューイ教授は、興味あり、且つ自由なる學校は『作業をば兒童の爲めに餘りやさしくする』ものと考へるのは、非常なる誤解であり、而して、理想的の學校に於ては、兒童の興味と要求とは同一のものであると考へて居る。更に、又同教授の言葉に従へば、興味ある作業をば必ずやさしいものと考へるは一の誤解である、それは或は六ヶしいこともあり得よう、然し、興味が盛んであれば、その六ヶしさを打ち消して了ふ、而して、此の六ヶしさを打ち消すところに道德的價值が宿つて居るのである。六ヶしい仕事は或は價值あるものであらうが、其の仕事の價值といふも

のは、決して仕事の六ヶしいといふことに存する譯ではない。一體、生徒に爲し甲斐ありと思はしむる作業、自分等の興味か、若しくは學校の興味かに關係あるものとなつて現はるゝ見込の確かなる作業は、かの極端に嚴重なる訓練主義者が兒童に與へる作業と全く同じ程度の強さと堅さを持つたものであるといふ意味のことを言つて居る。

ゲリーリ學校の訓練の道德的效果に對するハーラン・アブデグラ

フ博士の批評

ゲリーリ學校を參觀せるものは、大抵、其處の生徒の如何にも一種優秀なる氣風を帯びて居ることを首肯するであらう。或る信賴すべき教師の言葉を藉りて言へば、即ち『餘處の學校に見られる嚴格極まれる訓練を受けずに、自由に且つ自然的に生徒が自治する』光景に打たれるであらう。米國教育局のハーラン・アブデグラ博士は、ゲリーリ學校の訓育に就いて、次の如く語つて居る。曰く、『ゲリーリ學校の生徒等

は今日優良なる大概の學校に於ける同年齡の生徒よりも一層大なる自制、一層の尊敬、及び一層周到なる他人尊重の精神を發揮するやうに思はれる。それは大體上ゲリーリ學校生徒等の競技及び遊戯から來て居るものと思ふが、然し、一部分は學校の組織乃至管理と學校の行政中に現はれたる種々の行事とに原因するものと考へたいと思ふ。ゲリーリ學校の兒童は自己の英雄崇拜の目標たる教師、而して其の教師に兎に角依頼するやうな氣になるところの教師は一人も持たぬのである。さればと言つて、自分が益々憎惡の念を以て忌み嫌ふやうな大敵とも感ずるやうな教師を一人も持つて居らない。ゲリーリ學校の生徒は色々の教師を持つて居つて、其の教師は何れも異つた感化を生徒に與へるのである。斯くして、ゲリーリ學校の生徒は自分の個性を益々自覺するやうになり、そして自分が如何なることを爲すべきか、又如何なるものなるべきかを自分で決定することを學ぶに至るのである。

斯かる組織の下に於ては、仲間の生徒等の感化は、普通の學校に於けるよりも比較的強固のものとなるのである。それ故に、生徒仲間の團體に於て正しき理想の

發達を益々助長するやうに留意することが頗る肝腎である。組織的遊戯、團體運動は、此の學校に於て其の大なる價值を持つことになる。自制、協働、勇氣、自敬、他人尊重、及び公正の感は、實に著しき程度にまでゲリーリの青年の中に發達して居るのであるが、これは余の推察するところでは、主として體育部の監督施設其の宜しきを得たる結果、全校に漲るに至つた精神乃至校風に由れるものであらうと思ふ。苟くも自分等の學校をば、街路よりも一層愛し、且つ自分等の遊戯及び身練習に由れる優秀なる身體的風格を有し、尙ほ又、すぐれたる自制心と獨立の思想とを持つた生徒等は、自然に學校の課業に對して他に見るべからざる有利なる態度を持つに相違ないのである。』

ゲリーリ學校に於ける訓練の基調は服従にあらずして實に自恃に在り

實にゲリーリ學校の如き學校が、其の訓練の副産物として生徒の品性を教養するこ

とは多言を要せずして明らかであらう。自己活動、自己又は協働の教育、活動の自由、教師生徒間の友愛、興味あり、且つ多種多方面の作業、學習、及び遊戯運動、學校の一切行事に關する生徒の意識、社會的内省、凡そ此等總べての要素が結合して、一種優秀なる道德的教養を兒童に與へ、且つ今日社會が一番要求するところの望ましき知識的並に道德的諸性質を生み出すのである。實に、斯かる學校の養成せんとするものは、服従ではなくして、實に自恃自頼の精神である。斯くして、ゲリーリ學校に於ける訓練の根本基調たるものは、實に此の自恃自頼の精神であることを忘れてはならない。

ゲリーリ學校の生徒間に漲れる美はしき自由の精神と自治的訓練の一挿話

斯くの如く、ゲリーリ學校に漲れる空氣は、一種美はして自由の精神と、自治的訓練とである。生徒に自己活動の自由を許し、各自興味を以て忙がしく働かせるや

うに仕向けて行くのが、ゲリーリ學校の訓練法である。所謂直接的訓練法を採らずして、間接的訓練を用ひて居るとも言はれよう。ワート視學も、兒童が興味を以て忙がしく働いてゐる時には惡戯をなす暇がなく、又、嚴格な規則づくめにしない時には、兒童は如何にせば彼等自身を支配し得るかを自然に發見するものであると言つて居る。千九百十二年シカゴ市に於て開催せられたる米國聯合教育會の席上に於て、ワート氏は一場の演説を試みたが、其の中に、『二十世紀の學校は市民性及び品性ヲ教へし、個性及び能率ヲ發達せしめ、思考力を高め、應用の習慣を作り、構成的作業の眞味を知らしむるやうでなければならぬ。而して、此等のことは生徒に自己活動の自由を許すことに依つて初めて爲され得るものである』と言つて居る。(横山氏の紹介に據る) 以て其の自由主義の教育法なることを知り得るであらう。ゲリーリ學校は生徒をして自から教育せしむることを根本義となし、學校はそれに對してあらゆる機會、指導及び便宜を與ふることに努めて居るのである。今、『教育學術界』第三十五卷第二號及び第三號に互りて市村與市氏の該博にして頗る有益なるゲ

リーリ學校紹介の一文の中より、訓育の實際に關するオー・エッチ・バンコック氏の視察談を抄録することを許されたい。(千九百十五年十二月『クリスチャン・ヘラルド』誌所載のバンコック氏視察談を市村氏が紹介せるものに據る)。

『予(バンコック)が初めてレスタター氏(フレール・スクール商業部長)に逢つた時には、ゲリーリ學校は本來商業的であるとの印象を得た。更に醫藥部に行つた時に、ゲリーリ學校は本來健康的であると感じた。即ち肉體の爲めには新鮮なる空氣と清潔なる食物を得る事、蠅を追ふ事、校庭を掃除する事などを熱心にやつてゐる。同様の精神が學校の到る處に溢れてゐる。之は正に教育に成功してゐる所以である。子供等は教師の熱心を吸収して反映するものである。予がローレンス嬢(フレール・スクールの教師)と話してゐる時、恰も十歳になる一人の少女エルシー・ハバースがはいつて來た、ローレンス嬢は其の子の書いた論文を取つて予に見せた。其の論文は専門學校の生徒の書いた論文よりも更に立派な論文であつた。予は其の少女に尋ねた。

「エルシーさん！ あなたは今何をしてゐますか？」

「私は今醫者の手傳をしてをります」

其の時やつれた小さなハンガリヤ人がぶらりとはいつて來るのを見るや、ローレンス嬢より何の注意も受けないのに、エルシーは急いで腰をかけさせ、檢温器を取出し、其を拭ひて口中に入れ、唇を閉ぢさせ、専門醫も及ばぬ程の同情ある様子で嚴かに傍に立つて看護してゐた。予は其の學校で尙ほ他の多くの人々と話をしたが、何れも家庭にある思をなし、又彼等の作業に興味を起した。勿論此の興味の一部は教師の人格的信用に歸するのである。學校其自身が愉快である。何故なれば其等は實生活其物であり、あらゆる場合に於て人生其物に觸れてゐるからである。現代教育は興味主義に最も重きを置く。而して興味は動機に屬する事は常識の我等に語る所である。子供に確實なる知識は何故大切であるかを示せ。然らば彼等は其を需むるであらう。ゲリーリ學校では明確なる事をする事を努め、事物の真相に向つて幕進し、教育を人生の時務と結付け、かくて生き／＼した興味と人生の確實なる準備

との二重の目的を達しようとする。上述せる所で此の學校では子供等が如何に喜んで働いてゐるかを見る事が出来る。彼等は終日學校で働いてゐても決して長いとは感じない程喜んで居る。彼等は朝早くから來て遅くまで嬉々として學校にゐる。ゲリーリ學校では一學年は四十八週間で子供等は其の間出席する。彼等は學校の理想を家庭に移植し應用する。學校生活が子供の能力を著しく發達させる事は實に不思議な位である。此の學校は子供等の品性に大影響を與へてゐる。ゲリーリでは子供は市井にぶら／＼遊んでゐない。此の市には所謂不良少年問題はない。ゲリーリ警察署長マルチン氏は此の學校區域内には不良少年の過失罪は少しもないと公言してゐる。こゝでは子供等は實際働いてゐる小さい男女の大人である。此の市の子供にはいたづらをしてゐる暇はないのである。

ジェファーンズン學校長マルチン嬢の所へ一人の少女が來て、

「先生何うやつて此の繪を切り取りませうか？」

と尋ねたが、此の一問でも此の學校の教師と生徒の美はしい協力の精神を見る事が

出来る。

學校に近づいて直ぐ目に付くものは、何處にも子供の群が居る事である。校舎にはいると、嬉し相な顔をして自由に歩いて居る子供達を見るので、規律も懲罰も無いやうに見える。然し其の觀察は寧ろ反對である。子供等は實際に於て規律があり、又其の規律を守らんと努める。然し校則違反の罰を恐れては無い。普通の學校の犯罪の多數は青年の動物的精神に歸する。然しゲリーリ學校にては子供等は自然動物的精神を作業勤勞の方に消費してゐる。それで非常に御しやすいのである。

マルチン嬢は其の組織の面白い結果を予に示した。それは圖書室にある一枚の着色した埃及ミイラの畫である。予が興味を以て其を見た時に、彼女は次の話をした。「其の畫は一人の子供が作ったのだ。普通の學校ではとても駄目だと専門家に見放されたうすのろの怠惰者が作ったのだ」と。

實に此の一片の觀察記を見ても、美はしき自由と協働の精神とが、ゲリーリ學校にたゞよつてゐる光景を思ひ浮べることを得るであらう。

第八章 デューイ教授とゲリーリ學校

ゲリーリ學校はデューイ教授の教育哲學の具體的適用なり附デューイ教授とワット視學——デューイ教授の實驗學校とワット視學のゲリーリ學校附クレウス教授の叙述——デューイ教授の『明日の學校』中に現はれたるゲリーリ學校の一斑附米國開拓時代の學校は其の當時の孤立的個人本位の社會觀を反映せりとの説——産業界に科學の應用さるゝに至り延いて教育改造を促がすに至つた——現代社會に適應せんが爲めには舊式學校を如何に改造すべきか——學校改造の根本義は學校を胎芽的社會と爲すの一事に盡さる——ゲリーリ學校の背景たる根本的思想並びに創案者ワット氏の根本問題——業務經營の原則に則つて學校を經濟的に科學的に經營するの法——身體の健康を計ることは學科其の他の作業と同様に重要視せられる——ゲリーリ學校では生徒の協働作業に依つて教授及び訓練の實際化に努力して居る——中學級を繼續履修せしむる爲めには如何なる方法を講ずるや——ゲリーリ學校にては生徒各自に適合するやうに課業の編制を爲すの融通が利く——ゲリーリ學校の訓練及び教授の根本基調は社會的動機社會的目的の高調に在り——ゲリーリ學校の公民科は書物に依らず實地應用の作業に依つて學ばる——教授の學區受持の任務には非常に大なる社會的意義が存する——ゲリーリ學校の作業教育を與ふる根本原理は那邊に存するか——ゲリーリ學校に於ける諸種の工場は如何なる經營法に據るものなるか——手先きの作業は兒童の推理及び判斷の

力を發達せしむるやうに仕組まれる——ゲリーリ學校に於ける第三級に至るまでの職業教育の一環——次第に職業的傾向を加味する第四級以後の工場作業——第七級からは總べての生徒は責任ある工場の作業者となる——ゲリーリ學校に於ては作業の年限よりも生徒各自の作業の業績に依つて進度を定める——作業にも學課同様に遅緩普通迅速と三分し兒童各自に適合するやうに按排される故に中途退學者極めて少い

ゲリーリ學校はデュイイ教授の教育哲學の具體的適用なり

附デュイイ教授とワート視學

ゲリーリ學校の教育原理及び教育方法を通覽する時、吾々はそれが先年來朝せるコロンビア大學教授ジョン・デュイイ氏（一八五九年生）の教育哲學に準據し、それを具體化するものなることに氣付くであらう。ワート視學（一八七四年生）は嘗てデュイイ教授がシカゴ大學に教授たりし時、其處の研究科に在りて、専ら英獨佛及び白耳義等に於ける教育法に就いて研究したりといへば、勿論デュイイ教授の指導を受け、且つ同教授の思想上の感化を蒙りたることは容易に想像せられるのである。『ゲリーリ諸

學校』の著書ポルン氏はワート氏は、デュイイ教授の生徒兼弟子であると言つて居る。固よりワート氏の特徴は教育哲學の方面に在らずして、専ら其の實地經驗の方面に發揮されて居り、従つて、ゲリーリ學校の教育哲學は決してワート氏の獨創に成れるものでなく、全くデュイイ教授の教育哲學に基くと稱せられる。

例へば、ゲリーリ學校が兒童の全活動を發揮すべき一個の小社會、一個の共存團體たらんと期するのは、實にデュイイ教授が其の名著『學校と社會』中に力説されたる胎芽的社會の具體化といふべく、ゲリーリ學校が爲すことに依つて學ぶといふ、作業と學習との協働を計つて居るのは、同じくデュイイ教授の『學校と社會』中に縷説さるゝ趣意を實現せるものと言はざるを得ない。尙ほワート氏が標榜せる學科作業運動の三位一體、若しくは更に表現を加へて四重的興味、乃至四重的活動なるものは、デュイイ教授が是れ又『學校と社會』中に説ける社會本能、探究本能、構成本能、表現（藝術）本能と同工異曲のものであり、ゲリーリ學校が兒童中心主義を採り、且つ兒童の個別的取扱に重きを措けるは、同じくデュイイ教授の同書中に時代に順應する新教

育が從來の教師中心主義を排して兒童に教育の中心を移さんとする教育上のコペルニクスの革命に在りといへるに則れるものと見るべく、其の他、デューイ學校の協働的精神を高調し、團體的及び間接的訓練の法を採り、學校と社會との協調を保ち、學校の社會化を力説し、産業の教育的價值を尊重し、現代の産業的並びに社會的事情に適應せんとするのは、是れ又、デューイ教授がシカゴ大學在職中に成れる右の『學校と社會』中に其の思想の原型を見出すことを得るのである。尙ほ又、ワート氏が科學的管理法に據つて、デューイ學校の經營に膺れるのは、直接の原因としては勿論デューイ市急激の發展に歸し得べく、又近時米國の産業界に喧傳さるゝ科學的管理の原則を學校經營に適用したるものに外ならずとするも、尙ほ且つデューイ教授が『學校と社會』中の一章とせる教育上の無駄の中に述べられたる兒童生活の無駄を排せんとするの思想と一脈相通するところなしとは斷じ得まい。而して、デューイ教授が右の一章中に圖解せる學校系統案なるものは、著しくワート氏の學校系統案を聯想せしむる概がある。

加奈陀及び米國の作業教育を實地に視察せるヘンリ・エルフォード・ガリ氏はワート視學が(一)舊來の讀書算の教授は、舊式教授法とは別種の方法にて行はるべく、(二)頭腦と心情と手先とは、全き一人の協働的發展中に夫れ夫れ特殊の役目を持つべく、(三)男女兒は指導宜しきを得れば學科教室以外の場處にて非常に學習し得べく、(四)兒童の能力は抑壓すべきにあらず、讀書算を學ぶ際に益々兒童の發展を助長せしむるやうに之を發揮せしむべしとの四個の命題に則つてデューイ學校の作業教育を行はしめて居るのは、全くデューイ教授の教育學理を實地に適用せるものに外ならぬと言つて居る(『ロンドン・タイムス』昨年九月三十日の教育附録所載に據る)。又、ランドルフ・エス・ポールン氏も前に述べたる如く、デューイ教授の教育哲學を奉ずるもの、否實にデューイ教授自身もデューイ學校をば、從來企てられたる中で一番完全優秀に同教授の教育哲學を適用せるものと認むべく、又、進歩的なる『明日の學校』の最善なる諸側面の綜合を實に此のデューイ學校に見出すであらうと言つて居る。斯く、デューイ學校は實に自他共に許す如くデューイ教授の教育思想の具體化せるもの

に外ならぬ。同教授は千九百十五年エヴェリン令嬢を伴ひ、親しくゲリーリ學校を訪問し、父子共著の『明日の學校』中に詳細にゲリーリ學校を紹介して居る。(昨年編者が『教育教授の改造』と改題して同じく弘道館より翻譯せるものは即ちこれである)。

デューイ教授の實驗學校とワート視學のゲリーリ學校

附グレーヴス教授の叙述

デューイ教授は嘗てシカゴ大學に在職中、同大學内に附屬小學校、即ち所謂實驗學校を設け、實驗的に兒童教育の研究に當つたのであるが、其の當時即ち、千八百九十九年の四月、父兄並びに右の實驗學校に興味を有する一般人士に向つて、學校と社會の進歩、學校と兒童の生活、教育上の無駄等の題下に連續講演を試み、同年十一月纏めて一書と爲し、前項に引用せる『學校と社會』と題して公けにしたのである。而して、此の書の序文に述べられたるところに據れば、教授の實驗學校の教育的事業は合同的企業であり、其の形造を造り上げる爲めには多くの人々が寄り集ま

つて盡力し、殊に同教授の令聞の聰明にして經驗ある見識が其の學校の教育事業の隨處に發現し、且つ其處の教師達の智慧、技術、熱心等の御蔭に依つて、初め茫漠無定形なりし方案も遂には獨得の生命と活動とを持てる形式實質共に判然明確なるものと化したといふことであるが、千八百九十年の創立後七年にして、千九百〇三年デューイ教授がコロンビア大學に轉するに及びて此の實驗學校は廢さるゝに至つた(尤も現に附屬小學校はあるが、デューイ教授の最初期待せる實驗學校なるものの意味は固より薄らいで居る)。

扨て、デューイ教授の『學校と社會』は、同教授の試みたる實驗學校の新教育の原理及び方案を述べたるものであり、而して、ワート視學のゲリーリ學校は、前項にも言へる如く同教授自身の認めて以て其の教育哲學の具體的適用なりと爲すのである以上、吾々は右の實驗學校とゲリーリ學校との間に存する關係を見通がす譯には行かない。固より二者の間に必ずしも直接關係ありとは言はぬが、少くとも其の間に一脈の相通するところあることは争はれざる事實であらう。今、教育史家フランク・ビー

レボンド・グレーヴス氏（ペンシルヴァニア大學教授にして「教育評論」主筆）に據つて、デューイ教授の實驗學校に就いて傳ふるところがあらう。

デューイ教授の實驗學校は當座間に合せの姑息的なる教育原理に據つて創始されたものではなく、次の三個の根本的なる教育問題を解決せんとして起つたものである。三大問題とは、即ち、第一に、如何にして學校と家庭及び地方社會の生活との關係を密接ならしむべきか、第二に、兒童自身の生活に積極的價值と眞實なる意義とを持てる歴史、理科及び藝術上の教材を如何にして取入るべきか、第三に、読み、書き、算術の教授を如何にして其の背景たる日常の經驗と業務とに關聯せしむべきか、而かも『兒童がそれらの學科と自分にとつて興味ある事柄との關係を學んで、それらの學科の必要を自覺するやうに』教授するには如何にすべきかといふに在る。

然るに、此等の諸問題を解決する爲めの方案は、主として、諸種の産業の研究に於て之れを求めたのである。而して、其の理由は、『學校は、社會生活の典型的状态を再現する場合を除いては、決して社會生活の準備たるべきものでない』といふに

在るのである。即ち、學校はそれ自身既に社會なのであつて、社會の準備にあらずといふに在る。而して、此の學校にて産業的活動を供する爲めに使用したる手段は固より多くの附隨的産業も同時に使用されるが、主として工場作業、料理、裁縫及び編物等の實地作業から取入れて來たのである。勿論、此等の業務は、夫れ夫れの専門家を養成する目的で取入れられたのではなく、自由化の爲めであつて、それに依つて人間の修養に供したのである。而して、諸種の産業の歴史的研究の爲めに多大の時間を費したのである。デューイ教授は、之れに就いて述べて曰く、『人類の産業歴史は、物質的又は單に功利的なる事柄ではない。それは知力の事柄である。其の記録はこれまで人類が如何にして思考するかを學び、何等かの効果あるやうに思考することを學び、人間生活をば別種のものたらしむるやうに人生の境遇を改造する方法を學びたりし記録である。それは同時に又倫理的の記録である。即ち、人類が自己の目的に役立たしむべく長い間辛棒して造り出したる境遇の物語である』と。斯く見れば、デューイ教授の實驗學校方案はフレーベルの教育事業の根柢たる個人

的諸活動の表現及び社會的協働の眞實なる原則に他くまでも則れるものなることを知り得るであらう。果して、『此等の叙述が正しくフレーベルの教育哲學を示すものならば』、デューイ教授は『自分の學校は實に其の哲學の具體的説明と認めらるべきである』と認めて居る。然し、此のシカゴ大學の實驗學校の産業的活動は、決してフレーベルの恩物の如く、又、幼稚園の業務が往々にして然かりしが如く型にはまつた、外部的のものとはならなかつた。兒童は『いつでも可能なる時には、最も適切な材料と道具とを取捨選擇するの知的責任を與へられ、且つ自己の作業の手下と方案とを工夫し出す機會を與へられ、自己の誤謬を認め、如何にしてそれを訂正すべかを見出すやうに仕向けられたのである。』斯くして、作業は決して『單なるお極まりの仕事や又は習慣なるものに化して了つて、其の教育的價值を没却するやうなことはなつた』。又、其の結果として、此の學校にては『兒童が學校に來ることを好み、又は愛すると同時に、而かも娛樂にあらざる作業が、此の學校の精神であり教育であつたといふこと、又、此の自由をば品性を高め、且つ強める手段たらしむるやう

た聰明にして同情ある監督の下に於て自由が許されて在つた』といふことは、衆評の悉く一致したるところであつた。

斯く見れば、シカゴ大學の實驗學校は今日では既に廢校になつて居るのであるが、而かも其の學校に發生發展したる教育上の實驗は、今日尙ほ非常に多大の實を生じつゝあることを察知し得るであらう。それは處在に現出せる同様の新企圖を達成し、現今教育の理論並びに實際の上に非常の影響を與へて居るのである。

以上はグレイヴス氏の教育史が傳ふところであるが、ワート氏のゲトリリ學校も確かに、デューイ教授の實驗學校に激成され、其の影響を蒙れるものの一つに相違あるまい。

デューイ教授の『明日の學校』中に現はれたるゲトリリ學校の一斑 附米國開拓時代の學校は其の當時の孤立的個人本位の社會觀を 反映せりとの説

以上はゲリーリ學校とデューイ教授との間接的乃至背景的關係であるが、前にも言へる如く、デューイ教授は直接ゲリーリ學校を視察したる觀察及び感想を其の著『明日の學校』中に詳述して居るのである。吾々は此の記述に依つて、直接同教授のゲリーリ學校に對する見解の如何を窺ふことを得るであらう。今、其の要旨を前數章の記述と成るべく重複せざる範圍に於て次に紹介して見よう。(詳細は拙譯『教育教授の改造』に就いて參着せられたい)。

吾々の營む業務は總べて人事の必要と目的とに役立つものであり、吾々の住む世界及び社會の種々なる交渉、種々なる關係は悉く吾々の營む業務に依つて維持されるものであるから、此の點から見れば、吾々の業務は總べて根本に於て社會的のものである。吾々は従事する業務に依つて他の人々との協働を學ぶので、此の協働の行はるゝ社會は益々繁榮を致すものである。吾々の生活は元來斯く社會生活であり、それが業務に依つて成立するとすれば、業務がなければ眞の社會生活がなく、従つて進歩といふ事實はなくなる譯である。そこで、吾々は各其の業務を系統的に學び、

それに依つて自己を社會に適合せしめ、社會一般の人々と協働することを學ぶ必要が生ずる。然るに、今日の學校は其の教授の方法でも材料でも甚だしく人間生活の社會的基礎を看過してゐる。學校の課業は著しく抽象的方面に重きを置き、學問臭く、非社會的のものである。従つて業務に従事する人間社會とは何等の聯絡がなく、孤立的のもの、個人的のものとなつて了ふのである。

一體、今日の學校の課業の個人的となつたのは、言はば十八世紀の孤立的個人本位の社會觀を基礎としたからである。今日普通の學校にて課する學科乃至作業なるものは、現代の民主的、科學的人生觀を基礎とする社會の要求も理想も無視せるもの、そして只管個人本位の生存競争に適合せしめようばかりして居るのである。米國の開拓時代には住民の少ないのに、廣大なる國土は無盡の富源を有し、萬事自己の力量次第で此の富源を開拓するの機會を捉へ得たのである。それで、當時とも無論社會生活があつたには相違ないが、今日のやうな緊密な組織がなく、従つて自分だけで生活し得たとも言へるのである。各人孤立、我れ勝ち次第といふことは、

大體當時の實際であつたともいへよう。米國の學校は斯かる時代の社會を背景として生れたのであるから、此の社會觀を學校の教育のあらゆる方面に反映したことは、固より當然であつた。當時の人間の考へた學問とか修養とかいふものは、單に過去の知識、過去の死語に通ずることの謂ひであつて、直接實際の生活に就いて學ぶことを意味しなかつた。所謂讀、書、算の知識と、それに少しばかりの自然觀察といつたやうなものが、當時の學校の課業であり、社會に出でて立身出世する上に必要な資格と目せられ、學校は又、斯かる知識さへ與へれば、それで兒童に修養や、學問を授けたものと考へて居つたのである。

産業界に科學の應用さるゝに至り延いて教育の改造を促がすに至つた

此の種の學問修養は、個人にとつて如何に興味あり、個人啓發の具たるものであつても、結局、過去の知識、過去の文學を覚え込ませるだけであつて、如何に現在

の社會生活に活用すべきかを教へざる限りは、到底一種の虚飾たるに過ぎなからう。學問は如何に現代に生活すべきか、社會生活に於ける自己の分け前の何たるか、社會生活に如何に適應すべきかを教へるやうでなければならぬ。一部の富裕閑暇階級だけが學校の學問の御蔭を蒙るやうであつたならば、公立學校の公立學校たる所以が没却される譯である。純然たる知的修養の如きは、一般人にとつては、如何に現代に生活すべきかの道を知つてからこそ、それを修養するの興味も餘裕も出て來る筈のものである。公立學校は自由と民主主義の精神が覺醒するに伴つて勃興したものである以上、一部少數者が其の恩澤に浴するやうな教育であるならば、其の創設の本旨に反し、階級間の疎隔を益々大ならしめ、閑暇のある有産階級に對して、それに都合よき學問修養を與へ、一般民衆をして徒らに失望せしむるに了はるであらう。事實、當時の學校は公立學校とは名のみにて、自活の途を講ずる必要のなき人の爲めのものに過ぎなかつた。そこで、教授の材料は抽象的であり、又、故意に具體的、實生活的、實用的なものとして引離せるものであつた。そこで、今日でも尙ほ

さうであるが、當時の學校の理想は貴族主義的のものであつて、民主主義的ではなかつた。

然るに、其の後、産業に科學の應用された結果、産業界は勿論一般社會生活に一大變革を來たし、懸ては佛國革命、竝に千八百四十八年の一般革命を醸し、舊文明舊制度の改造を生じたことは顯著なる事實である。其の結果の一つとして生れたものは民衆教育であり、其の必要から續々公立學校の興起を見るに至つた。然し、此の公立學校は前にも言へる如く、新たな社會狀態に適合せず、單なる既設學校の復寫たるに過ぎなかつたので、現に此の新たな社會事情に適合するやうに學校を改造せねばならぬ途中に在る譯である。一體、民主主義の社會は科學の應用を以て其の進歩を期するものであるから、徒らに過去の文學や、死語を覺えたところで、到底斯かる新社會に生活し得らるべき筈がない。是れ、公立學校に對して絶えず不満の聲が發せらるゝ所以であり、且つ又、兒童の實際社會を基礎とし均等の機會を與へんとする新たな教育の樹立の必要が絶叫された次第である。

現代社會に適應せんが爲めには舊式學校を如何に改造すべきか

舊式學校に於て改造を要することは、第一に教育の材料、第二に教師が其の材料を取扱ふ方法、第三に生徒がそれを取扱ふ方法の三個である。即ち、教材と教授法と學習法との三方面に改造の斧を揮はねばならぬ。教材としては無論讀み方、書き方、算術、地理等は何時の時でも必要ではあるが、改造すべき點は其の實質であらう。而して、此等既存の學科以外に尙ほ大に附加されるものも出て來よう。例へば、身體の練習、其の發達等に關しては大に顧慮するところがなければならぬ。學校は兒童の心意的生活所たると同時に、身體的にも生活することを學ぶ場處となるであらう。讀み方や、書き方等は之れを從來のやうに唯だ暗誦したり、舊い書物の讀み書きが出来るといふ爲めに學ぶべきものではなく、現代の社會生活に實地接觸する爲めの實用的價值を認むるやうになるであらう。總べてが社會的意義を帶ぶるものとして取扱はれねばならぬ。今日普通の學校に於けるが如く個人的知識獲得の爲め

に學ぶ單なる贅澤物であつてはならぬ。地理に就いても同様であつて、單に種々なる報道を覚え込むやうなことを目的としてはならず、それに依つて複雑なる依立的關係の密接なる現代社會生活を理解するを以て目的としなければならぬ。斯く、教材の意味と價值とが從來と大に其の趣を異にするのみならず、其の數も分量も非常に増加を來たしたのである。

斯く材料が増加したる結果、一個の材料に就いてさへそれに通曉することは殆ど不可能となつたのは止むを得ざる次第である。そこで、教師の教授法も從來とは其の面目を異にせねばならなくなり、教科書中の事實を生徒に讀ませたり復誦せしめたりするやうな遣り方では、到底間に合はなくなつて居る。生徒をして事實を暗記せしむるやうな舊式教授法を全廢して、其の事實を理解し、事實相互の關係及び適用を知る力を養はしめるやうに教授しなければならぬ。そこで、教師の任務は從來の如き案内人、命令者のそれより番人、助力者のそれに變ぜねばならぬ。而して、教師が生徒各個をして其の思考力及び推理力を十二分に發展せしめ、且つ兒童の判斷

力及び作業力を養成するの手段として讀み方、書き方、算術等の諸教科を教へるやうにせねばならぬ。従つて、生徒の任務も從來とは一變し來たり、其の學習の方法も大に趣を異にして來たる譯である。即ち、生徒は受動的より能動的態度に變じ、發問者、實驗者たるに至らねばならぬ。事物の實用、關係、意味等は先づ其の事物を實地に見、實地に取扱つて見なければならぬ。教師は生徒に順當なる材料を得させ、且つ眞實の方法に於て其の材料を使用せしむるやうに仕向くべきである。換言すれば、順當の材料を實際に學校外の社會に存する色々の關係及び状態を示すやうな方法にて使用せしむるやうにすべきである。さうするには生徒に自由を許し、自己を統御することを得しむるに在る。

學校改造の根本義は學校を胎芽的社會と爲すの一事に盡きる

ルソーの思想を汲める教育改造家は何れも教育が社會改造の最良手段であると考へたのである。即ち、教育は個人的の致富や快樂やを増加する爲めには他人を犠

牲に供すべしといふ封建時代又は開拓時代の思想に反抗したのである。それが爲めに彼等は兒童のあらゆる力の調和的發展を可能ならしむる教育の方法を發達せしめた。而して、此の調和的發展を可能ならしむる爲めには、教育を社會化せしめ、學校を實際生活の眞の要素と爲すに在る。學校は學校丈で、社會外部のあらゆる影響の入り來たるのを杜絶し、學校の孤立とならしむるやうなことではならぬ。フレールでも、ベスタロッチでも、其の思想を引いた人々も何れも學校と社會とを結び付け、そして社會的精神の養成を計ることに依つて、最良の教育を生ぜしめようとしたのである。唯だ彼等は學校と社會との關係を計つた丈で、未だ學校を一個の胎芽的社會たらしむる方法を講じなかつた點は遺憾である。これ當時一般民衆教育の要求が痛切でなかつたので、社會は學校を其の樞要部と認めるまでに至らず、兒童を大人の縮圖と見るの思想が明らかにされなかつた爲めに外ならない。

一體、社會は學校を生活化する上に大に盡さねばならぬ。これは學校が學校を生活化する上に盡すのと同じく大事なことである。學校を社會から孤立したるもの、

社會の樞要部にあらざるものと見るやうな社會では、學校の方に如何に巧妙なる教授が行はれても、到底さしたる効果がなからう。之れに反して、學校を以て社會實際の效用を爲すもの、警察や消防などの如く社會全體の安寧幸福を計る役目を學校が盡すものであると認める社會、又、學校は生徒が在校の間丈け間に合へばよいやうな教育を爲すところと認めざる社會、かやうな社會は必ずや社會化せる學校を設立するであらう。社會的精神と社會的興味とを涵養し助長するところの學校は、獨りかゝる類ひの社會から生れるに相違ない。此の點から見ても、學校の社會化を期し、兒童のあらゆる生活を過不及なく伸張せしむるやうな學校組織は、實にゲリーリの公立學校であらう。

ゲリーリ學校の背景たる根本的思想並びに創案者ワート氏の根本問題

以上にデュロイ教授は現代公立學校の本質及び改造の主眼點を説き、ゲリーリ學校の

如き組織の生れざるべからざる所以を暗示して扱て言ふやうには、最近インディアナ州ゲーリリに於ける公立學校制度に就いて少なからず記述されて居り、或は其の學校管理上の新奇の特色を説いたり、或は特に其の學校の職業教育の萬遍なき用意を爲すことを説いたりして居るが、此等はデュレイ教授から見れば、皮相の見解であつて、此等の新特色の背後には最大なる根本觀念、即ち社會的、竝に共存團體的の根本觀念のあることを逸して居る以上は、未だゲーリリ學校の真相を捕捉し得たものといはれない。即ち、デュレイ教授に據れば、ゲーリリ學校は之れを兒童の社會、兒童のあらゆる生活を爲さしむる共存團體たらんことを期して居るのである。教授の所謂胎芽的社會を實現せんとするのが根本思想なのである。

一體、ワート氏は此の鋼鐵市ゲーリリの殆ど初めから此の市の學校を作る機會を持ち、氏は又其の機會を正當に利用せんとしたのである。ワート氏は別に米國の著名なる學校を歴訪した譯でもなければ、優秀なる學校經營者を顧問とした譯でもなく、唯だ自己の教育觀から専らゲーリリ市の爲めに最善の學校を建設しようとしたのである。

而して氏の根本問題は、ゲーリリの兒童をして善良なる市民と爲し、且つ幸福にして豊かなる人間たらしむること、又、然かするに必要な金を成るべく有効に使用することの二點に在つたのである。ゲーリリ學校は決して此處の鋼鐵會社の爲めに良き職工を供給したり、又は諸工場で労働者を養成する代はりに、ゲーリリの學校で教育するやうな趣意で建てたものではなく、工場に於ける作業の教育的價值を尊重するの精神で建てたものに外ならぬ。或は移民の子弟を教育して自恃的の米國市民にする爲めの學校であるとか、或る特殊産業階級の要求に應ぜんとする計畫であるとか種々なる誤解があるけれども、これらは、ゲーリリ學校創案者たるワート氏の考では少しもない。

ワート氏はゲーリリに来る前に、同じくインディアナ州のブラフトン市で視學を遣つて居つた經歷のある人であるが、此の市で、氏はあらゆる階級の家庭の幾千の子女を監督して居つた。當時の氏の問題は、此等の子女が學校を出てから、各自其の職業を見出し、其の職業を立派に遂行するやうに教育するといふに在つた。例へば、

兒童の執る作業が機械の加工でも、商賣の經營でも、家事の處理でも、商館の仕事でも、學校の教師でも、兎に角種々なる仕事に従事して少しも差支ないやうに仕向ける方法を研究したのであつた。換言すれば、ワート氏の問題は單に各自が其の仕事を仔細にやつて行くに必要な知識を一々與へるといふことではなく、兒童の自然的興味と熱心とを何時までも保つやうにし、生徒各自をして自己の心身兩方面の取締りをする事の出来るやうに、又自分で其の他一切の事を確かに爲し得るといふ心を起させるやうに仕向けるといふ點に在つた。

一體、一個の人間として、又一個の米國市民として成功するやうにするといふことが、米國の公立學校の目的であつて、單に生計の途を得るやうに仕向けるといふことは、此の目的の一部にしか過ぎない。前者の廣い目的が成就すれば、自づから後者のことが生じ來たる譯のものである。而して、公立學校の目的に達する最善の方法を決定するには種々なる要素があつて、例へば各兒童の個人的特色、其の兒童を教へる教師、兒童の生活する周圍の事情、學校を維持する自治體とかいふものがそれである。ワート氏の考案は此等一々の要素を全體の學校組織の上に役立たしめ、其の一つをも缺くことなからしめようといふのである。

業務經營の原則に則つて學校を經濟的に科學的に經營するの法

普通の公立學校は其の經營の上から見ると非常に無駄のあることは、何人も氣付くところであらう。同一の經費を使用するならば、成るべく兒童にも、又校費負擔の大人にも大なる利益を與へるやうにするが肝要であらう。普通の學校でも、校舎でも細工場でも其の他の設備でも開校日の半分丈は使用されずに遊ばせて置くのみならず、土曜日と夏休みは全く遊ばせて置くといふ有様である。校舎の建築などは頗る費用のかゝるものであるのに、大部分の時間は少しも使用されない。これ丈けでも非常の無駄である。其の上、學校に來て居る間でも、兒童に對して頗る不完全極まつた教育を施してゐるやうでは尙ほ更、教育といふものは無駄となり、贅澤化して了ふ譯である。そこで、ワート氏はゲリーリ學校を終日開放し、そして、兒童

が學校から歸宅した後ち、路地だの雜關する街路で遊んで居つて、健康にも道德にも共に危険極まる影響を受けるやうな弊害を避けしめ、成るべく長く兒童を學校に止めて置くといふやうにし、在校時間の大延長を斷行したのである。然しそのみで満足せず、更に學校の經費負擔者たる父兄にも此の學校を利用させねばならぬと考へ、大人の爲めには夜學校を開き、夏季講習もやり、又、兒童の爲めには土曜日に補習教授を遣るといふことにし、決して學校を遊ばせて置かぬ方針を採つたのである。

尤もかくするには經費が除計にかゝるから、其の費用を何處かに求めなければならぬことは當然である。然るにワート氏はそれを市の公共費から仰ぐやうな方法を採つて、いやが上にも父兄の負擔を重からしめるやうな遣り方を爲すことは避けたのであるが、それには、一校舎に二個の學校を置く、即ち所謂二重學校の制を採つて、普通の學校の收容力の二倍と爲し、其處から浮き出る節約を以て、以上の種々なる便宜を與へる爲めに供給したのである。それで普通額の教育費で以て、兒童に

學科と工場作業と運動とを課するのみならず、大人に夜學を爲さしむる仕組みにして居る。現に夜學に通ふ大人の數は晝間學校に通ふ兒童よりも多いといふことである。普通の學校では一日の課業は五時間であるが、ゲリーでは二重學校と諸工場と運動設備とが完備して居るから、立派に八時間の課業を兒童に與へ、其の外、夜間も休日も日曜日も大人の爲めに校舎其の他を開放する丈の金員が浮き出る譯である。

身體の健康を計ることは學科其の他の作業と同様に重要視せられる

各學校には一個の體操場と游泳池と運動場とが設けられ、又一日八時間ぶつ通しに付き添つてゐる體育指導者がある。身體練習も他の科目と同じく正規の課業であつて必修科となつて居るが、此の必修の體操科以外に兒童が自由に運動する爲めに一日二時間運動場を使用させる。そこで、兒童は學校に止まつて運動場にて興味あ

る運動を自由に行ふ。扱て體操の方は管理ある運動と器械體操とであるが、矢張り生徒は儀式張つた運動などは好まず、強制的に課せらるゝやうなことを欲せぬといふことである。そこで、校舎内に體操場や、游泳池などを設けたり、又、テニス・コートであるとか、野球場であるとか、器械體操などの設備を色々と整へて居るのである。體育指導者は兒童の各自好きな運動に上達させるやうに仕向けてゐるが、而かも其の運動とても勝手極まるやうなものでなく、一々教育的考慮を拂ふやうにし、有效ならしむるやうにされて居る。それで、兒童は夫れ夫れ自己に適合する身體的發展を期すると同時に、尙ほ愉快にして興味ある自由運動も出来る譯である。

兒童には校醫が身體検査を行ひ、たとひ課業について行けないやうな健康状態の兒童があつても、健康になるまで學校を休ませるやうなことをせず、矢張り學校に來て其の兒童の健康に適する課業を與へ、課業時間は成るべく少くして、一日の大部分は運動場や、體操場にて送らせ、校醫の勸告に従つて色々健康上好適なる運動遊戯を行はしめるのである。斯くの如く、生徒の學課の進歩に對すると同様、周

到の注意を生徒の身體の發展の上にも注いで居るからして、學校は單に學科を教へる所であるといふやうな考ではなく、兒童の自然順當なる生活を爲さしむる一小社會であるといふ考を持たせる譯である。

尙ほ、デューイ教授は一日の課業の時間割、各級一週の時間割等に就き述べ、何れも小さき學級にて各科専門の教師より授業を受くるの便宜等より、兒童には各自の學級室なるものがなく、従つて各自専用の机がなく、その代り各自錠物を持つて居り、所持品置場に所持品を仕舞ひ込むの組織や、教師には學級擔任といふものがなく、唯だ専門の學科丈けを擔任する制になつて居り、又、生徒は各自其の身廻りを仕末する責任を帶ぶといふやうな特色を列擧し、學校長や、教授監督者の任務を説明し、新任の教師より全教員、教授監督者に至るまで協働し、全學校が系統的秩序を保つ所以を説いて居る。此等は大體、前數章の所述と同一であるから省略に附することとする。

ゲリーリ學校では生徒の協働作業に依つて教授及び訓練の實際化に努力して居る

ゲリーリ學校は、訓練に於て、社會生活に於て、又其の課程に於て教會及び家庭と協働し、經費組織並びに地方的影響等あらゆる手段方法をば最善なる教育的目的の爲めに使用せんと努力を爲して居る。學校は其の訓練上一小社會を成し、而かも民主的社會である。其の課業は兒童をして學校に入りたいと思はせるやうに巧みに排列されて居るから、市の吏員が督勵してまでも就學させるやうな厄介をする必要が少しもない。兒童が學校へ入れば、氣樂な感じを覺え、各自其の家庭にて興味と責任とを感じつゝ作業するのと同じやうな氣持になる。又、總べての兒童は所持品置場で顔を見知り、毎時間の終りに教室を換へる際に互に顔を見合せ、他の兒童が現に何を爲しつゝあるかを承知して居るし、又講堂の課業、教室交替制、校具の修繕製作に従事する等の爲めに、生徒間には協働的精神が大に昂まる譯である。それに

生徒會議を設け、生徒全體の爲めと學校の秩序保持の爲めに努力して居る。其の他保健運動もやるといふ風に全校一致の作業を盛んに行ふ。保健運動なるものは、校醫が學校新聞課を通じて英語科及び講堂課業と協力して行ふのであるが、生徒は非常に興味を感じて熱心に行ふ。それで傳染病の豫防に關し實地に教へるのである。單に口先きで豫防注意などを傳へて満足するやうなことはしない。又、化學や料理の時間には病芽や生理に就いて十分に教へ、傳染毒、不潔物などの意味を理解せしむる結果、現に生徒は各自病氣の豫防策を講じ、仲間の生徒が病氣に罹れる時には検査を行ひ校醫に申告するやうなことを爲すのである。

其の他之れと同様の方法に依つて純粹牛乳運動を實行して居るが、それは生徒が家庭から牛乳を持參してそれを試験し、若し不純のもの含まれて居ることが分かれば、それぞれ家庭に對して注意をするといふ風にする。又、蠅退治の運動も始終行はれ、非常に興味を惹いて居る。總べて此等衛生保健上の事柄は市の衛生課と協力するに努めて居り、殊に外國移民區域に對しては特別の注意を拂ひ、家庭に於け

る衛生思想の鼓吹に努力して居る。尙ほ外國移民の住む都會地では、兒童の早退學の問題が困難なる一つとなつて居るが、それを解決する爲めにも、ゲリーリ學校は保健運動と同様の方法を採用し、規則的強制的の手段に依らず、専ら兒童自身の助力を藉り、學校に繼續在學することは明らかに兒童の利益なることを覺らしむるやうな方法を採用して居る。

中學級を繼續履修せしむる爲めには如何なる方法を講ずるや

ゲリーリには中學校が特設されて居らず、幼稚園から大學入學準備をなすまで同一學校にて學ぶ。學年進級式もなければ、第八級即ち普通の小學校程度を卒へたからとて卒業證書を呉れるやうなこともない。勿論第九級、即ち普通の中學校第一級なるものに進めば、今までとは教授日程が異つて來るが、兒童も父兄もこれから四年間即ち普通の中學校の課程は必要のなき單なる贅澤の事柄を學ぶのであるといふやうな考を持つて居らない。教師も従前通りであり、傍々以て今までの繼續に過ぎない

いとしか考へて居らない。否、此の四年間は直接に自分等に價値ある教育を受ける機會と考へて居る。

又、ゲリーリ學校では生徒に此の四年間の在學を繼續せしむるやうに勧める遣り方は如何にも實際的である。即ち生徒自身に分かるやうな事柄を話したり、學校の新開課は時々生徒及び父兄に向つて中學校の教育が如何に有効にして將來有利なものであるかを説明する爲めの報告を印刷配布する。而して此の印刷物には、種々なる統計と報道とを掲げ、中學卒業生と小學卒業生との將來に於ける地位、報酬の差異を仔細に表にて示したり、又、市の實業家を學校に招いて、中學卒業生と小學卒業生の優劣から、何故に工場では教育の餘計あるものを重用するかを理由を講演したりする。斯くして此の學校には第八級と中學校との間隙といふやうな事實が實際になくなり、親達も第八級丈で子弟を退學させる必要を少しも感ぜぬといふ有様である。一體、都會地では兒童の小學校丈にて退學するものが非常に多く、其の表面の理由は、早く職業に従事して家庭の手助けをするといふに在るが、眞の理由は

兒童が學校に對して興味を感じないといふに外ならぬ。然るにゲリー學校には、斯かる心配は除かれて居る次第である。

ゲリー學校にては生徒各自に適合するやうに課業の編制を爲すの融通が利く

普通の學校の課程は兒童各自の能力を顧慮する點に於て頗る間然するところがあり、極めて融通の利かぬやうに出來て居るから、生徒を引止めることが出來ないで、却つて驅逐するの傾向がある。従つて、生徒が興味を以て學校の課業に熱中する譯に行かず、自己の能力に應じて進度を計られる等の方法に缺くる點があるから、課業と自己の努力との必然的なる關係があるといふやうな感じを薄らげしむる傾向がより、其の結果、兒童は學校に興味を失ひ、退學を早め、又多くせしむることとなるのである。然るに、ゲリー學校では、兒童各自に適合するやうに學科の按排を自由にし、生徒と學校とが提携して進むといふ遣り方である。或は生徒に依つては、

或る學科を缺いたり、身體虛弱のものは、運動場の作業を除計にさせたり、學科の不出來なものには、或は一級下のものと一緒に學ばせたり、二重學校の他の一方で繰り返して學ばせたりし、又、或る科の出來のよい生徒は一級上の生徒と共に學ばせるやうにする。兎に角、不出來の生徒でも、出來のよい生徒でも、それ相當に學習して行けるやうに種々講究されて居る譯である。

學校の學科の組み立ては二ヶ月毎に編制換へされるから、生徒は其の都度自由に身分の學科組織全部を變更するのである。故に自分にとつて六ヶし過ぎたり、又はやさし過ぎたり、又は配當の不當なる課業を半年も辛棒して附いて行つたりする必要がなくなる。又、生徒を分けるに學級の法を採らず、學科の進度で決めるのであつて、それには迅速、普通及び遅緩の三種がある。これ亦兒童各自の能力と自然的成長とに應じて分類されるものであるから、迅速生は級より級へと迅速に進められ遅緩生は、自分に未だ興味が覺醒せざる中に無理に學習を強ひられる心配がない。デューイ教授は、此の變通自在の學課編制が立派に奏功するか、又は荒塗りの皮相

極まれる教育法であるかは、實地視察せるものには直ぐ其の前者であることが解かると言つて居る。それに學校の報告書に據れば、ゲリーリ學校では十三歳の生徒中五十七パーセントは七級か又はそれ以上に居るといふことで、これは大概の都會地では見ることの出来ぬ好成绩であるといふ。又、ゲリーリの生徒の大多數は大學入學の準備を爲す普通の中學校生徒と殆ど同一速度を以て卒業するといふ統計が擧つて居る。尙ほこれより更に著しきことは、ゲリーリ學校創立以來八ヶ年間ゲリーリ學校を終りたる生徒總數の三分の一は、今日インディアナ州立大學、高等工業學校、商業大學に入つて居るといふ事實である。而かもゲリーリの市民は主として鋼鐵工場の勞働者であり、且つ其の六十パーセントは外國移民であることに想ひ及べば、ゲリーリ學校並びにワート氏の如何に成功せるかを證明して餘りありといふべきである。

ゲリーリ學校の訓練及び教授の根本基調は社會的動機社會的目的の高調に在り

ゲリーリ學校が斯くの如く普通の學校の課程と大に其の趣を異にしたる動機は、畢竟、さきにもいへる如く社會的である。若し學校の社會的目的を高調すれば、教育の眞の目的は自然に達せられるとは、ワート氏の考である。そこで、公立學校は生徒の要求と性質とを研究すると同時に地方社會の要求を考察し、又地方社會のあらゆる機關を利用することに努めなければならぬ。兒童の健康と地方社會の保健とが如何にゲリーリ學校の課程中に融和して居り、それが一方に於て兒童の興味を促がし、他方に於て地方社會の幸福に貢獻するかは著しき事實である。其の他總べての課業に於ても、絶えず地方社會の利益と日常生活の事柄との關係が保たれて居る。教授に於てはあらゆる機會を利用して、兒童の社會的本能を刺戟せしむる方法を探り、各級の孤立を防ぎ、上級生と下級生との聯絡協働を常に計り、教室は勿論、實驗室でも工場でも皆な全校各級の生徒の共同使用に供する。第四、五級の生徒をして、第七、八、九級の生徒の助手たらしむるのも、此の趣意から出でたるものに外ならぬ。上級生は下級生を世話する中に責任と協働の精神を實際に學び、下級生は上級生の

手傳を爲し、側で參觀し、色々の質問をする中に、一層課業の學習を助けられる。上級生と下級生との間に同一社會の仲間といふ感じが現はれて来る。下級生は上級生に刺戟されて、學校に永く止まらうといふ者を自然に起して来る。

又、いつでも上級生の課業を利用して下級生の教授の助けと爲し、上級生が圖畫の時間に作る地圖や圖表を下級生の自然研究又は地理の時間に使用したり、印刷工場は全校生徒の爲めに綴字表や用紙等を印刷し、校醫は保健思想鼓吹の爲めに美術科及び英語科の課業に貼札や小冊子の作製を依頼する。又、學校の廊下には學校にて舉行する事項を揭示し、優秀なる圖畫、地圖、圖表等を揭示し、各工場に於ける行事も亦全校生徒の見又知らざるべからざる事柄の揭示を爲すのである。尙ほ全校生徒の學校精神を刺戟する爲めに講堂を利用する。講堂は如何なる生徒でも必ず毎日一時間だけ使用する。或は合唱歌を奏し、或は上級の物理學實驗もあれば、料理科の獻立表も此處で配られ、校醫の地方社會に於ける衛生狀態の講話もある。講堂は又、市民の爲めに公開され、牧師政治家實業家等が來ては講話を爲すことにして居る。

次に應用課業も亦社會的目的に供せられるので、生徒は公立圖書館に行つて讀書し、青年基督教協會に行つて運動したり説教を聴いたりするし、又、親達の許可する教會へ行つて宗教教授を受ける。又、應用の時間は工場や運動場に於ける實際的作業に依つて、普通の學科の補足をもやつて居る。例へば、算術科ならば、運動場に家屋の設計などを試みて應用算術の稽古をしたり、學校の賣店に一時間を送り、其處にて暗算や口算の稽古を爲し、又、店屋ごつこをして英語の練習をする。又、速記、タイプライティング、簿記などを學ぶ上級生が學校の事務所に行つて書記の手傳を爲し、一時間實地作業をし、又第五級の生徒等は此の時間中に學校の倉庫にて、備品の取調べや配附などをやる。各工場に於ける生徒等の事柄に就いては、應用の時間に於て他の生徒が之れを記録する。俸給を貰つて居る一人の帳簿掛が帳場を管理してゐるところへ、生徒は工場の教師が一杯に書き込んだ傳票を持參して入つて來ると、生徒の書記等は此の傳票に書き記されたる生徒各自の作業成績に關する工場教師の證明を見て、一々記録に留めて置く。その他、學校に來る郵便物の仕末や、

教師の俸給割符の交附から、受領證の集め方までもやる。一體、かくする中に生徒等は算術や簿記を學ぶのみならず、責任感と信頼とを學び、學校の精神をよく理解し、學校の安寧幸福を絶えず念とするに至るであらう。即ち、學校と自分等との利害を同一のものと考えるに至る次第である。又學校の晝食堂の管理は料理科に屬し、生徒の給仕人が料理せる食物を配り、獻立も勘定も自分等でやる。そして化學科では食料分析をやり、榮養價値の比較表を作る。日々の獻立は食品の榮養價値と價格とを附して揭示され、晝食堂の壁には食物原料の比較價値を示せる貼札と圖表とが掲げられ、安價にして滋養ある食事の見本獻立と、浪費に終りて滋養なき食物の見本獻立も陳列されるといふことにして居るが、これらはすべて料理科で一々實地試験の結果を發表したものである。

ゲリーリ學校の公民科は書物に依らず實地應用の作業に依つて學ばる

ゲリーリ學校には公民科を教科書で教へることはないが、生徒が學校の管理の手傳ひをしたり、控所や運動場の規則を造つたり、圖書館に行つたり、或はゲリーリ市の公職に在る人々から其の事業の講話を聴いたりして、公民科を學ぶのである。其の他模擬的演習に依つて同じく又、公民科を學んでゐる。例へば、生徒會の選舉等で、黨派とか、豫選會とか、選舉小屋とか、投票とかいふことを模擬的に學ぶ。又、手づから學校の道具を造り、セメントの歩道を造り、其の價格を承知するからして、斯かる生徒が年長じて大人となれる場合には、歩道も公共の器物も破壊することなく、公共事業や改良事業に参加することに就いて、萬事抜目なくなることは言ふまでもなからう。保健演習や、市の公共機關の模倣や、講堂課業等は何れも生徒自身に興味ある公民科の課業となる譯である。兎に角萬事實地に行ひ、實地に見聞することに依つて、公民科を學ぶといふ仕組みになつて居るのである。

扨て、此の實地公民科は生徒自身の爲めと、親達の爲めとの二重の意義を有するものである。一體、ゲリーリ學校の生徒の父兄は外國生れのものが多いが、此等の父

兄は市の政治を初め市民生活に關する知識が乏しい。往々市政に疑念を懐いたり、法律衛生の思想に缺けたり、社會生活に適合しなかつたりするので、彼等の子女を通じて公民的知識と實地とに通ぜしむるやうにするのは、非常に意味のあることである。尙ほ學校では生徒に向つても、彼等の親達に向つても、米國人の生活標準を教へようとして居る。入學の際、生徒は單に其の姓名、年齢、住所を學校事務所に届け出るのみならず、其の家族の人々、其の家の大きさ、其の資産、家風等までも報告させる。而して此の届書は學校に保存して置き、若し生徒が轉校する際には、先きの學校に送る。學科教師は各自學校區内を小區分して、其の各小區の校外監督の任に當り、各區の生徒は各區の地圖を造り、それには街衢、歩道、瓦斯燈屯所、郵便函等の在處を初め、家屋、物置、小屋、空地等を一々明記し、變更ある毎に添削するのである。生徒等は各自の家庭の部室を測量して學校に持參し、家屋の床の圖取を爲し、教師も其の受持區の地圖を作りて此等は一切學校に保存し、教師はそれに依つて各學區及び各生徒の家庭の完全なる地圖を得、さきの家族名簿とを併せ見て各家庭が

順當なる道德的並に衛生的狀態の下に生活するや否やを知るのである。

教師の學區受持の任務には非常に大なる社會的意義が存する

教師の受持學區は可成り小區域のものであるから、それを徹底的に知悉することが出来るやうになつて居る。若し區内の家庭にして無學又は貧困より不良狀態に陥つて居ると分かれば、教師はそれに對する救濟策を講じ、兒童と家庭とをして其の生活改良を計るに努めしめるのである。若し非常に境遇不良ならば、學區内の他の兒童をして、其の區の輿論を喚起させ、時々講堂の時間を利用して右の地圖を示し學區及び附近地の善悪色々の特徴を指摘するやうにする。兒童はそれを聽いて親達に傳へ、家賃や設備等の高下、便不平等に就き親達の參考に供するやうに仕向けられる。親達も兒童に一再ならず新報道を聞かせられ、同じ家賃ならば、不衛生的な雜閣せる裏長屋に住むよりも住心地よき階上生活に移る方がよいといつて、移轉するものも決して少くないといふ。そして、兒童も親達も學校の此の注意指導を當然

の學校の任務であると考へて居る。斯くの如く、學校では善良なる市民性と社會生活の理論を教へるのみならず、兒童に實地の事實及び状態を知らせ、それに依つて惡なるものを認めて、それを改良する方法を自から工夫させるやうに仕向けるのである。

斯くゲリーの學校は地方社會を成るべく利用し、それを教育上に役立たしめようとして居るのである。學校は斯くして直接に善良なる報酬を其の地方社會に與へて居る。而して機敏にして聰明なる市民を造つて地方社會に報いてゐることは言ふまでもない。デューイ教授の言に據れば、勿論ゲリーの狀態は理想的ではなく、同じ大きさの都市に比して、此の市の教育費は敢て多額でなく、教師とても他の都市のそれに比して敢て優良でなく、生徒は大概子女の教養を與へざる家庭より來り、而して親達は全く新たなる周圍の境遇に適合しようとしてゐるものである。斯かる特別に境遇の良好ならざる處に在つて、而かもゲリー學校は優秀なる業務經營の手腕を以て、市民の納附する税金を經濟的に使用し、それに依つて兒童に有效なる教育

を與へ、出來るだけ教育的便宜を與へて居る。而してデューイ教授は結論して言ふやうには、其の學校組織の結果として現はれたる校舍設備や、運動場や、機敏快活なる生徒や、在學期間を通じて生徒の學力の進歩する事實や、其の後の社會的活動に關する諸種の統計等を見るにつけ、又、此等の事實が普通の公立學校にて使用される經費を以て優に成就されることを想ひ合はせれば、二重の意味に於て、ゲリー學校の成功を認めねばならぬと言つて居るのである。

ゲリー學校の作業教育を與ふる根本原理は那邊に存するか

次にデューイ教授はゲリー學校に於ける實業教育に就いて、大要左記の如く述べて居る。米國の或る都市に於て兒童に對して生活の總べての活動を理解せしめ、併せて生計の道を得しむる重大なる職業をも理解せしめんが爲めに施す所の教育上の新實驗は確に今日試みらるゝ實業教育の模範的施設と認める事が出来る。從來米國に行はれたる實業教育上の實驗は、概ね地方社會に最も廣く行はるゝ産業に依つて

與へらるゝ材料を採つて、其の基本と爲したるものであつて、其の結果、生徒に一個若くはそれ以上の特殊の職業の練習を爲さしむるに終はれることは事實である。然し、苟くも教育及び地方社會の福利を眞面目に増進せしめんが爲めに實驗に着手したるところに於ては、斯かることは決して其の目的ではなかつた。教師の興味の中心は或る一個の産業の繁榮に存せずして、地方社會の兒童の幸福に在つたのである。若し或る地方社會の物質的繁榮が殆ど全く一二の産業に基くものならば、其の地方社會の個々人の幸福は明らかに此等の産業と密接なる關係を持てるものであらう。然らば即ち、兒童に自己の能力及び其の環境を最も聰明に使用することを教へる教育的目的は、此等の産業を此の教育の嚴密なる功利的方面の材料として使用するれば、一番たやすく達せられるであらう。然し一般的の公立學校の教育の問題は決して或る職業の爲めに作業者を養成するに在るのではなく、實に兒童をして其の環境を使用せしめ、それに依つて作業の誘因と意義とを覺らしめんとするに在るのである。ゲリーリの學校に於ては、他の都市に比して最も完全にこれが行はれて居る。ワート

視學は兒童に對する筋肉の練習並びに五官の練習の價值を確信し、其の爲めに人爲的なる練習を規定することなく、兒童に向つて日常生活の業務に於て親達が營むものと同種類の、そして又、筋肉の熟練並びに見事なる調節を喚び起すところの作業を與へて居る。

ゲリーリ學校に於ける諸種の工場は如何なる經營法に據るものなるか

デューイ教授はゲリーリ學校に於ける種々の工場設備に就きて述べ、扱て斯かる多種多方面の工場の經營費に關説して言ふには、此等の工場の設備及び運轉に要する金額と地面とは、第一には既に述べたる所謂二重學校組織に依り、第二には普通の學校に於ては修繕に要する費用は其の學校の負擔に屬し、而してそれを請負師に支拂ふのであるが、ゲリーリでは斯かる費用は諸工場の爲めに流用さるゝか、又は工場にて教へる熟練職工の俸給に供せらるゝといふ事實に依つて、普通の定員を有する

一學校丈の豫算額ほどにも達しないといふことになつてゐる。而して、校舎は夏季休暇の間に修繕を爲す學校よりも却つて立派に修繕される。何故なれば、何事かを取り極めねばならぬ場合には、忽ち其の方面の作業を工場にて營んでゐる生徒が寄つて職工教師の指導の下に修繕作業に取りかゝるからである。而かも此の學校の諸工場は夫れ夫れ専門的の作業に従事する中學程度の生徒も使用すれば、又職業科の爲めの數學並びに夏季學校に依つても使用されるからして、決して贅澤物、不經濟の施設とは考へられない。學校執務規定には、此の方法の效果に就いて、左の如く書いて居る。『兒童をして一日八時間丈の作業、學科及び運動に於て十二分の活動を遂げしむる學校を設備した時には、各工場に在る兒童をして十分に熟練せる男女の指導及び助力を受けて、學校の設備の修理並びに防護に對する責任を負擔せしむることは、極めて簡單容易のことである。斯くすれば、納税者から規定外の出費を仰がずして、優に兒童に對して一個の工業兼商業學校を供することとなる』とある。

手先きの作業は兒童の推理及び判斷の力を發達せしむるやうに
仕組まれる

一、二、三級の生徒は一日一時間手工練習及び圖畫に費し、簡單なる手先きの仕事を工場に於いてなく、特別室にて作業する。繪を畫き、色塗したり、粘土細工をしたり、裁縫や、簡單なる木工を稽古する。四、五、六、七、八の五級生は手工練習及び圖畫を下三級生の丁度二倍丈の時間を費す。下級生は上級生の助手兼見學者として工場に行き、それから頻繁に理科實驗室に行く間に、何時しか上級生の有する位の理論及び作業過程の理解を持つやうになる。又、圖畫の課業も簡易なる手細工も、獨立の問題を解釋することより生ずる一定の手先きの統御及び技術の練習を與へる爲めに繼續される。年少兒童は非常に創作を好むものであるから、それは彼等が上級になつて教師の徒弟として其の行くべき工場を自ら選擇するに至るまで繼續される。六級以上の兒童は校舎を修理防護する實地作業に着手し、最早上級生の助

手兼見學者をやめて獨立作業を爲す。校具の分配や、學校報告の記録や、校地の取り片付け等は學校事務所か、又は植物實驗室の指圖でやるのであつて、矢張りペンキ塗りや電燈修理などと同じく工場作業の一課程を成す。其の他、保温並びに電氣装置も實地に其の原理及び作業過程を學ぶのである。ゲリーリ學校の工場科及び理科は一年三期に分れて居るが、それよりも短期なる五週間一期の見習科もある。塵に角一學年間に三個の工場科を取らせることが、生徒に向つて何れの種類の作業でも其理論及び作業過程の單なる皮相的知識をしか與へぬ結果になるかも知れないが、然し、それで結構である。何故なれば、生徒等は大王や、電氣工や、仕立師たる爲めに其等の科を取るのではなく、唯だ如何にして實社會の業務が爲されるかを學ぶのであるからである。一の作業から他の作業と轉する間に、彼等は同年輩の兒童が理解する丈けの實業の理論を學ぶと同時に、過不及なき筋肉的並びに感覺的練習を確かに得る效がある。同一種の筋肉的活動に餘り長期間發育盛りの兒童を縛るのは心身二方面に害がある。兒童は盛んに成長して行くから、其の爲めには彼等の身體全部を

練習するやうに作業を與へなければならぬ。而して作業は、兒童に幾多の問題を與へ、絶えず新たなる事物を教へ、そして其の推理力及び判断力を助長せしむるのである。如何なる作業でもそれが隅から隅まで熟知されて、別に新問題、新事物を提供せぬやうになり、自動的になつて了へば、最早や教育的ではなくなる。

ゲリーリ學校に於ける第三級に至るまでの職業教育の一斑

ゲリーリの労働者の大多數は東部歐羅巴の移民であるが、ゲリーリ學校では此等移民の子弟に對しても、教育ある米國人の子弟と同様の職業教育を授くるのである。即ち自分等の居住する地方社會の爲めに自分等の能力を使用することを眞實に學ぶやうにするのである。此等移民の子弟が公立學校系統に屬する日中托兒所でも、幼稚園でも、小學校の第一級でも兎に角それに入校する時からして、周圍に實地行はるる作業を發見させられ、如何にして其の作業を爲すかを學ぶやうに仕向けられるのである。例へば、托兒所では玩具遊びに依つて身體各機關の統御を練習させられ、

それから十分に養護上の注意をされるので、無意識の裡に衛生や正しき生活法の理論を多少でも學ぶ。又、幼稚園では成長盛りの身體を練習して、有用正確なる動作及び調節を完ふする作業を營む。小學校下三級では読み書きを教へ、そして書物から來るところの理論的知識の十分なる基礎を得させることに重きを措かれる。又、其の身體的成長を完ふせしむる爲めには、運動場にて遊戯運動に一日約二時間を送り、自然的に自己の全身體を發展せしむる運動を爲し、遊戯的満足の爲めの色々な遊戯を爲す。これと同時に、特に職業的なる練習、即ち實際的なる衣食の資を得る業務の初步的練習に着手する。原始人が使用せると殆ど同一の方法で文明の初步に屬する種々なる材料の取扱法を學ぶ。而して、此の方法が現に其の年齢に在るものの技能及び理解の程度に適せる方法であると看做されて居る。又、小さき手織機で粗布を織つたり、粘土で皿や其の他の日常品を造つたり、蘆やラフィアで籠を造つたり、鉛筆と繪具とで何か描いて美術品製作の快感を満足させたり、針と糸とで囊や前掛を造つたりする。すべて此等の活動に依つて、日常生活に必要な物品を製造

する初步を學ぶ。機械と裁縫とは、如何にして吾々の衣服が造られるかを教へ、模塑及び圖畫は總べて此等の作業に藝術的傾向を帯びしめる。而して人生に於ける極めて簡單なるものでも、尙ほ吾々に必要なる自己發表の方法を與へる以外に、それを美化し得らるゝことを學ぶのである。

次第に職業的傾向を加味する第四級以後の工場作業

第四級に進めば、最早や個々離れ離れの物を製作することを爲さず、作業は次第に職業的傾向を帯びて來る。又、遊戯に對する興味が稍々薄らいであるから、其の爲めの時間を減じて作業の時間を増す。女生徒は仕立科に行き、最初二年間は助手兼見學者として働き、七、八、九級の生徒の作業を手傳ひ又は目撃する。而して、三個月毎に他の科に移り、例へば料理科に移るとか、圖畫が好きならば、其の方面の才能を發展せしむるに好都合なる工場の作業に移るといふことになる。男生徒も三個月間作業の練習を爲すところの工場を選定し、木工場にては簡單なる學校用具

を製作し、鋳鑄又は鍛工場に入れば蹄鐵を打つ手傳をしたり、上級生が學校の机につける鐵の臺を造る手傳ひをする。五級及び六級の生徒は少くとも一科だけの倉庫管理の練習を選ぶ。即ち、保管者と共に學校倉庫に入り學用品目録帳を手にし、工場及び外部から來る材料の仕末をし、學校事務所の請求書を受けて材料の交付を爲し、帳簿の適當なる個處に登録し、實地に簿記の稽古を爲し、物品供給部の裝置運用の任に當る。又、物品の價格をも一々學ぶからして、市が如何に市民の税金を使用するか、若しくは商店に於ける一般商法を可成り承知するやうになる。その他、學校銀行に行き、簿記、商館事務、銀行事務等の實地稽古を爲す。

第七級からは總べての生徒は責任ある工場の作業者となる

第七級からは生徒は總べての工場に於ける責任ある作業者となり、而して第八級を終へて學校を退かねばならぬ事情に在る生徒は、此の七級から或る部の工場にて専門的の職業練習を開始することが出来る。若し印刷職工になりたいと思へば、此の

一學年間、學校新聞の課業を爲し、又、商館事務員たらんとするものは、専ら簿記部の作業に従ふといふ風にする。又、女生徒は第七級に達して初めて食堂の作業に對する責任を取り、獻立の考案及び食料購買の仕事を爲し、又、帳簿に記入する。裁縫の作業は益々複雑なる産業的色彩を帯びて來るし、其の他雛型の圖取及び圖案を學び、帽子製造科に入ることが出来る。商館事務を練習する生徒には、益々其の課業を増加して、速記術や、タイプライティングや、商賣の方法等を多く加へる。美術の課業も亦増加して、圖案や金屬細工等に着手する。作業部に於ける小學程度の作業と中學程度の作業とは別に其の間に破綻がなく、唯だ上級になれば、作業が自然に専門化し、生業化して行くといふ丈けのことにしか過ぎない。作業と學課とは、同一價值のものと認められて居るので、學校では、大工又は左官とならうとする生徒も、大學に行かんとする生徒もまさしく同年限の在學が必要であるといふ公平穩健なる態度を採つて居るが、而かも其の結果は、大學に進む生徒の率が頗る高いといふことである。

ゲリーリ學校に於ては作業の年限よりも生徒各自の作業の業績に 依つて進度を定める

ゲリーリ學校の作業は、學科の方面と同じく其の業績に依つて進度を決められ、決して年限を以て決定されないのである。尤も生徒は卒業するまでには工場に於て一定時間数だけの作業を修得しなければならぬが、然し兒童各自の要求に適合せしむる爲に、敢て三箇月間の作業期を通じて單に出席したりといふので信用の程度を左右されるものではなく、各兒童はそれだけの時間を費して造り上げたる作品に對して、工場教師から信用證明を與へられるのである。作業の進歩には一定の標準が規定されてあるから、總べての生徒が過不及なく練習を積むことが出来る譯である。何故といふに作業の遅き生徒は費したる時間の長さの如何を問はずに、單にそれだけ出来あがつた業績に對して信用を得るし、作業の速かなる生徒は、假令、普通の標準を越えて居つても、矢張りそれだけ爲せる業績に對して信用を得るからである。

信用を得れば、それで信用證書を受け、而してかゝる證書を八個だけ得ればゲリーリ學校の作業課にては卒業に必要なりと認める作業だけは履修した譯である。

又、大都會の勞働者子弟の一般に考へるところでは、十四歳以後の在學を繼續する必要があるものは、教師たらんとするものだけのことであつて、他の者は十四歳にて商店や工場に行つて少しも差支のないものであるといふのであるが、ゲリーリ學校の生徒は入學の初めから、中學程度の最終年に在る男女の生徒の工場作業を實地に見學して居り、そして彼等が市の實地の工場に於ける少年勞働者に比して、非常の利益があり、一層餘計の収入があり、資格の高き仕事を爲し、一層それを立派に爲すものであると考へて居る。學校の工場に於て、ゲリーリの生徒は自分の選擇せる作業の範圍並に可能限度を承知する事が出来るし、其の作業に就いて更にどれだけの事柄を學ばねばならぬかを承知して居る。而して、此の職業に従事する勞働者に關する各般の統計を熟知し、技能の程度に應ずる賃銀の多寡を知り、又、更にどれだけの練習期間が要るかを也能く承知して居る。従つて、十四歳で學校を退くものも比較

的に少く、又一旦退いても其の多くは再び夜學又は日曜講習等に入り來る譯である。

作業にも學課同様に遅緩普通迅速と三分し兒童各自に適合する

やうに按排されるが故に中途退學者は極めて少い

一體、ゲリーリの學校に中學程度の四年間在學を繼續する生徒は、大學に進むと否とに拘はらず、何れも現に自分の爲して居る作業の目的を承知して居る。若し生徒が、商館事務に入らんとするならば、彼は恐らく初等中學級程度の免狀を得ざる中にさへ、其の業務の目的に合致するやうな課程を取るであらう。然し、彼は商館事務の初步に於て、單なる金儲けの早道を取らうといふのではなく、飽くまでも廣い見識を得る上に必要なあらゆる作業を爲さうとするのである。勿論、彼の作業の中にはタイプライティングも、速記術も、簿記も、計算法も、帳簿整理法もあるが、それと同時に其の作業を有効に爲し得るに十分なる丈の英語、文法及び綴字等の練習も含まれて居る。其の他、歴史、地理、理科等も含まれ、それに依つて、益々作業

を興味あるものと感じ、自己の全生活を豊富ならしむる一般的知識の背景と爲すのである。大學入學準備を爲す生徒は、勿論それに必要の學科を學ぶには違ひないが、それと同時に多くの工場作業をも爲す。これは普通の中學などでは却々其の餘裕がないものと考へられて居る。一體、職工が自分の取扱ふところの機械の設計原理や工場に於ける電力装置の原理を知るとは大事なことに相違ないが、それと同時に頭腦労働者が職工の爲す作業の實地を承知することも亦同様に大事である。ゲリーリ學校の作業はすべて斯かる意味に於て全く職業的のものである。即ち、生徒が學校を退くまでには兎に角或る一個の職業の諸過程を學ぶやうに出來て居る。而かも生徒は將來如何なる業務に従ふとも、これを以て眞の職業、眞の職務であると考へ、單なる賃銀の爲めの仕事に過ぎぬものであるとは毫頭考へて居らぬのである。

ゲリーリ學校の總ての作業は生産的、産業的のものであるから、其の作業練習の價値は大に加はる譯である。總ての工場は學校の爲めの製造場であり、其處の商業部は學校事務所を實驗場と爲すの觀がある。女生徒は裁縫科に於て其の使用する衣服を

造り、料理科に於て自分等及び他の人々の食事を料理する。理科實驗室は工場の作業を取つて理論の説明材料に供し、又、化學は食物の化學であり、植物及び動物は學校園や、學校動物園の仕事をしなから學ぶ。圖畫には着物の模様畫きや、家屋の裝飾や、金屬細工場用の雛型描き等が含まれる。算術科は木工場の爲めの問題を解き、英語科は印刷工場の作業に必要な知識、即ち普通には分節法、綴字法及び句讀法等に重きを措く。扱て此協働の結果は、教科書一點張りの練習よりも一層よく教科書を學ぶやうになる。一體、實際の世界が大抵の人にとつての眞實の世界であつて、觀念の世界といふものは、それが實際の世界、實行の世界と結び付いてこそ初めて興味を有するに至るものである。而して、作業でも學科と同様に迅速、普通、遅緩の三種に生徒を分類するから、生徒が各自それをやらうと用意する時にやる事が出来るのであつて、仲間の生徒の進度に依つて自分の進度を左右される心配がなくなる。遅緩の生徒も迅速の生徒と同じ丈けの事を學び、迅速の生徒は餘計にする仕事が無い爲めに何時も同じ事ばかり繰り返さねばならぬやうな不都合が起きない。假令、

何等かの理由にて以上の三分類の普通の課程に適合しない生徒があつても、學校では決してそれを拒絶するとはなく、例へば身體虛弱なる者にして、到底作業に堪へざるならば、それに適當せる運動遊戯をやらせて健康の恢復を計るやうにして居る。又、例の二重學校の制を採るものであるから、例へば算術が出来ない生徒には、二つの級で算術の授業を受けさせ、工場作業の劣れる生徒には、同一作業を他の生徒よりも長くやらせる。然し其の生徒の進度は其の級の進度と關係がないから、假令長くかゝつても一向差支ない譯である。學校を嫌つたり、課業について行けぬやうな生徒でも、決して威嚇又は處罰を以て接することをしない。教師はこれは必ず其の生徒の學ぶ課業に缺陷がある證據であると考へ、相共に工夫して、其の生徒に適するやうに課程を組み立てようとするのである。次に理由なしに取急いで學校を退かうといふ生徒に對しては、教師は一旦退學しても復校して自分の好きな課業を自由に稽古してよろしいと教へるのであるが、此の方法で以て生徒を再び學校に取り戻すことが出来る。何故といふに、斯かる生徒は數月間でも兎に角學校を退いて

何處かの工場にて作業したる後、自分の業務を繼續して遣つて行くには、どうしても今までより以上に書物の知識が必要であるといふことに氣付き、そこで、もとの級に復歸することを願ひ出るやうになるのである。又、外國移民の子弟に對しては、一層有效なる取扱ひを爲し、其の年齢に相當する級に入り得るまでは、専ら英語と読み方と書き方とを教へ、それから作業教練を受ける前に短期間學科を學びたいと思ふ生徒は、年齢や級の如何を問はず、其の生徒に一番必要な事柄を授くる級に入れる。又、工場又は部の教師指導の下に在る生徒に出來ない校舎内外の作業は、外部から雇入の手傳ひを得るのでなく、其の方面の作業に従事し、而かも間もなく學校を出でんとする或る生徒にやらせる。而して此の生徒は作業の練習を完了するか、或は社會に出て適當の職に就くまで僅か二三月の間此の仕事に従ふのであるが、彼等には會社又は工場にて貰へる報酬に近い丈の給料を支拂ふ。此の方法に據れば、或は作業練習を完了せずして金儲けの爲めに餘儀なく退學せねばならぬ事情に在る生徒を引き留めて置く効果がある譯である。

第九章 ゲリーリ學校と各方面の批評

ゲリーリ學校の批評中主として其の背景たる教育的原理に對するもの——ゲリーリ學校は公共教育費の負擔を増加せしむるといふ批難——ゲリーリ式を實施する處は市の二大學校に限らるとの批難——ゲリーリ式は非常の經營費を要するが故に之れを模倣し難しとの批難は當らず例へば紐育市の公立學校維持費と比較すれば自明の事であらう——パロズ・ファインマンツ女史の比較報告書は如何なる結論を與ふるか——ゲリーリ學校案は教師の負擔を増すといふ批難と一教師の偽らざる告白——ゲリーリ學校の教育は教授時間等が少いから従つて餘暇が多い譯である——ゲリーリ學校の教授は劃一的でないから特に教師の神經過勞を防ぐ——ゲリーリ學校に於ける自由なる訓練方法は非常に教育の利益となる——生徒間の相互教育が自由に行はるゝ爲めに教師の手續が省ける——在校時間の長さと課業の種類が多いのは生徒の負擔過重を招くとの批難の不當なるはゲリーリ學校の生徒の學校を怠けるもの率の小なる事實に依つて證據立てられる——ゲリーリ學校の職業的作業は生徒を私用に供し又は生徒にとつて餘り早きに過ぐとの批難に對する答辯——宗教教授を教會に任ずるは却つて宗教を公立學校に引入れるものなりとの批難——ゲリーリ學校の宗教教授に對する態度並びに教會にて宗教教授を受くる生徒——ゲリーリ式は唯だ單に學校と教會との公明正大なる

聯絡協働を計らんとするものである

ゲリーリ學校の批評中主として其の背景たる教育的原理に對するもの

今日ゲリーリ學校に對する督學官や、實際教育者側の批評は、寧ろ此の學校施設の背景たる教育哲學、即ち教育的原理に向つて加へられて居るのであつて、此の教育的原理の仔細なる實施乃至遂行に對する反對ではない。苟くもデュレイ教授の教育哲學を奉ずるものは、デュレイ教授自身と同じくゲリーリ學校を以て、これまで計畫されたる最も完全にして、且つ最も賞讃すべき同教授の教育的原理の適用であると認め、所謂進歩的なる『明日の學校』の最善なる諸側面を一切綜合せるものと看做すに吝ならぬであらう。そは免まれ、次にゲリーリ學校に對する各方面の批評を掲げ、それに對して一々答辯を試み、次章に、ゲリーリ學校の評價に就いて述ぶるところあらうと思ふ。

ゲリーリ學校は公共教育費の負擔を増加せしむるといふ批難

扨て、ゲリーリ學校に對する具體的の批評は、殆どすべて、それが一般市民、教師、並びに生徒の三者に向つて一層數層の重荷を増すものであるといふ點に關係して居る。そこで、次に此の三方面に互つて述べて見ることにし、先づ第一の市民一般の公共教育費の負擔過重といふ批難に答ふるであらう。

一般市民の點丈けについて言へば、換言すれば、公共教育費の一點に就いて言へば、ゲリーリ學校は極めて經濟的並びに科學的なる管理の下に經營されて居るが如き普通の公立學校に比較してさへも、尙ほ實際に於て經費の負擔が軽いといふ事實が明らかにされたのである。又ゲリーリ學校が私立の合衆國鋼鐵會社の補助を仰ぐものなりとの批難に就いて、既にさきに論駁して置いた次第であるから、今此處に之れを繰り返へすまい。

ゲリーリ學校は、事實實際に於て、普通の學校と同じく地方費及び州の費用に依つ

て總べて維持されて居ることは、言ふまでもなきことである。ゲリーリの市は、別に其の學校を維持する爲めに餘計の税金を市民に課して居る譯でもなければ、又、合衆國鋼鐵會社が、自分に割り當てられたる地方税以上に餘計の金を支拂つて居る譯でもないのである。

ゲリーリ式を實施する處は市の二大學校に限らるとの批難

それから又、ゲリーリ式を實地運用して居る學校は市の二個の大なる學校丈けに限られて居るといふ考も亦、何等事實に當つて居るものではない。成る程此等二大學校、即ち、エマートン・スクール及びフレール・スクールには全市の兒童の四分の三丈けが收容されては居るけれども、然し、此のゲリーリ式なるものは、全市のあらゆる學校に於て實地運用されて居ることは事實である。

尤も、此のエマートン・スクール及びフレール・スクールの二大學校に於ては、學科作業は下は幼稚園より上は十二級總べてを通じて行はれて居るが、他の諸學校

には、中學級の設けはない。其の中四校は八級であり、一校は六級であり、他の一校は僅かに幼稚園及び小學最初の二級丈けしか設けられて居らない。そこで、右の二大學校を除ける此等六學校には、何等中學部なるものがない。何故といふに、これらの學校は餘りに小さく、且つ中學部の設けある學校が手近かにあるからである。

斯く、ゲリーリの諸學校は其の課程設定の點に於て相異があるが、然し、ゲリーリ式に依つて運用されて居ることに於ては、少しも異つて居らない。即ち、何れの學校にも實際工場作業が行はれて居る。尤も、生徒をして校舎修繕を爲さしむる如き組織の不可能なる學校もあることは言ふまでもない。次に、總べての學校には、遊戯運動及び娛樂休養の諸設備がある。唯だ小さき學校には、游泳池の設けを缺いて居るが、然し、その代はりに兒童等は設備の整つた基督教青年會館を利用して居る。次には又、如何なる學校にも、例の講堂作業を初め、理科、音楽並びに表現の作業がある。更に、如何なる學校にも市立圖書館の分館が設けられて居るか、さもなければ、學校附近にある本館を利用するのである。最後に、如何なる學校も一日の課業

は八時間となつて居る。斯くの如く、年級の多少こそ異なれ、其の教育の運用は何れのゲーリリ學校に於ても、所謂ゲーリリ式なるものに則つて居ることを知るであらう。故に、ゲーリリ式は、ゲーリリ市の二大公立學校にしか行はれて居らぬとの批難は、全くいはれなきものといはねばならぬ。

ゲーリリ式は非常の經營費を要するが故に之れを模倣し難しとの

批難は當らず例へば紐育市の公立學校の維持費と比較すれば自

明の事であらう

次に、ゲーリリ學校は多大の經費を要するからして、それを模倣採用することが不可能であるといふ批難は、事實上支持し得られない。吾々はゲーリリ式なるもの種なる特色ある施設が、經費を軽減せんと努力して居る事實を見て居るし、従つてゲーリリ式の非常に經濟的なることを仔細に示すべき豊富なる統計を持つて居る。ワート視學は、紐育市の依頼に依つて其處の公立學校の改造案を立てたる際、若しも

紐育市の公立諸學校にゲーリリ式を應用するとして、其の經費六百萬弗の支出を仰げば、所謂二部教授を全廢することを得ると算定したのである。千九百十四年に於て紐育市の視學局が單に新式の校舎を建設するのみの爲めに、四千萬弗の經費支出を要求した。而かも、此の新式の校舎は、運用及び維持の爲めに非常の金額を要することは勿論であるが、然し、それはゲーリリ式の諸設備を缺けるものであつた。

然るに、ワート視學は、校舎の多種多方面なる使用に依つて、紐育市の學校數を實際に減少し得て、而かも十三萬二千人の兒童の二部教授を全廢することを實地に爲し得たのである。扱て、此の大事業を爲したると同時に、一日の課業時間も實地に増加され、且つ教育上のあらゆる便宜が二倍以上の能率を發揮するやうになるのである。アリス・バロズ・ファナナンズ女史は、千九百十三年より同十四年に至る日々の平均出席に於て示されたるゲーリリ市の學校及び紐育市の學校に於ける生徒一人宛の教育費の比較を試みたのである。(尙ほ、女史は此の比較の爲めにゲーリリ市のジェファーン・スクールを使用したのであるが、これはゲーリリ市に於ける他の學校より

も紐育市の小學校に一層類似點を有するからである。即ち、其の比較を表示すれば左の如くである。

第一

- (一)ゲーリリ市ジエフアーン・スクールに於ける生徒一人宛の經費(教育費及び給與費を含む)……三二・七二
- (二)紐育市に於ける小學校の生徒一人宛の經費(教育費及び給與費を含む)……四〇・二四

第二

- (一)幼稚園、小學校及び完備せる職業的諸工場を一切備ふる二個のゲーリリ學校に於ける生徒一人宛の經費を擧ぐれば
 - (イ) エマーソン・スクール(生徒總數の三分の一は中學生である)……五六・一二
 - (ロ) フレーベル・スクール(生徒總數の十二パーセントは中學生である)……三二・八五
- (二)紐育市に於ける生徒一人宛の經費を擧ぐれば
 - (イ) 小學校……四〇・二四(前掲の如し)
 - (ロ) 中學校……一〇四・七四
 - (ハ) 男兒職業學校……八六・四八
 - (ニ) 女兒職業學校……一四二・三二

パロス・ファーマンツ女史の比較報告書は如何なる結論を與ふるか

そこで、パロス・ファーマンツ女史は、其の『ゲーリリ學校に關する報告書』中に、此の比較統計に關して、次の如く記して居る。

『換言すれば、フレーベル・スクールに在つては、小學校及び中學校を含めたる十二年の爲めに、ゲーリリ市は生徒一人宛經費三十二弗八五の十二倍、即ち三百九十四弗二〇丈の經費を要する譯である。而して、此のフレーベル・スクールに於ては、生徒總數の僅かに十二パーセント丈しか中學生がないから、普通の學校を代表するものと看做すことが出来るのである。然るに、紐育市に於ては、小學校に於ける八年丈にて、生徒一人宛經費四十弗二四の八倍、即ち三百二十九弗九二の經費を要し、それに中學校に於ける四年の經費は、生徒一人宛經費百〇四弗七四の四倍、即ち四百十八弗九六を要するからして、小學校及び中學校の十二年を通算すれば、實に七百四十八弗八八を要する次第である。』

然るに、ゲリーリ市に於ては、右の三百九十四弗二〇の經費を以て、生徒一人が同時に又、特設の職業學校に於て與へらるゝよりも一層良好なる職業的教養をも受け得る譯であるが、之れに反して、紐育市の生徒は小學校在學中には、此の職業教育を少しも受けることがなからう。假りに、紐育市に於ける小學校及び中學校の教師の平均俸給が、ゲリーリ市に於けるそれよりも三分の一丈け高いといふ事實を許したところで、經濟といふ點にかけては、ゲリーリの學校の方が、他の舊式の方法にて經營さるゝ代表的なる都市の大きな學校とは比較にならぬほど有利であることは、争ふべからざる明白の事實である。』

ゲリーリ學校案は教師の負擔を増すといふ批難と一教師の偽らざる告白

斯くの如く、ゲリーリ式はゲリーリ市に於ても、又は此のゲトリ式を模倣する都市に於ても兎に角市民一般の公共教育費の負擔を何等増加するものでなく、却つて、經

費を減じて教育上の便宜を増し、尙ほ又、大人に對しても非常に大なる教育的便宜を供するものであるといふ事實は、最早や動かすべからざるところであらう。然らば、次にゲリーリ學校案なるものは、教師の負擔を増すといふ批難に就いて吟味して見なければならぬ。

一體、ゲリーリ式の教育が教師に重荷を課するといふ批難としては、此のゲリーリ式の教育が色々と餘計の仕事を惹き起すからして、教師の間には不批判であるといふやうな意味のことが能く言はれたのである。扨て、此の批評に關聯して、特に吾々の記せねばならぬことは、ゲリーリ式は普通の公立學校のそれとは、其の趣を異にせる教育哲學、即ち、教育的原理を設定するといふ一點である。堅苦しき管理及び訓練の方法を以て教育するところの學校にて教育を受けたる教師は、ゲリーリ學校の如き他くまでも教師の創意、教師の獨創的なる考に訴へる學校に適合することが六ヶしいといふ考を持つのは、極めて自然のことであらう。而して、斯かる學校では、他くまでも兒童に對する教師の關係といふものが、他と其の趣を異にし、且つ又、

教授の材料に對して、他の學校よりも一層實地「應用」といふ態度を取らねばならぬのであるからして、何事も軍隊式に規則づくめの教育方法に依つて教育されたる教師は、當然かゝる學校に来て、遣りにくいにきまつて居るのである。

然るに、實際これまでの經驗に徴するに、初めは、斯かる學校に適合することを如何にも苦しいと感じたる教師が、其の後に至つて、却つてゲリーリ式を好むやうになるといふものが決して少くないといふことである。現にパリス學長が其の報告書の中に引用して居るところであるが、或るすぐれた學問の素養のある教師であつて長い間舊式の學校組織の下に教鞭を執つて居つた人が、「余が一年前にゲリーリの學校に赴任して來た時には、ゲリーリの學校が氣に入らなかつたが、今日では漸くそれが好きになりかけたし、ゲリーリ學校の教育法の眞髓を會得しかけたのであるから、此處に永く在任しようと思ふて居る」と言つたといふことである。

實に、此の教師の態度は、苟くもゲリーリの教育方法を會得し、且つそれが教師自身に如何に貴重なる教育的利益を與ふるものなるかを篤と我天するところの聰明な

る教師の態度を代表せるものに外ならない。而して、ゲリーリの市では、或は市として新設のものに屬するし、それに工場通ひの労働者が非常に多數居るし、組織的な社交機關が比較的少ないといふやうな種々なる理由からして、教師、殊に良教師を雇ふといふことは可なりに困難なる問題には相違ないが、然し、それにも拘はらず、大抵の參觀者、視察者は主任教師等の非凡なる個人的才幹に感歎して居るのである。

ゲリーリ學校の教師は教授時間等が少いから従つて餘暇が多い譯である

ゲリーリ式の教育が如何なる點に於て教師に餘計な負擔を課するものなるかを發見するに難いのである。教授する時間は、一日僅かに四時間であつて、それに例の講堂作業の爲めに一時間と應用作業の爲めに一時間としかない譯である。これは、普通の學校の教師が一日五時間の教授時間を持つて居るのよりは、確かに苦しいこと

はない筈である。その上に、總べて教師の宿題なるもの、又は答案調べ、書類調べなどは、學校に居る間に爲される筈であるから、ゲリーリの教師達はベルが鳴れば、それで一日の仕事が終つた譯である。斯くして、ゲリーリ學校の教師の一日の在校時間は、普通の學校の教師のそれよりも實際上短いといふことになるのである。普通の學校では、午後や、夜分でも教師が答案訂正等の仕事をしなければならぬことが往々あるからである。

事情斯くの如く、ゲリーリ學校の教師は十分に餘暇があるから、其の餘暇の時間で以て、學校内及び學校外に於て、善良なる市民として、自から進んで市の安寧幸福を増進する爲めに、應分の盡力を爲すべきものと期待されて居るのである。かの土曜日に開く課業の如きは、順番を以て教師が其の教授に當たる譯であるが、それが爲めには一時間一弗の割合で報酬を貰ふことになつて居る。又、かの『記録教師』の方案に含まるゝ厄介なる世話や仕事は、教師自身にとつて、其の仕事が貴重なる教育的價值を有するといふことからして、確かに相殺されるであらう。

ゲリーリ學校の教授は劃一的でないから特に教師の神經過勞を防ぐ

ゲリーリ式の種々なる特色的施設は、教師の重荷を少くし、特に其の神經過勞に陥らしめざる效のあることは、明白なる事實である。例へば、専門の學科が専門の教師に依つて教授されるからして、級教師、即ち普通學科の教師は教師監督の嚴格なる指圖の下に、自分が餘り得意でない音楽や圖畫の如き學科を教授するといふ責任を免かれる譯である。又、下級に至るまで學科が専門的に教授されるからして、其の爲めに教師は自分の教授する學科を十分に廣く研究し、自分に興味ある學科に只管熱心することが出来る譯である。然るに、普通の學校の教師は、受持の級の總べての學科を教授する必要上、多方面に注意を分散するの弊に陥り易いが、ゲリーリ學校の教師は、斯かる憂がなく、専ら其の専門の學科に注意を集中するの便宜を持つて居るのである。

其の他、進度に劃一的なる標準を規定されず、又、組の生徒が是非とも用意せね

ばならぬところの形式的なる學期試験なるものがなく、生徒の及落といふことが、一齊に總べての學科に就いて行はれるのではなく、寧しろ各學科に就いて査定されることとなつて居るし、旁々又、生徒は課業進歩の程度に従つて級分けをされるのであるからして、これら諸般の事情より、教師の頭腦の働きは非常の節約を來たすこととなる譯である。即ち、教師は一組の總べての學科を受持つたり、時間表に指定されたる時間で以て其の課程を完了したり、試験の爲めに詰込み教授をしたりする等の煩勞を持たぬ譯である。實際、ゲリーリ學校の教師は自分の授業時間を自由に割り當て、且つ課程や學科目を作製する上に發言權を持つて居るのである。尙ほ又、未熟なる教師は、教授する際に、首席學校に於て自分と同じき學科を受持つ主任教師の助力と勸告を受けるは勿論、例の先輩教師よりも種々なる助力及び勸告を受ける便宜がある。斯くの如く、ゲリーリ學校の教師は互に競争者たる間柄ではなく、實に大學各部に於ける如き協働的なる同僚の關係を帯べるものである。

ゲリーリ學校に於ける自由なる訓練方法は非常に教師の利益となる

教授の點に於て教師が多大の利益を受くるのみならず、又、訓練の方法が自由なるところよりして、非常なる利益を教師に與へて居るのも、亦争ふべからざる事實である。ゲリーリ學校の訓練の理想は、最早や教室の堅苦しき軍隊式なる靜肅を保つことに在るのでないからして、教師がこれまで訓練の維持に費して居つたところの精力は、大部分之れを教授の方に捧げることが出来る譯である。ゲリーリ學校の教育の根本基調は、興味だの、應用だの、又は實行に依れる學習だのいふことに在る以上、それから又、教師も生徒も誰れでも同様に、課業の或る場合に何人かを教へると同時に又、何人かから教へられるといふやうな學校に在つては、教師は『兒童をして從順ならしむること』や、又は『兒童の尊敬を博す』ことなどに最早や拘はつて居る譯には往かぬのである。一口に言へば、斯かる學校には教師と生徒との間に、何等公式なる間隔が存せぬ譯である。一體、大抵の教師を惱ませるものは、此の訓

練である。而かもこれが爲めに苦しむ點に至つては生徒の方も同じことであるが、ゲーリリ學校の如く、訓練が少しも堅苦しくない處では、教師及び生徒の二者をして神經過勞に陥らしめざるの效あることは明白なる事實である。

生徒間の相互教育が自由に行はるゝ爲めに教師の手数が省ける

ゲーリリ學校にては、前にもいへる如く、下級生が上級生の作業の『助手及び見學者』となる習慣があり、それに學科も單なる形式一片の誦讀法に依らずして、寧ろ生徒相互並に生徒と教師とが互に語り合ひ、討議推究の法に重きを措くのであるから、これが爲めに教師の手から實地教授の勞を幾分か取り除くといふ便利があると思はれるのである。ゲーリリ學校の教師は、モンテッソリ法に於けるが如く、直接の説教者たらずして、生徒の手引者、乃至相談相手となつて居る。従つて、最早や教材を類別調合して、それを論理的形式に盛つて生徒に提供し、そして暗誦や筆記試験の時に生徒から其の服用させたる教材を其の儘吐き出させるといふやうな、從來

の仕來たりを襲ふものとは考へて居らないのである。否、ゲーリリの教師は、生徒が何れの學科に於ても營むところの實地作業を成るべく多く指導し、又、例の應用の方法を考案工夫し、若しくは生徒の作業を學校社會にとつて實際に役立つものと爲さしめようと専心努力して居るのである。

次に、所謂助手及び見學者組織の行はるゝ學級は、非常の程度に於て自己教育の行はるゝ學級である。上級の生徒は下級の生徒に向つて現に工場若しくは實驗室等に於て爲し居るところの作業を教授し、而して、下級の生徒が其の後自から作業を取るやうになつた場合には、彼れは既に其の作業の材料や、装置や、意味合ひ等に通ずるといふ組織になつて居るのである。斯くして、全くの新しい作業が、いつも初めに教師から手引されねばならぬ必要がなくなる譯である。豫じめ、上級生が手引して呉れるのである。これは教師にとつて、無論非常に大なる勞力の節約となるものであるが、それと同時に、生徒の方から言へば、教師の授業に對して一層徹底的なる理解を進め得るといふ効果がある。又、體操や、組織的なる遊戯運動の課業